

2025 年度 早稲田大学 卒業生調査 報告書

*Report of the AY2025 Waseda University
Alumni Survey*



CHES

Waseda University Center for Higher Education Studies
早稲田大学 大学総合研究センター

本報告書の概要

本書は、2025 年度に実施した「卒業生調査」の報告書である。第 1 章では、「専門科目の仕事役立ち度」と大学での学習経験との関連について検討した。第 2 章では、卒業生は本学でのどのような学びが卒業後の仕事・生活に役立つと考えているのか、自由記述テキストを分析した結果を示した。第 3 章では、卒業生のウェルビーイングの傾向と、入学時・在学中・卒業後の諸要因との関連を報告した。また、「集計データ」部では、グラフ（日英併記）、集計表によって調査全体の結果を示した。本調査の対象者数は、11,238 名、回答者数は 1,521 名であった（回答率：13.5%）。

本調査に協力して下さった卒業生の皆さんに感謝いたします。

第 1 章 「専門科目の仕事役立ち度」と学習経験：パスモデルによる検討

「専門科目の仕事役立ち度」と大学での学習経験の関連を示すパスモデルを作成した（図 1）。専門科目が仕事に役立つと感じるには、やはり大学で「専門科目に熱心」に取り組むことが重要であり、また「よい教員に巡り合えた」ことも直接的・間接的に影響を与えていることが示唆された。さらに同じモデルを用いて、学部系統別の分析も行った。

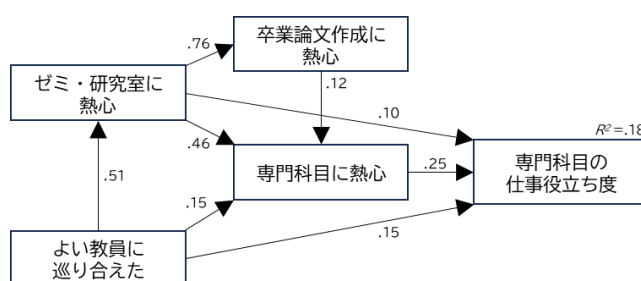


図 1 専門科目の仕事役立ち度モデル

第 2 章 大学での学びは仕事の役に立っているのか：テキスト分析からの示唆

本学でのどのような学びや経験が、卒業後の仕事・生活に役立つのか、自由記述を分析した。まず、テキストマイニングで全体像を把握したのちに、記述内容を読み取った。その結果、大学での「留学経験」や「本学の国際的学習環境」を通じて語学力・異文化理解力を培い、それを国際業務において生かしている卒業生もいた。また学部を問わず、「統計学」が仕事に有用とされていた。「各学部で得られた専門的知識」については、法律、会計、建築、またメディア関連の職種において活用されていることが示された。さらに卒業生は、本学学生の多様性を強く意識しており、「多様な学生との関わりで得られたコミュニケーション力」を幅広い業務で生かしていることが示唆された。

第 3 章 ウェルビーイング (Well-being)

本章では、卒業生のウェルビーイングの傾向と関連要因を分析した。卒業生のウェルビーイングは良好な水準にあり、「他者との良好な関係」や「自己決定感」が比較的高く、「仕事の満足」「人生の意味・意義」「楽観性・ポジティブな展望」が低かった。階層的重回帰分析の結果、GPA は明確な関連を示さなかった一方、在学中に DP（ディプロマ・ポリシー）に関わる力を身につけたという自己評価は、現在のウェルビーイングと結びついていた。また、現在収入、相談できる友人数、現在の学習活動なども関連していた。

Summary of the Report

This report presents the findings and data of the “Alumni Survey” conducted in AY2025. Chapter 1 examines the relationship between the perceived usefulness of specialized subjects for work and graduates’ learning experiences at university. Chapter 2 analyzes free-text responses describing what kinds of learning and experiences graduates consider useful for their work. Chapter 3 reports graduates’ well-being and its relationship with factors before, during, and after university. The “Data” section provides the aggregated results with graphs (in both Japanese and English) and tables. The eligible participants were 11,238, of whom 1,521 responded (response rate: 13.5%).

We sincerely appreciate the participation of all graduates who participated in this survey.

Chapter 1: Usefulness of Specialized Subjects and Learning Experiences

This chapter examines the relationship between the usefulness of specialized subjects for work and learning experiences at university (Figure 1). The analysis showed that perceiving specialized subjects as useful is closely associated with having been enthusiastic about them, and that encountering exemplary faculty members has both direct and indirect effects. Analyses using the same model were also conducted by academic disciplines.

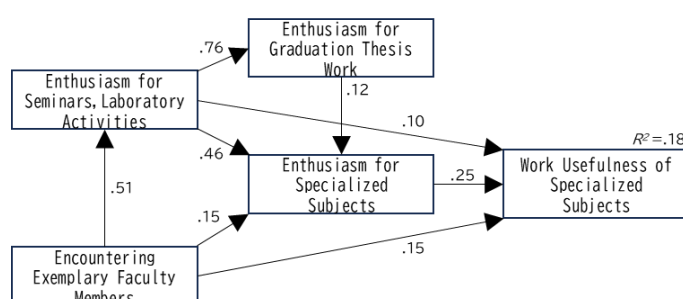


Fig. 1 Model of Work Usefulness of Specialized Subjects

Chapter 2: Does University Learning Contribute to Work?

This chapter analyzes free-text responses describing what kinds of learning and experiences graduates find useful in their work. Some graduates developed language proficiency and intercultural understanding through study-abroad experiences and the university’s international learning environment, and applied these skills in international work settings. Across academic disciplines, statistics was widely regarded as useful for work. Specialized knowledge - such as law, accounting, architecture, and media studies - was reported to be applied directly in related professions. Graduates were also highly aware of student diversity, and many noted that communication skills developed through interactions with diverse peers were valuable in various professional contexts.

Chapter 3: Well-being

This chapter analyzes graduates’ well-being and factors associated with it. Overall, graduates reported positive levels of well-being: “good relationships with others” and “self-determination” were relatively high, whereas “work satisfaction,” “meaning and purpose in life,” and “optimism and positive outlook” were relatively low. The hierarchical multiple regression analysis showed that GPA was not clearly associated with current well-being, whereas self-assessed acquisition of Diploma Policy (DP) competencies was associated with it. Current income, the number of friends graduates could consult with, and current learning activities were also found to be associated with well-being.

目次

序章 調査概要と対象について	p. 4
序-1. 調査概要	p. 4
序-2. 調査対象者の概要	p. 4
序-3. 調査対象者の在学時の学修・生活環境	p. 5
第1章 「専門科目の仕事役立ち度」と学習経験：パスモデルによる検討	p. 7
1-1. 本章の目的	p. 7
1-2. 分析対象・分析方法	p. 7
1-3. 専門科目の仕事役立ち度への着目	p. 8
1-4. パスモデルによる検討	p. 9
1-5. 学部系統別の検討	p. 10
1-6. まとめ	p. 12
第2章 大学での学びは仕事の役に立っているのか：テキスト分析からの示唆	p. 14
2-1. 本章の目的	p. 14
2-2. 分析対象・分析方法	p. 14
2-3. 大学での学びや経験を概観する	p. 14
2-4. どのような学び・経験が仕事や生活に役立つのか	p. 15
2-5. まとめ	p. 20
第3章 ウェルビーイング (Well-being)	p. 22
3-1. 記述統計	p. 22
3-2. ウェルビーイング項目の傾向	p. 23
3-3. ウェルビーイング項目間の相関分析	p. 28
3-4. ウェルビーイング項目と入学時・在学中・卒業後の状況との相関分析	p. 30
3-5. 階層的重回帰分析	p. 34
3-6. まとめ	p. 39
集計データ	p. 41
I. 調査概要	p. 41
II. 調査項目一覧	p. 41
III. 調査データ〈グラフ〉	p. 44
IV. 調査データ〈単純集計表〉	p. 71

序章 調査概要と対象について

「卒業生調査」は、学部卒業後 10 年時点の卒業生を主な対象として、2018 年度より実施している。2024 年度の調査から、他大学部を卒業して早稲田大学大学院（修士課程）に入学した卒業生を新しく調査対象に加えた。また 2025 年度の第 8 回調査では、Well-being に関わる質問項目を加えた。

この調査は大学総合研究センターが実施し、データ分析・報告書執筆については、同センター武藤浩子が序章、第 1 章、第 2 章を担当、同センター山田寛邦が第 3 章を担当し、学生スタッフ中野寧朗・川又亮が分析補助・集計データ作成を担当した。

序-1. 調査概要

卒業生調査は、2024 年度と同様に 8 月～9 月に実施した。調査対象者は、2012 年度に本学学部に入学者、および本学以外で学部を卒業し 2016 年度に早稲田大学大学院（修士課程）に入学した卒業生である。質問文・選択肢は、日本語・英語の 2 言語で作成しており、回答時に言語を選択することができる。オンライン調査ツールである Qualtrics（クアルトリクス）を用いて調査を実施した。

【対象者】	2012 年度学部入学者、および 2016 年度大学院（修士課程）入学者 (昨年度：2011 年度学部入学者、および 2015 年度大学院（修士課程）入学者)
【調査時期】	2025 年 8 月 5 日～9 月 15 日 (昨年度：2024 年 8 月 6 日～9 月 16 日)
【調査方法】	Web アンケート URL を登録されたメールアドレスに送付、および Web アンケート URL 等が 印刷されたダイレクトメールの郵送 (昨年度：上記と同じ)
【対象者数】	11,238 (昨年度：11,023)
【回答数】	1,521 (昨年度：1,408)
【回答率】	13.5% (昨年度：12.8%)

序-2. 調査対象者の概要

調査対象者は、2012 年度学部入学者、および 2016 年度大学院（修士課程）入学者である。対象者には本学学部から本学大学院に進学した者も含んでいる。次の図序-1 では、2012 年度学部入学者の所属学部について、回答者と母集団でそれぞれの割合を示した。なお大学院入学者については、対象者が少ないこともあり示していない。このグラフからわかるように、文学部で回答者がやや多い傾向がみられたものの、回答者が極端に多い、もしくは少ない学部はなかった。

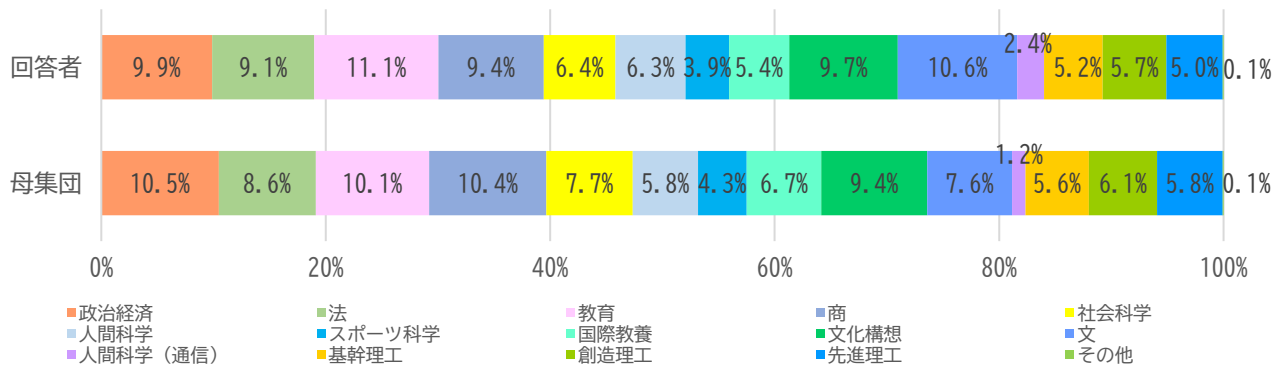


図 序-1 回答者の所属学部（母集団との比較）

序-3. 調査対象者の在学時の学修・生活環境

調査対象者の在学時の学修・生活環境について簡単に確認しておこう。表 序-1 では、2012 年度から 2015 年度頃の比較的大きな出来事について早稲田大学、高等教育政策、社会の 3 つのカテゴリーごとに記載した。なお、2012 年度の前年度（2011 年度）には、東日本大震災のため入学式が中止になっている。

表 序-1 調査対象者（学部入学者）の在学時のおもな出来事

	早稲田大学	高等教育政策	社会
2012 年 4 月/9 月	・ 中長期計画 Waseda Vision 150 を発表	・ 中教審答申「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて」	・ 政権交代（安倍政権）
2013 年	・ グローバルエデュケーションセンター（GEC）設置 ・ 大学院国際コミュニケーション研究科設置		・ 2020 年のオリンピック・パラリンピックが東京開催に決定
2014 年	・ 大学総合研究センター設置 ・ 3 号館竣工	・ 中教審答申「新しい時代にふさわしい高大接続の実現に向けた高等学校教育、大学教育、大学入学者選抜の一体的改革について」	・ 消費税引き上げ
2015 年	・ ナノ・ライフ創新研究機構設置 ・ 地域・地域間研究機構設置 ・ 次世代ロボット研究機構設置		・ 北陸新幹線開業 ・ マイナンバー制度施行
2016 年 3 月/9 月	・ 先端社会科学研究所設置 標準年限卒業		・ 熊本地震

今回の調査対象者である卒業生が学部に入学者した 2012 年には、早稲田大学の創立 150 周年に向けた中長期計画 Waseda Vision 150 が発表された。Waseda Vision 150 では、4 つの Vision が示され、全員留学を目指す

海外留学促進もうたわれている。2013年には、多様な学生に、多様な学びの機会を提供するグローバルエデュケーションセンター（GEC）が設置された。2014年には大学総合研究センター（大総研）が設置され、大学の教育・研究・経営の質的向上に資する大学改革を推進する一翼を担うようになった。このように早稲田大学は、中長期計画 Waseda Vision 150 の発表以降、2032年の創立150周年に向けて、教学に関わるさまざまな改革を推進しているといえるだろう。その試みは、学生の学びや生活にも影響を与えているものと考えられる。

第1章 「専門科目の仕事役立ち度」と学習経験：パスモデルによる検討

1-1. 本章の目的

大学で学ぶということは、専門的な学問を学ぶことでもある。では、その大学での専門的な学びは仕事でも役に立つのだろうか。本学卒業生の認識について確認すると、卒業生の60%以上は「学部での専門科目は仕事でも役立つ」と考えていることがわかる（「集計データ」Q42 参照）。本章では、このような専門科目の仕事役立ち度に着目し、専門科目が仕事に役立つと認識している卒業生は、大学でどのような学習経験をしていたのかについて検討する。さらに学部系統による異同についても分析を行う。

1-2. 分析対象・分析方法

本分析では、「専門科目の仕事役立ち度」をみるために、本学の学部で学んだ卒業生の回答を対象として分析する。これには本学学部から本学や他大学の大学院に進学した者を含む一方、他大学学部から本学大学院に進学した者は含まない。

「専門科目の仕事役立ち度」と、大学でのさまざまな学習経験との関連をみることで、「専門科目が仕事に役立つと認識している卒業生は、大学でどのような学習経験をしてきたのか」を示すことを試みる。

大学での学習経験としては、学部で熱心に取り組んだ活動（「専門科目」「一般教育科目」「卒業論文作成」など）など13項目と、学部での学習経験（「図書館を利用した」「自分でテーマを決めて研究したり、その成果を発表したりした」「研究内容について、他の学生と議論した」など）など10項目を取り上げた。なお、学部で熱心に取り組んだ活動（13項目）の分析にあたり、「経験しなかった」は対象外とした。

「専門科目の仕事役立ち度」と学習経験との関連については、まず相関係数を参照して用いる学習経験を決定し、「専門科目の仕事役立ち度」とそれらの学習経験との関連を説明するパスモデルを作成した。共分散構造分析によりモデルの適合度を確認し、最終的なモデルを決定した。なお、モデルの適合度指標としては、CFI、RMSEA、AICを用いた。CFIは0.95以上が良好、RMSEAは0.05未満が良好（0.10以上は不十分）とされる。AICはモデルの比較に用い、小さいほど良いとされる。分析にはIBM® SPSS® Amos™ 31を使用した。

「専門科目の仕事役立ち度」は、学部によっても異なると考えられる。そこで本学の14学部（通信含む）を文部科学省「学科系統分類表」を参照して4つの学部系統に分類し、学部系統別の分析も行うこととした。学部系統と学部の関係については次のように分類した：社会科学系（政治経済・法・商・社会科学・人間科学）、人文科学系（国際教養・文化構想・文）、教育学系（教育・スポーツ科学）、理工学系（基幹理工・先進理工・創造理工）。学部系統別に分類した結果、それぞれの回答者数は、社会科学系：597件、人文科学系：354件、教育学系：205件、理工学系：219件、計1,375件となった。このように学部系統別の回答者数は十分大きいとはいえないものの、このデータを用いて次の順番で分析を行う。

- ・ 専門科目の仕事役立ち度の確認
- ・ 専門科目の仕事役立ち度モデルの作成

- 専門科目の仕事役立ち度モデルの検討：学部系列による比較

1-3. 専門科目の仕事役立ち度の確認

本学学部卒業生を対象として、「専門科目の仕事役立ち度」について、「経験しなかった」を除いた回答の割合を示したのが図1-1である。学部で学んだ専門科目が「かなり役に立っている」「やや役に立っている」と回答した卒業生は、60%以上であった。

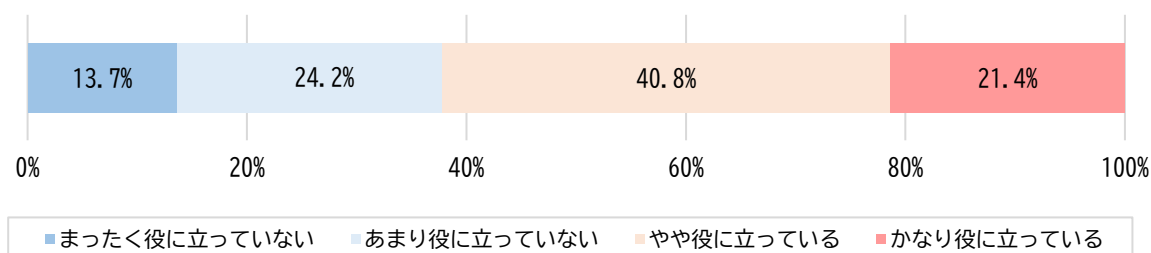


図 1-1 専門科目の仕事役立ち度

次に「専門科目の仕事役立ち度」が、学部系統で異なるのか確認しておこう。図1-2で示したように学部系統によって差があり、「かなり役に立っている」「やや役に立っている」と回答した卒業生の割合は、社会科学系では65%以上、人文科学系では60%以上、教育学系では50%以上、理工学系では75%以上であった。このように学部系統によって差があるものの、どの学部系統においても半数以上の卒業生が、学部で学んだ専門科目は仕事の役に立っていると考えていることが示された。

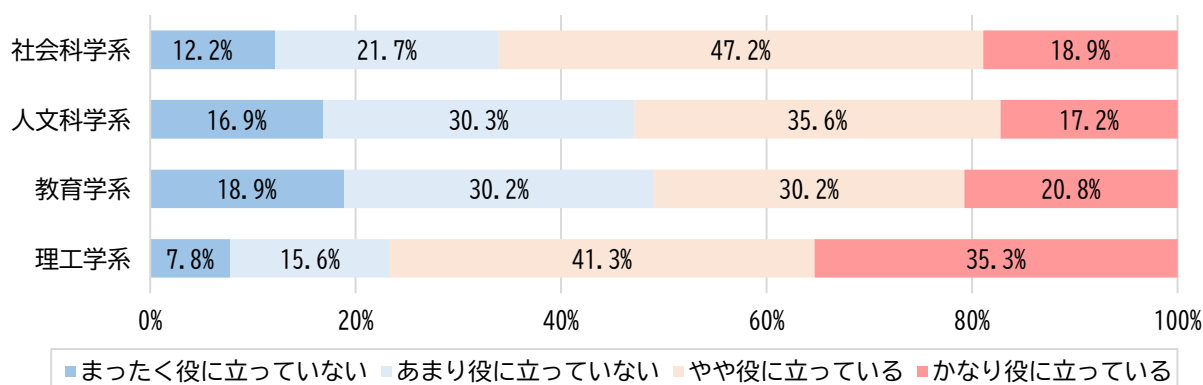


図 1-2 専門科目の仕事役立ち度（学部系統別）

では、専門科目が仕事の役に立っていると考える卒業生は、大学でどのような学習経験をしていたのだろうか。それを確認するために、「専門科目の仕事役立ち度」と、学部で熱心に取り組んだ活動（13項目）、および学部での学習経験（10項目）との相関を確認した（スピアマンの順位相関係数、 $n = 890 \sim 1114$ ）。そのうえで「専門科目の仕事役立ち度」との相関が強い4項目を取り上げ、相関係数を示したのが表1-1である。

表 1-1 「専門科目の仕事役立ち度」と学習経験の相関

	専門科目 に熱心	ゼミ・研究室 に熱心	卒業論文作成 に熱心	よい教員に 巡り合えた
専門科目の仕事役立ち度	.365***	.322***	.292***	.301***
専門科目に熱心		.596***	.500***	.410***
ゼミ・研究室に熱心			.733***	.490***
卒業論文作成に熱心				.413***

*** $p < .001$

「専門科目の仕事役立ち度」と学習経験との関連をみると、もっとも相関が高いのが「専門科目に熱心」であった。専門科目にしっかりと取り組んだ卒業生ほど、専門科目が仕事に役立っていると感じるようである。また、「ゼミ・研究室に熱心」や「卒業論文作成に熱心」など、専門科目と関連する学習経験も、「専門科目の仕事役立ち度」につながる。さらに興味深いのは、「よい教員に巡り合えた」という教員との出会いが、「専門科目の仕事役立ち度」と中程度の相関を示したことである。よい教員と出会うことによって、ゼミ・研究室での活動や専門科目に熱心に取り組むようになり、それが「専門科目の仕事役立ち度」にもつながるということが考えられる。

1-4. パスモデルによる検討

「専門科目の仕事役立ち度」と上記の4つの要因との関連を見るために、相関係数を参考にしてパスモデルを作成した。最尤法による共分散構造分析を行い、適合度を確認しながら、有意ではないパスを削除するなどの修正をして得られたのが図1-3のモデルである。なお、ここでは誤差変数を除いて記載している。適合度は、CFI = .997、RMSEA = .047、AIC = 44.115 であった。

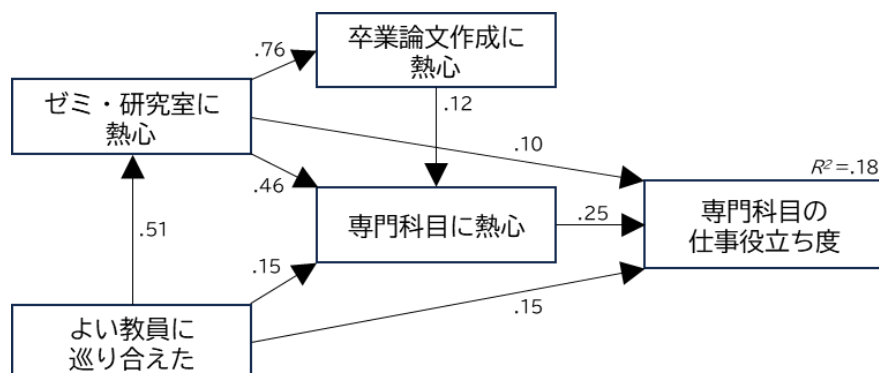


図 1-3 専門科目の仕事役立ち度モデル（基本モデル）

このモデルからは、よい教員との出会いが、ゼミ・研究室への熱心さを高め、そのゼミ経験が卒業論文作成や専門科目への熱心さに影響するとみることができる。また、専門科目に熱心に取り組むことが、卒業してから「専門科目が仕事で役立った」という認識に影響を与える。やはり、学部の際に専門科目に熱心に取り組んだからこそ、社会に出てから「専門科目が仕事で役立った」と考えるようである。

1-5. 学部系統別の検討

学部系統別（社会科学系、人文科学系、教育学系、理工学系）にみると、なんらかの特徴が示されるのだろうか。それを確認するために学部系統別の回答データを、図1-3のモデルに当てはめて検討してみよう。なお、これは図1-3のモデルを用いた一つの試みであることを付言しておく。

〈社会科学系〉

社会科学系の学部の卒業生データを用いて、図1-3のモデルに当てはめた結果を図1-4に示す。「ゼミ・研究室に熱心」から「専門科目の仕事役立ち度」のパスが有意とならなかったため、そのパスは削除した（適合度：CFI = .997、RMSEA = .036、AIC = 39.286）。

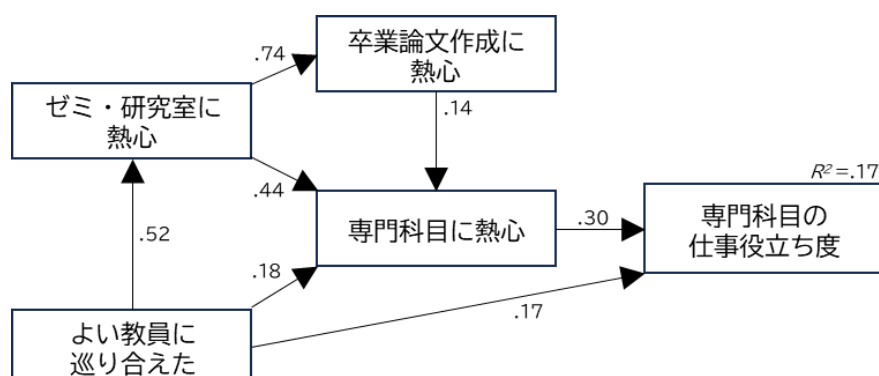


図 1-4 専門科目の仕事役立ち度モデル（社会科学系）

このモデルからも、よい教員との出会いが、ゼミ・研究室への熱心さを高め、ゼミへの熱心さが卒業論文作成や専門科目への熱心さに影響するようである。また、社会科学系においても、学部の際に専門科目に熱心に取り組んだことが、大学を卒業してからの「専門科目が仕事で役立った」という認識に影響を与えるようである。

〈人文科学系〉

人文科学系の学部の卒業生データを用いて、図1-3のモデルに当てはめた結果を次に示す（図1-5）。なお、「ゼミ・研究室に熱心」から「専門科目の仕事役立ち度」のパスと、「卒業論文作成に熱心」から「専

門科目に熱心」のパスが有意とならなかったため、そのパスは削除した（適合度：CFI = .999、RMSEA = .020、AIC = 36.584）。

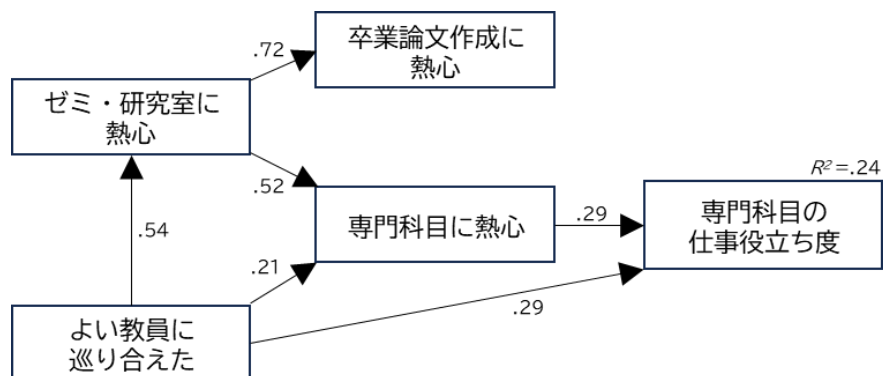


図 1-5 専門科目の仕事役立ち度モデル（人文科学系）

このモデルでも、よい教員との出会いが、ゼミ・研究室への熱心さを高め、ゼミ・研究室での経験が卒業論文作成や専門科目への熱心さに影響することが示唆された。また、人文科学系では、専門科目に熱心であることとともに、よい教員に巡り合えたことが同程度に大学を卒業してからの「専門科目が仕事で役立った」という認識に影響を与えることが示された。

〈教育系〉

教育学系の学部卒業生データを用いて、図1-3のモデルに当てはめた結果を次に示す（図1-6）。なお、「よい教員に巡り合えた」および「ゼミ・研究室に熱心」から「専門科目の仕事役立ち度」のパスと、「卒業論文作成に熱心」から「専門科目に熱心」のパスが有意とならなかったため、そのパスは削除した（適合度：CFI = .975、RMSEA = .082、AIC = 42.329）。

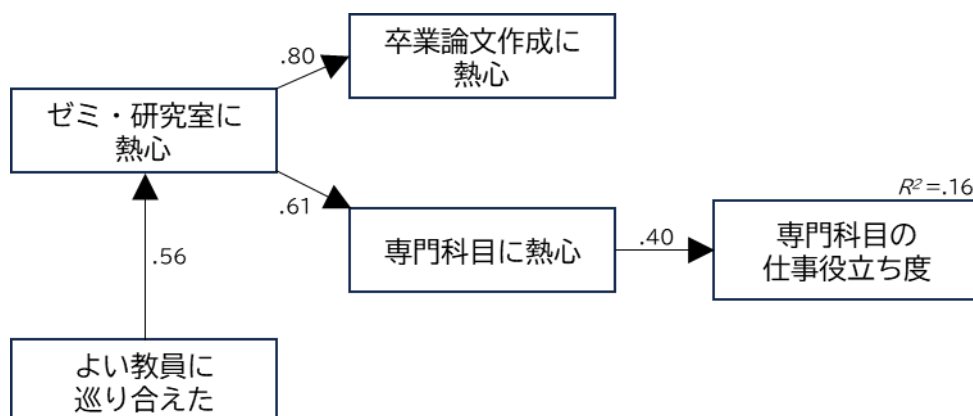


図 1-6 専門科目の仕事役立ち度モデル（教育学系）

このモデルでは、よい教員との出会いは、ゼミ・研究室への熱心さを高めるものの、専門科目への熱心さや「専門科目が仕事で役立った」という認識には影響を与えないようである。教育学系では、これらの要因のなかでは、専門科目に熱心であったことのみが、「専門科目が仕事で役立った」という認識に影響を与えていることが示唆された。

〈理工学系〉

理工学系の学部卒業者データを用いて、図1-3のモデルに当てはめた結果を図1-7に示す。「よい教員に巡り合えた」および「卒業論文作成に熱心」から「専門科目に熱心」のパスが有意とならなかったため、そのパスは削除した（適合度：CFI = 1.000、RMSEA = .000、AIC = 35.983）。

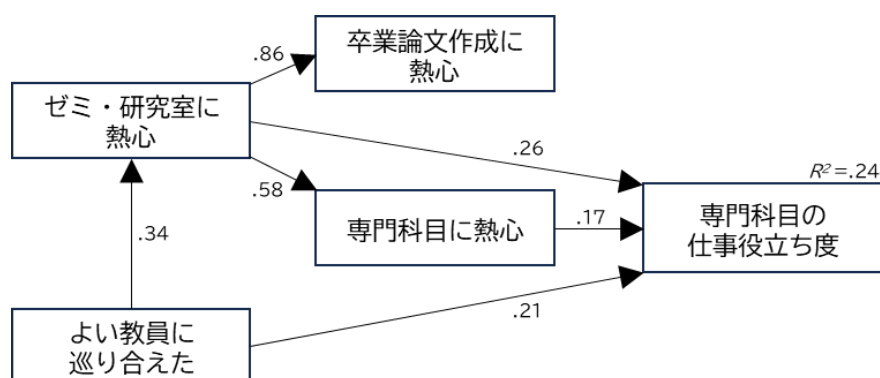


図 1-7 専門科目の仕事役立ち度モデル（理工学系）

このモデルでも、よい教員との出会いが、ゼミ・研究室への熱心さを高めるとともに、直接「専門科目の仕事役立ち度」に影響を与えている。また、「専門科目の仕事役立ち度」にもっとも影響を与えるのは、「ゼミ・研究室に熱心」である。理工学系では、「専門科目に熱心」以上に、「よい教員に巡り合えた」や「ゼミ・研究室に熱心」が「専門科目の仕事役立ち度」という認識に影響を与えることが示唆された。理工学系では、専門科目だけでなく、研究室での活動に熱心に取り組むことが重要だと考えられる。

1-6. まとめ

本章では、大学での学びが卒業後の仕事にどの程度役立っているのか、「専門科目の仕事役立ち度」に着目して分析を行った。まず、専門科目が、仕事に「かなり役に立っている」「やや役に立っている」と回答した卒業生の割合を確認したところ 60%以上であり、多くの卒業生が専門科目の学びの仕事役立ち度について肯定的に評価していた。さらに学部系統別にみると、理工学系では 75%以上、社会科学系では 65%以上が役立つと回答するなど学部系統による違いもみられたものの、いずれの学部系統でも半数以上が専門科目の有用性を認識していた。

さらに、「専門科目の仕事役立ち度」と関連する学習経験については、「専門科目に熱心」「ゼミ・研究室に熱心」「卒業論文作成に熱心」、また「よい教員に巡り合えた」があげられた。そこで、「専門科目の仕事役立ち度」とこれらの学習経験との関連を示すパスモデルを構築した。回答者全員を対象とした基本モデルでは、「専門科目に熱心」が「専門科目の仕事役立ち度」にもっとも影響を与えていた。また、よい教員との出会いが、「ゼミ・研究室に熱心」や「専門科目に熱心」だけでなく、「専門科目の仕事役立ち度」にも影響を与えていた。

このモデルを学部系統別に適用したところ、学部系統による特徴がみられた。

まず社会科学系では、「ゼミ・研究室に熱心」から「専門科目の仕事役立ち度」へのパスは有意ではなく削除したが、基本モデルとほぼ同様の構造が確認された。学部で専門科目に熱心に取り組むことが、卒業後の「専門科目の仕事役立ち度」を規定している。

人文科学系では、「ゼミ・研究室に熱心」から「専門科目の仕事役立ち度」へのパスに加え、「卒業論文作成に熱心」から「専門科目に熱心」へのパスも有意ではなかった。また、人文科学系では、「専門科目に熱心」に加えて、「よい教員に巡り合えた」ことが同程度に「専門科目の仕事役立ち度」に影響することが示された。よい教員との出会いが、卒業後の専門科目の仕事役立ち度の認識にも強く影響するようである。

教育学系では、さらに異なる構造が示された。「ゼミ・研究室に熱心」から「専門科目の仕事役立ち度」へのパスおよび、「よい教員に巡り合えた」から「専門科目に熱心」「専門科目の仕事役立ち度」のパスも有意ではなかった。この結果、教育学系では、「専門科目に熱心」であることのみが、直接的に「専門科目の仕事役立ち度」に影響するという構造が示された。教育学系では、よい教員との出会いが、「専門科目の学び」や卒業後の「専門科目の仕事役立ち度」に影響を与えない点が興味深い。

最後に理工学系では、「よい教員に巡り合えた」から「専門科目に熱心」へのパスが有意ではなかった。一方で、理工学系では、「ゼミ・研究室に熱心」がもっとも強く「専門科目の仕事役立ち度」に影響するという特徴が示された。研究室での実験や研究活動が専門性の核となる理工学系では、研究室での熱心さが専門科目以上に「専門科目の仕事役立ち度」認識を規定する構造が明確に表れているといえるだろう。また、よい教員との出会いも、直接的に「専門科目の仕事役立ち度」に影響を与えていることが着目される。

本章では、「専門科目の仕事役立ち度」について、学部系統による異同にも着目して検討した。学部系統に着目したことで、学部系統によって、教員との関わり、専門性を獲得する場の違いが、「専門科目の仕事役立ち度」に異なる形で作用していることを示した。卒業後の学びや意識、さらに学生の学びについて検討するにあたっては、引き続き学部系統にも着目して分析することが必要であろう。

第2章 大学での学びは仕事の役に立っているのか：テキスト分析からの示唆

2-1. 本章の目的

本学の卒業生は、大学での学びは「どのように役に立つ」と認識しているのか。これを示すことは、社会における大学での学びの意義の一端を明らかにすることになるだろう。そこで本章では、卒業生調査の自由記述を取り上げ、卒業生は「本学でのどのような学びが、どのように役立つと考えているのか」、これを知るための基礎的な分析を試みる。

2-2. 分析対象・分析方法

分析対象とするのは、本学での学びが、卒業後、どのように生かされているのかについて尋ねた自由記述である。「あなたが本学で学んだことや、身につけた知識・スキルは、卒業後どのような形で生かされていますか。仕事、私生活、いずれでも結構ですので具体的に教えてください。」という指示文を示したうえで、自由記述での回答を促した。分析対象は本学学部卒者の回答とし、自由記述には英語での回答もあったが、今回は日本語で書かれた文章のみを対象とした。なお、「ない」「特になし」などの回答は対象外とし、次の言葉は対象外とした（使用しない語：「思う」）。

まず、KH Coder を用いた分析結果を示したうえで、自由記述の内容を直接読み取ることで、どのような学びがどのように役に立つと考えられているのか検討する。次の順番で分析を行う。

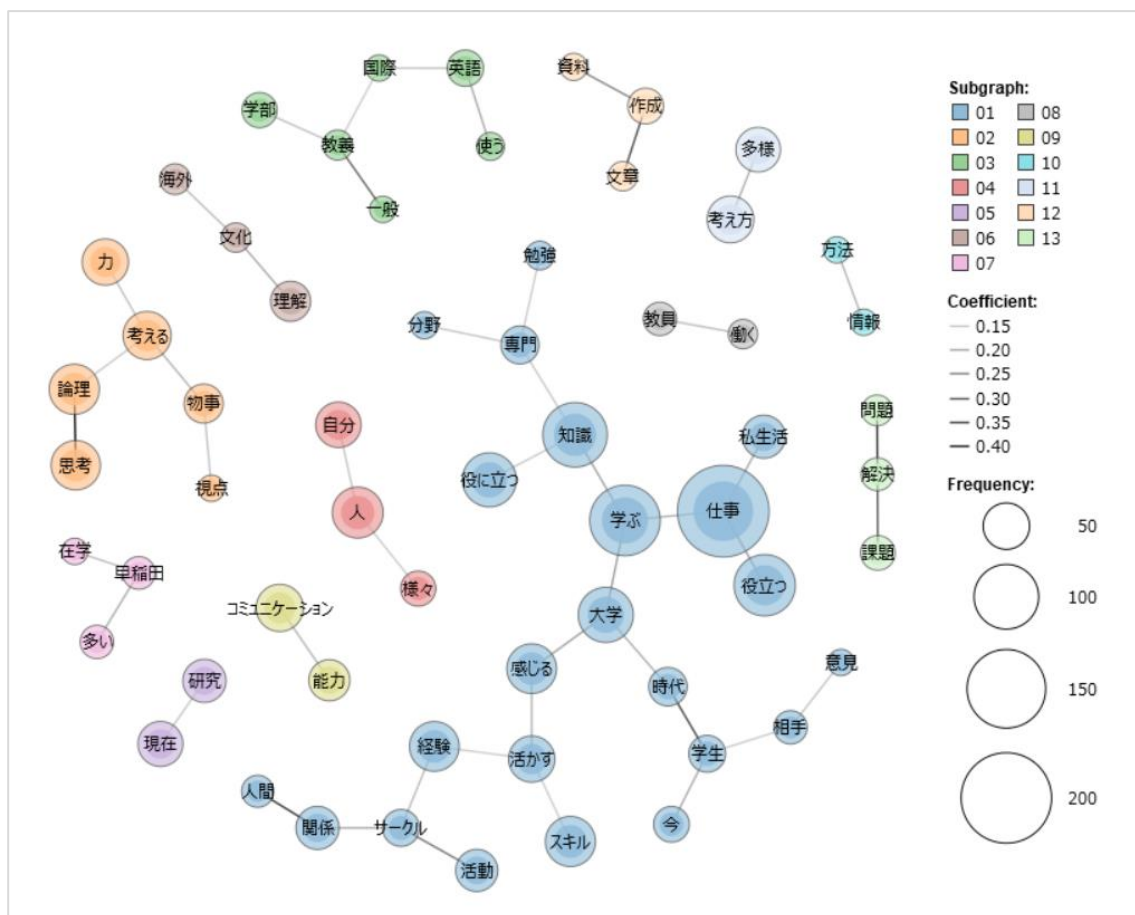
- 大学での学びと役立ちについて何を述べているのか、共起ネットワークで概要を確認する。
- どのような学びがどのように役に立つのか、自由記述の内容を直接確認する。

共起ネットワークでは、共起の程度が強い語を線で結んだネットワークが描かれ、語の関連性が可視化される。共起ネットワークの円（バブル）の大きさは語の頻出度を示し、語の間の線の太さは関連の強さを示す。この共起ネットワークをみることで、どのようなことが書かれているのか概要をつかむことができる。

2-3. 大学での学びや経験を概観する

大学での学びに関する自由記述を対象とした共起ネットワークを図2-1に示す。円の大きさから出現率をみると、「仕事」がもっとも出現していることがわかる。その「仕事」に「学ぶ」「役立つ」などが結びついていることから、卒業生は大学での学びを、仕事に役立つものと捉えているようである。

また、なんらかのスキルを生かしたり、サークルでの経験を生かしたりということも行われているようである（「スキル」「活かす」「サークル」「経験」）。さらに、論理的思考や、考える力、コミュニケーション能力についても言及されている（「論理」「思考」「考える」「力」「コミュニケーション」「能力」）。さらに多様な考え方についても言及している（「多様」「考え方」）。



「海外」「文化」「理解」の語群からは、国際的な視野の広がりが見え、全体として、卒業生は大学での学びを、専門知識の獲得や活用だけでなく、思考力・コミュニケーション力・国際的視野など多面的な成長として認識しているようである。

次に自由記述の内容を確認することで、社会に出て約10年を経た卒業生は、どのような学びや経験が、仕事や生活に役に立つと考えているのか、これについて確認していこう。

2-4. どのような学び・経験が仕事や生活に役立つのか

本学は2012年に中長期計画である Waseda Vision 150 を発表した（参照：表 序-1）。今回対象とした卒業生の多くが大学1年生であった年にあたる。Waseda Vision 150 では、「グローバルリーダー育成のための教育体系の再構築」を前提として、2032年度までに「全員留学」の実現を目指している。本学において、学生の留学やそれに準ずる経験は、大きな課題であり続けているといえるだろう。

そこで、まず自由記述において、大学での留学経験や、本学における国際的な経験について語られているのかに着目して検討する。さらに留学経験以外では、社会に出てからどのような知識や経験が生きているのか、卒業生の記述を所属学部にも着目しつつ取り上げる。なお、記述内容については、読みやすくするため一部手を加えていることを付け加えておく。

留学経験・本学における国際的環境での学び

本学の卒業生の中には、留学することによって語学力を身につけ、その語学力や異文化理解力、異文化コミュニケーション力を、国際的な業務などで生かしている者もいる。

「留学で身につけた語学力を業務上生かしている。」（法学部）

「留学の機会があったことで、異文化理解が深まり、国際業務にも物怖じせず取り組めている。」
（文化構想学部）

「留学を通して身に着けた語学力、異文化コミュニケーション力が、現在海外で日本食市場を開拓する仕事において役立っている」（教育学部）

「留学を経て得た、国際的な環境に順応する能力、および言語力が、海外での勤務や外資系で働く上でストレスなく仕事ができることに繋がっている」（国際教養学部）

本学の国際的な環境で学ぶことのメリットについて述べた卒業生も少なくない。

「多角的な視点で物ごとを見られるようになりました。（中略）これは大学で、さまざまな背景を持った学生や、他国から来た留学生と交流したことに起因すると考えています。」（政治経済学部）

「多様な価値観を持つ人達と交流、共に研究活動してきた経験より、外資系企業のグローバルな環境で仕事をしている。現在は海外に住んでおり、多言語を使いながら現地で奮闘している。」
（基幹理工学部）

「研究室で多様な国籍のメンバーに囲まれた経験が、現在の多様性の理解に役に立っている。」（創造理工学部）

学内で留学生と交流し、ともに研究をすることによって、多様な視点やグローバルな視点を持つようになり、それを仕事や生活に生かしているようである。

汎用的なスキルとしての統計学

統計学についての基礎的な知識を持ち、統計的な考え方ができることも、仕事で生きるようである。

「統計学が役に立つ」(政治経済学部)

「統計学も受講しており、業務でも統計の考え方の基盤として役立ちました。」(商学部)

「統計的分析、資料作成能力、コミュニケーション能力がプロジェクトを推進するうえで役立っている」(文学部)

「教育社会学を専攻しました。統計的な考え方は仕事でも活かしています。」(教育学部)

「データの統計的处理、エクセルマクロは現在も役立っている」(先進理工学部)

統計学の知識やデータ分析経験は、学部を問わず業務で活用されているようである。データ分析や資料作成能力は、プロジェクト推進などの実務にも寄与しているという。統計的な思考力は、職種を超えて汎用的に役立つスキルとして評価されているといえよう。

各学部で得られる専門知識

卒業生のなかには、各学部で学んだ専門知識を仕事に生かしている者もいる。

〈社会科学系〉

「法律事務所で働いているので、基礎的な法律の知識は役に立っています。」(法学部)

「自社の財務状況の分析業務があるため、大学で学んだ会計知識が役に立っている。」(商学部)

〈人文科学系〉

「マンガ編集の仕事をしており、文字を扱うのですが、大学で学んだことが基礎になっていると思います。」(文学部)

「新聞記者をしています。記事で取り上げる事象の何が問題なのかを考える際に、学部で学んだ格差問題やナショナリズムの知識が役に立っていると思います。」(文学部)

「卒業後に小説家デビューをしました。文化構想学部のゼミで学んだことは、小説を書く際に役立っています。」(文学部)

「世の中の様々なニュースやコンテンツにアンテナをはり、関心を持ったら未知の領域でも飛び込んで学ぶ姿勢は、仕事でも私生活でも充実した時間を過ごす役に立っています。」（文化構想学部）

「英語で仕事をしているので直結している。国際情勢や地理などの知識もツアーをつくる上で生かされている。」（国際教養学部）

〈教育学系〉

「教員として働いているが、授業ではもちろん、課外活動等でも役立っている。特に、一般教育科目で学んだ情報系の授業は、仕事でも私生活でも役立っている。」（教育学部）

「現在は教員をしており、大学で続けた種目の監督となっているため、大学時代の経験は非常に重要なものとなっている。」（スポーツ科学部）

〈理工学系〉

「デベロッパーの総合職ですが、建築の知識を持ったことを前提とする部署で働いています。」（創造理工学部）

「専門職として仕事で役にたっている。エンジニアリングの基礎知識や、基本的なエンジニアリングのサイクルなど(解析、考察、再設計等)」（基幹理工学部）

「大学の研究員→教員なので、専門が直接役に立っている」（先進理工学部）

在学中に各学部で身につけた専門知識を、職種に応じて活用している。社会科学系では、法律や会計に関する基礎知識が実務に直結している。人文科学系では、編集者、記者、小説家など、言語運用力や社会・文化に関する理解が専門性として生かされている。このようにメディアに関わる卒業生が一定程度いることは、本学の特徴だとも考えられる。また、教育学系では、教員として授業、学習指導、スポーツ指導などで専門知識を直接的に役立てている。理工学系では、建築やエンジニアリングの知識が仕事に強く結びついている。このように学部での専門教育は、仕事にも多様な形で貢献していることがうかがえる。

多様な学生との関わりから得られるコミュニケーション能力

本学には、多様な背景や価値観をもつ学生が集まっているという認識を持つ卒業生は少なくない。このような環境で学生時代を過ごしたことで、他者を理解し尊重しながら関係を築く力が培われ、卒業後にも職場や社会でのコミュニケーション能力の基盤となっているようである。

「大学時代に出会った友人達は多様なバックグラウンドと強い個性を持っていた。彼らと勉強やサークル活動で協働した経験は、社会に出てからの人間関係の構築や攻略に大変役に立っていると感じる。」(商学部)

「早稲田は、多様で強烈な個性を表現している学生が多く、そこでの経験が現在の人間関係形成能力にもつながっていると感じる。また様々な考えを持つ人がいることを肌身で感じていたからこそ、傾聴し組織風土に落とし込む研修づくりやシステムづくりにつながっていると感じる。」(政治経済学部)

「周囲の人や色々な考え方を持つ人に出会い、かつそのような人たちが須く他者を尊重する考え方・姿勢を持っていたこと、かつ、自身が専攻していた社会学という学問からも、自身が俯瞰的に物事を見るように努める姿勢を無意識下で目指すことができるようになった。」(文学部)

「早稲田は様々な背景の学生がいて、相手の状況、求めるものを理解するというスキルが何より身についた。今いる環境でも『まず、人は違う。話し合わねば分からないし、話し合っても分からないことがある』という感覚をベースに会話することで、問題解決がスムーズになることが多い。」(スポーツ科学部)

「早稲田大学には色々なバックグラウンドを持った人がいたので、さまざまな人生のあり方に寛容で、尊重し合える環境がとても良かった。なかなか得難い環境であるが、自分は早稲田生特有の寛容さをどこでも持っていたいと思う。」(先進理工学部)

異なるバックグラウンドや強い個性をもつ仲間と協働した経験は、人間関係の構築力や相手の立場を理解する姿勢を育み、職場での対人調整や問題解決に直結しているという。また、多様な価値観に触れたことで、研修づくりに生かす力を身につけたという声もある。早稲田大学における多様な学生との関わりは、コミュニケーション能力の形成に寄与しているようである。

コミュニケーション能力を育成する場の違い

対人スキルやコミュニケーション能力はどこで獲得されるのか。サークルやバイトだけでなく、ゼミ・研究室などがあげられた。

「学園祭サークル活動にて培ったチームワーク、リーダーシップ。」(政治経済学部)

「授業などで学んだことよりも、サークルやアルバイトで経験したコミュニケーション、人間関係構築、課題解決力、胆力などがいかされている」（政治経済学部）

「学部で経験したディスカッションやクラス発表などは、就職後も人前で自分の意見を発する際に生きていると感じます。」（国際教養学部）

「ゼミでの活動を通じて経験した建設的な議論は仕事にも活かされていると感じる」（教育学部）

「教授に対して理論的に説明を行い、納得してもらえる筋道を立てて話すことです。現在でも自己研鑽を重ねていますが、必要な素地を身に付けられたと考えられています。」（創造理工学部）

「研究室における对外発表において、自身の主張をわかりやすく、効果的にアピールする能力を培いました。この能力は、上司・同僚・他部署の人間と合意形成を図る場面など、あらゆる場面で活かすことができていると感じます。」（基幹理工学部）

コミュニケーション能力は、サークル活動やアルバイト、さらにはゼミや研究室といった多様な場で育成されている。ゼミや授業でのディスカッションや発表経験は、自分の意見を論理的に伝える力や、建設的な議論を行う姿勢にもつながっている。さらに、研究室での対外的な発表経験は、専門的内容を他者にわかりやすく伝え、合意形成を図る能力の基盤となっている。こうした多様な学内外の経験が、実践的なコミュニケーション能力の形成に寄与しているようである。

2-5. まとめ

本章では、本学の卒業生は「本学でのどのような学びが、どのように役立つと考えているのか」、これを自由記述の分析によって示した。まず、共起ネットワーク分析からは、卒業生は大学での学びを、仕事や知識に役立つものと捉えており、専門知識の獲得や活用だけでなく、思考力・コミュニケーション力・国際的視野の獲得など多面的に生かしていることが示唆された。

さらに、自由記述内容を直接確認することで、留学経験のみならず、本学の国際的な環境で学ぶ経験が、語学力や異文化理解力、さらには国際業務への適応力として生かされていることが指摘された。留学をしていない場合であっても、学内で多様な国籍の学生と交流する経験が得られ、それが多角的視点やグローバルな視野の獲得につながっている点は、本学の大きな特徴のひとつであるといえるだろう。

また、統計学の知識やデータ分析経験は、学部を問わず汎用的に活用されていた。「統計学が役に立つ」「統計的分析、資料作成能力がプロジェクトを推進するうえで役立っている」といった記述からは、統計学に関わる知識の習得が高く評価されていることが示唆された。

各学部で得られた専門知識が実務に直結しているとする卒業生もみられた。法律、会計、書籍編集、教育、建築など、大学で培った多様な専門性が仕事に生かされていることがうかがえる。本学では、特に人文科学系で養われた言語運用力や社会・文化への理解が、編集者、記者、作家としての活動につながっている点に特徴があると考えられる。

また、大学における多様な学生との関わりを通じて、他者理解や傾聴の姿勢、対人調整力が育まれ、これらが職場でのコミュニケーション能力の基盤となっていると述べる者もいた。サークルやアルバイト、さらにゼミ・研究室といった多様な場が、コミュニケーション能力を培う機会として機能していることがうかがえた。

本学での学びは、各学部で得られた専門知識に加えて、語学力・国際理解力、統計的データ分析能力、コミュニケーション能力など、卒業後の仕事や生活に広く生かされているといえるだろう。

第3章 ウェルビーイング (Well-being)

本章では、2025 年 8 月 5 日から 9 月 15 日に実施した 2025 年度卒業生調査の結果に基づき、2012 年度学部入学者、および 2016 年度大学院（修士課程）入学者を対象として、卒業後約 10 年時点における主観的ウェルビーイングの傾向と、教学に関わる諸項目との関連を報告する。本調査では、主観的ウェルビーイングを 1 点から 10 点までの 10 件法で尋ねた 12 項目によって測定した。

3-1. 記述統計

本章で分析に用いるウェルビーイング項目と、分析対象者の基本的な属性の記述統計量は、以下の表 3-1 に示すとおりである。本卒業生調査では、ウェルビーイングに関する 12 項目の質問を設けた。各項目は 1 点から 10 点までの 10 件法で測定した（各質問項目の詳細は巻末の「集計データ」に記載）。Well-being 総合は、12 項目の平均値として算出した（Cronbach's $\alpha = .949$ ）。また、本章で用いる DP 平均とは、本学のディプロマ・ポリシーに対応する 11 項目をもとに、卒業生が学部在学中にどの程度身につけたと認識しているかを尋ねた自己評価項目の平均値である。

また、表 3-2 には、学部・大学院卒業生それぞれについて、在学時の所属学部・研究科の分布を示した。卒業生が所属していた学部・研究科は、文部科学省「学科系統分類表」を参考に、専攻内容によって 4 類型に分類した。表 3-2 によれば、学部卒業生においては、社会科学および人文科学系学部の卒業生の割合が高い一方、大学院卒業生においては、理・工学系研究科の卒業生が多い。

表 3-1 分析に用いる変数の記述統計量

	平均値	中央値	標準偏差	度数
ウェルビーイング項目（12 項目, 1 点-10 点）				
人生の満足	7.83	8	1.91	1152
仕事の満足	7.12	7	2.10	1147
ポジティブ感情	7.70	8	1.92	1147
落ち着き・安心感	7.39	8	2.02	1150
他者との良好な関係	8.11	8	1.81	1149
貢献感：社会的 Well-being	7.21	7	2.07	1148
集中・没頭・フロー	7.19	7	2.10	1147
達成・進歩	7.31	8	2.10	1150
人生の意味・意義	7.06	7	2.27	1149
自己決定感	7.84	8	2.07	1147
自己効力感	7.64	8	1.97	1149
楽観性・ポジティブな展望	7.10	7	2.18	1150

Well-being 総合（上記 12 項目の平均値）	7.46	7.67	1.63	1153
最終学歴				
学部卒業生	0.72	1	0.45	1380
大学院（修士課程）卒業生	0.28	0	0.45	1380
学部・研究科 4 類型				
社会科学ダミー	0.43	0	0.50	1234
人文科学ダミー	0.26	0	0.44	1234
理・工学ダミー	0.16	0	0.36	1234
教育ダミー	0.15	0	0.36	1234

表 3-2 分析対象者の分布（学部・院×4 類型）

	社会科学	人文科学	理・工学	教育	合計
学部卒	465	292	60	160	977
	47.6%	29.9%	6.1%	16.4%	100.0%
院卒	66	30	134	27	257
	25.7%	11.7%	52.1%	10.5%	100.0%
合計	531	322	194	187	1234
	43.0%	26.1%	15.7%	15.2%	100.0%

3-2. ウェルビーイング項目の傾向

まず、学部卒業生と大学院卒業生全体のウェルビーイングの傾向を確認する。図 3-1 は、学部・大学院卒業生全体を対象とした場合の、ウェルビーイングの各項目および総合項目の平均値を示している。

次に、学部卒業生（ $n=995$ ）と大学院卒業生（ $n=385$ ）を区別し、それぞれのウェルビーイングの傾向を確認する。図 3-2 は、学部卒業生および大学院卒業生それぞれについて、ウェルビーイング各項目および総合項目の平均値を示したものである。各項目をみると、「仕事の満足」や「貢献感：社会的 Well-being」などの項目では大学院卒業生の平均値がやや高い一方、「他者との良好な関係」や「人生の満足」などの項目では学部卒業生の平均値がやや高い傾向がみられた。総合項目である「Well-being 総合」の平均値をみると、学部卒業生は 7.43、大学院卒業生は 7.52 であった。

続いて、学部・大学院卒業生を区別したうえで、それぞれについて学部・研究科 4 類型別の平均値を確認する。まず、分析対象を学部卒業生に限定し、学部 4 類型別にウェルビーイング各項目および総合項目の平均値を算出した結果は、図 3-3 に示すとおりである。理・工学系学部の卒業生のウェルビーイングの平均値は、「自己決定感」と「自己効力感」を除くすべての項目で相対的に高かった。その結果、総合項目である

「Well-being 総合」の平均値をみると、理・工学系学部卒業生の値がとりわけ高かった。

次に、分析対象を大学院卒業生に限定し、研究科4類型別にウェルビーイング各項目および総合項目の平均値を算出した結果は、図 3-4 に示すとおりである。大学院卒業生では、「人生の満足」「ポジティブ感情」「人生の意味・意義」を除くすべての項目において、社会科学系研究科の卒業生の平均値が最も高かった。また、それに次いで人文科学系研究科の平均値も相対的に高かった。そのため、総合項目である「Well-being 総合」の平均値は、社会科学系研究科が最も高く、人文科学系研究科がそれに続く結果となった。

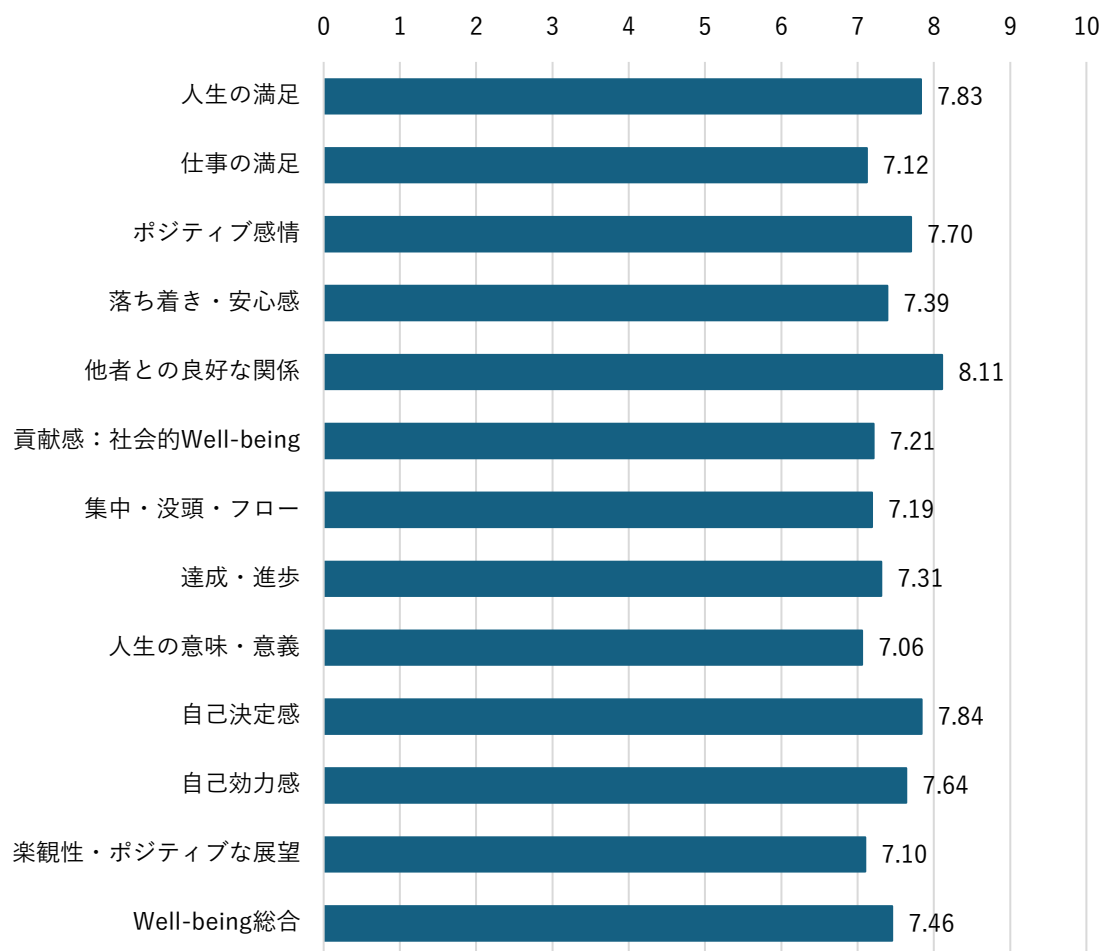


図 3-1 学部・大学院卒業生全体のウェルビーイングの平均値
($n = 1147-1153$)

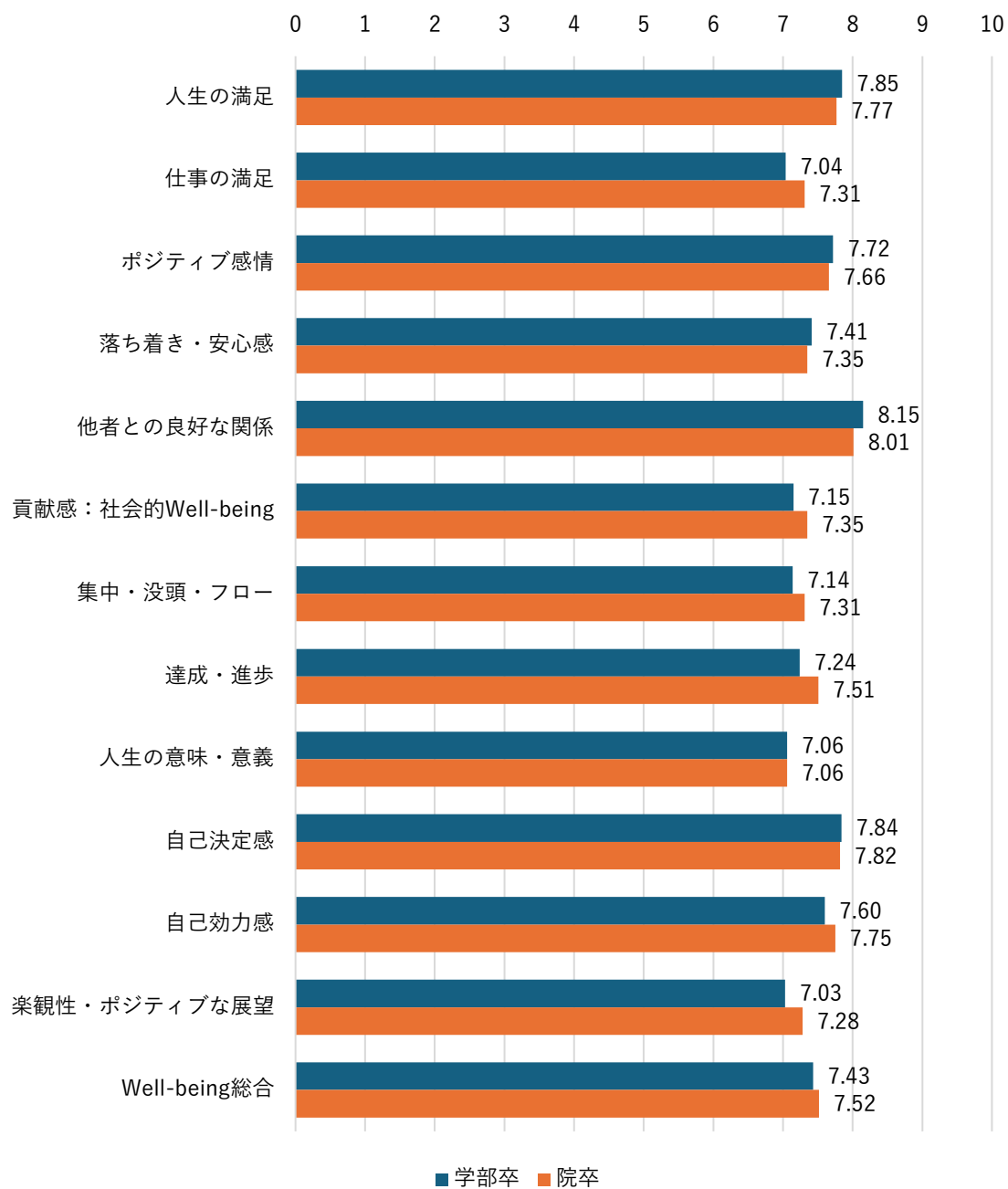


図 3-2 学部・大学院卒業生を区別したウェルビーイングの平均値
(学部： $n = 832-838$, 大学院： $n = 314-315$)

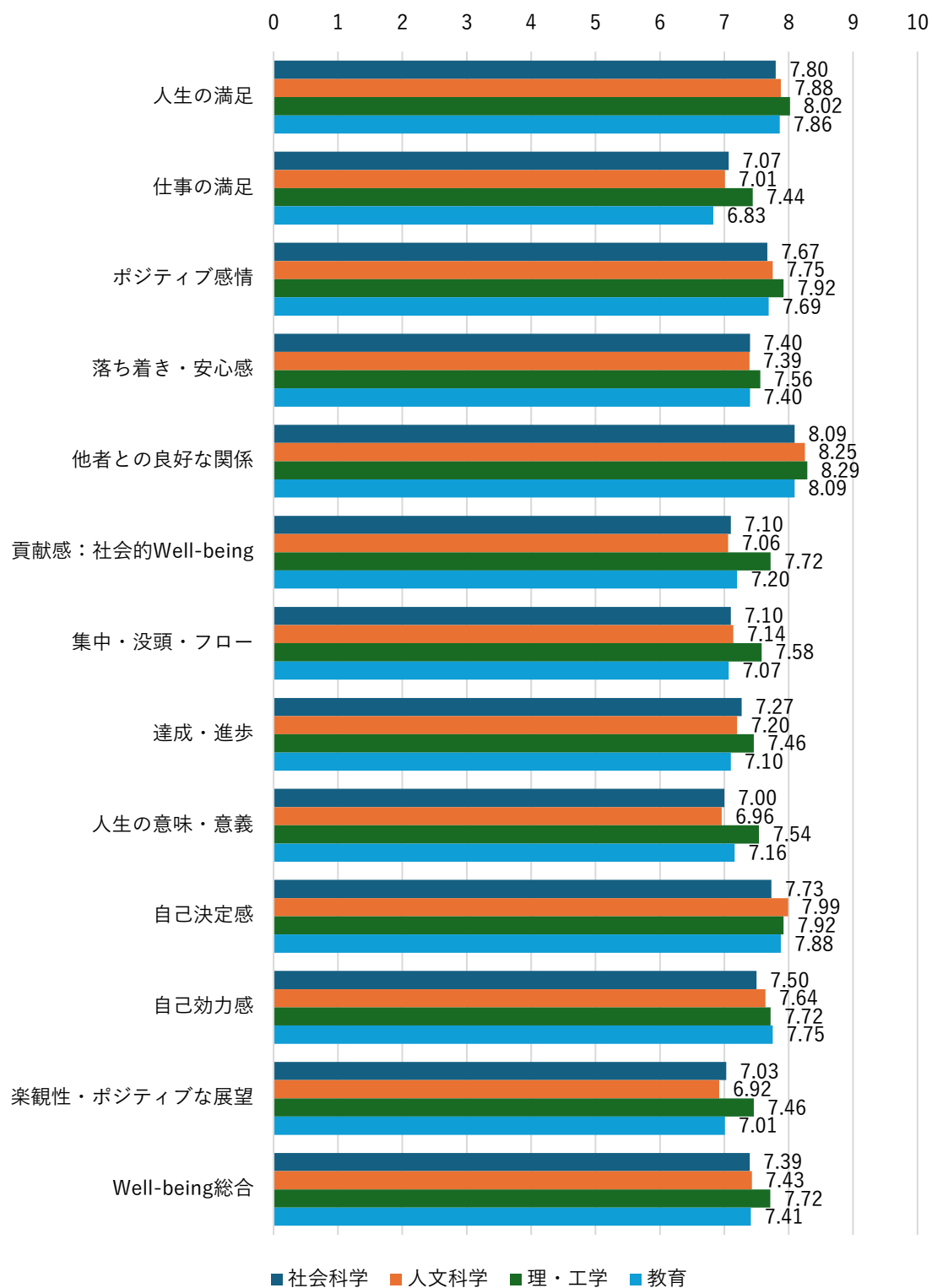


図 3-3 学部4類型別のウェルビーイングの平均値（分析対象：学部卒業生）
 （社： $n = 390-395$ ，人： $n = 238-241$ ，理・工： $n = 49-50$ ，教： $n = 139-140$ ）

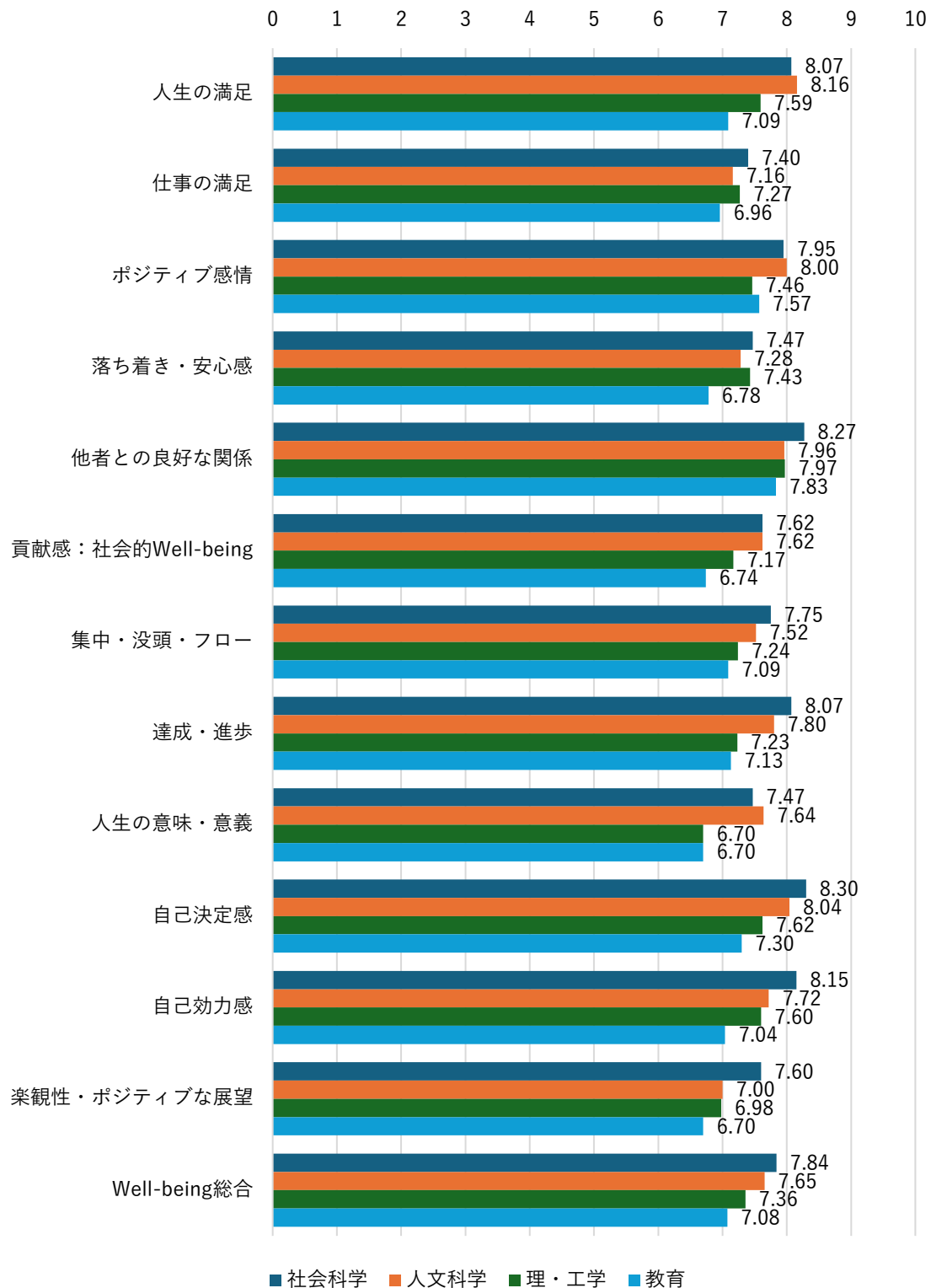


図 3-4 研究科4類型別のウェルビーイングの平均値（分析対象：大学院卒業生）
 （社： $n = 60$, 人： $n = 24-25$, 理・工： $n = 113-114$, 教： $n = 23$ ）

3-3. ウェルビーイング項目間の相関分析

本節では、卒業生のウェルビーイング各項目およびそれらの平均値である総合項目について、項目間の相関を確認する。相関係数には、Spearman の順位相関係数 ρ （以降表記： r_s ）を用いる。表 3-3 は学部卒業生におけるウェルビーイング項目間の相関表であり、表 3-4 は大学院卒業生におけるウェルビーイング項目間の相関表である。

学部卒業生においては、ポジティブ感情×落ち着き・安心感（ $r_s = .746$ ）、達成・進歩×人生の意味・意義（ $r_s = .745$ ）、自己決定感×自己効力感（ $r_s = .740$ ）などの項目間の相関が高い一方、仕事の満足×他者との良好な関係（ $r_s = .409$ ）、他者との良好な関係×集中・没頭・フロー（ $r_s = .409$ ）などの項目間の相関が比較的低かった。

また、大学院卒業生においては、達成・進歩×人生の意味・意義（ $r_s = .800$ ）、集中・没頭・フロー×達成・進歩（ $r_s = .747$ ）、ポジティブ感情×落ち着き・安心感（ $r_s = .737$ ）、ポジティブ感情×人生の意味・意義（ $r_s = .737$ ）などの項目間の相関が高い一方、人生の満足×貢献感：社会的 Well-being（ $r_s = .488$ ）、仕事の満足×他者との良好な関係（ $r_s = .496$ ）などの項目間の相関が比較的低かった。

以上より、ウェルビーイング 12 項目は相互に一定程度関連しながらも、項目間の関連の強さには差がみられた。したがって、Well-being 総合は卒業生のウェルビーイングの全体的な傾向を把握する指標として有用である一方、仕事の満足、他者との良好な関係、貢献感などの個別項目ごとの特徴にも留意する必要がある。

表 3-3 ウェルビーイング項目間の相関係数（分析対象：学部卒業生、 $n = 827-838$ ）

	人生の満足	仕事の満足	ポジティブ感情	落ち着き・安心感	他者との良好な関係	貢献感：社会的 Well-being	集中・没頭・フロー	達成・進歩	人生の意味・意義	自己決定感	自己効力感	楽観性・ポジティブな展望	Well-being 総合
人生の満足	1	.524**	.717**	.667**	.597**	.441**	.435**	.492**	.529**	.512**	.497**	.567**	.715**
仕事の満足	.524**	1	.667**	.532**	.409**	.595**	.639**	.634**	.585**	.508**	.504**	.582**	.766**
ポジティブ感情	.717**	.667**	1	.746**	.623**	.566**	.615**	.635**	.703**	.645**	.616**	.680**	.859**
落ち着き・安心感	.667**	.532**	.746**	1	.585**	.470**	.488**	.502**	.582**	.551**	.538**	.618**	.761**
他者との良好な関係	.597**	.409**	.623**	.585**	1	.458**	.409**	.473**	.496**	.519**	.457**	.523**	.668**
貢献感：社会的 Well-being	.441**	.595**	.566**	.470**	.458**	1	.675**	.668**	.639**	.480**	.500**	.563**	.748**
集中・没頭・フロー	.435**	.639**	.615**	.488**	.409**	.675**	1	.720**	.658**	.551**	.581**	.580**	.776**
達成・進歩	.492**	.634**	.635**	.502**	.473**	.668**	.720**	1	.745**	.624**	.639**	.709**	.831**
人生の意味・意義	.529**	.585**	.703**	.582**	.496**	.639**	.658**	.745**	1	.627**	.612**	.686**	.837**
自己決定感	.512**	.508**	.645**	.551**	.519**	.480**	.551**	.624**	.627**	1	.740**	.656**	.770**

自己効力感	.497 **	.504 **	.616 **	.538 **	.457 **	.500 **	.581 **	.639 **	.612 **	.740 **	1	.716 **	.768 **
楽観性・ポジティブな展望	.567 **	.582 **	.680 **	.618 **	.523 **	.563 **	.580 **	.709 **	.686 **	.656 **	.716 **	1	.837 **
Well-being 総合	.715 **	.766 **	.859 **	.761 **	.668 **	.748 **	.776 **	.831 **	.837 **	.770 **	.768 **	.837 **	1

*** : $p < .001$, ** : $p < .01$, * : $p < .05$

1) 紙幅の都合上、アスタリスクは数値の下に表示した。

2) n は項目の組み合わせにより異なる。

 : $0.6 \leq |r_s| < 0.7$

 : $0.7 \leq |r_s| < 0.8$

 : $0.8 \leq |r_s|$

表 3-4 ウェルビーイング項目間の相関係数（分析対象：大学院卒業生、 $n = 313-315$ ）

	人生の満足	仕事の満足	ポジティブ感情	落ち着き・安心感	他者との良好な関係	貢献感・社会的 Well-being	集中・没頭・フロー	達成・進歩	人生の意味・意義	自己決定感	自己効力感	楽観性・ポジティブな展望	Well-being 総合
人生の満足	1	.617 **	.735 **	.676 **	.652 **	.488 **	.528 **	.582 **	.568 **	.545 **	.557 **	.633 **	.758 **
仕事の満足	.617 **	1	.645 **	.591 **	.496 **	.625 **	.594 **	.617 **	.560 **	.515 **	.554 **	.621 **	.767 **
ポジティブ感情	.735 **	.645 **	1	.737 **	.657 **	.573 **	.665 **	.721 **	.737 **	.536 **	.585 **	.657 **	.851 **
落ち着き・安心感	.676 **	.591 **	.737 **	1	.665 **	.502 **	.577 **	.596 **	.560 **	.508 **	.571 **	.660 **	.781 **
他者との良好な関係	.652 **	.496 **	.657 **	.665 **	1	.498 **	.513 **	.561 **	.533 **	.548 **	.580 **	.607 **	.728 **
貢献感・社会的 Well-being	.488 **	.625 **	.573 **	.502 **	.498 **	1	.653 **	.669 **	.650 **	.552 **	.598 **	.561 **	.749 **
集中・没頭・フロー	.528 **	.594 **	.665 **	.577 **	.513 **	.653 **	1	.747 **	.700 **	.590 **	.625 **	.573 **	.798 **
達成・進歩	.582 **	.617 **	.721 **	.596 **	.561 **	.669 **	.747 **	1	.800 **	.683 **	.639 **	.606 **	.856 **
人生の意味・意義	.568 **	.560 **	.737 **	.560 **	.533 **	.650 **	.700 **	.800 **	1	.659 **	.642 **	.656 **	.847 **
自己決定感	.545 **	.515 **	.536 **	.508 **	.548 **	.552 **	.590 **	.683 **	.659 **	1	.720 **	.615 **	.762 **
自己効力感	.557 **	.554 **	.585 **	.571 **	.580 **	.598 **	.625 **	.639 **	.642 **	.720 **	1	.733 **	.792 **
楽観性・ポジティブな展望	.633 **	.621 **	.657 **	.660 **	.607 **	.561 **	.573 **	.606 **	.656 **	.615 **	.733 **	1	.820 **
Well-being 総合	.758 **	.767 **	.851 **	.781 **	.728 **	.749 **	.798 **	.856 **	.847 **	.762 **	.792 **	.820 **	1

*** : $p < .001$, ** : $p < .01$, * : $p < .05$

1) 紙幅の都合上、アスタリスクは数値の下に表示した。

2) n は項目の組み合わせにより異なる。

	$: 0.6 \leq r_s < 0.7$
	$: 0.7 \leq r_s < 0.8$
	$: 0.8 \leq r_s $

3-4. ウェルビーイング項目と入学時・在学中・卒業後の状況との相関分析

続いて、ウェルビーイング項目と、入学時の状況、大学・大学院在学中の学習行動・学習成果、卒業後の状況との関連を確認するため、これらの項目間の相関係数（ r_s ）を、学部卒業生と大学院卒業生のそれぞれについて示す。ここでは、いずれかのウェルビーイング項目との r_s がおよそ 0.2 以上であった項目を中心に表に掲載した。なお、学部または大学院のいずれか一方において r_s がおよそ 0.2 以上であった項目については、比較のため、他方の表にも r_s を掲載している。相関分析で検討した変数項目は、以下の表 3-5 に示すとおりである。DP（11 項目）平均は、早稲田大学のディプロマ・ポリシーに対応する 11 項目の主観的な達成度（各 4 件法）の平均値である。それら 11 項目の Cronbach's α は .919 であった。

表 3-5 の項目のうち、学部卒業生または大学院卒業生のどちらか一方において、ウェルビーイング各項目のいずれかとの r_s がおよそ 0.2 以上であった項目は、本学（大学院）の受験理由、大学・大学院在学中経験、DP 平均、専門科目熱心度、専門科目役立ち度、一般科目役立ち度、現在収入、現在の学習活動、相談できる友人数、転職・辞職理由、現在の就業形態であった（表 3-6、表 3-7）。

表 3-6、表 3-7 によれば、学部卒業生と大学院卒業生に共通して、DP 平均や現在収入、相談できる友人数などがウェルビーイング項目と強く関連していた。その一方で、両者の間にはいくつかの相違もみられた。まず、大学院卒業生においては、学部卒業生と比較して、ウェルビーイング項目と受験理由の関連がやや強く、また、在学中経験との関連も相対的に強かった。加えて、専門科目に熱心に取り組むことや、その専門科目が将来の仕事に役立つことも、大学院卒業生のウェルビーイングと結び付く傾向がみられた。さらに、転職・辞職理由や就業形態についても、大学院卒業生のウェルビーイングと比較的強く相関していることが確認できた。

表 3-5 相関分析で検討した変数一覧

■入学時状況	■卒業後状況
FG（ファーストジェネレーション）	就職先重視内容
本学（大学院）の受験理由	転職・辞職理由
大学第一志望	就業形態
学部第一志望	業種
専門分野 4 類型	職種
	現在働いている企業・団体等の従業員規模
■在学中学習行動・学習成果	専門科目役立ち度

在学中経験	一般科目役立ち度（※学部卒業生のみ）
DP（11 項目）平均	現在収入
専門科目熱心度	現在首都圏
一般科目熱心度（※学部卒業生のみ）	現在の学習活動
GPA	仕事上の難しい問題に直面したときに、個人的に相談できる友人数

- 1) 下位項目が存在する場合、すべての項目を相関分析に投入している。変数の詳細は付表等を参照。
- 2) 質問項目「一般科目熱心度」「一般科目役立ち度」は、学部卒業生のみを対象に質問されている。

表 3-6 ウェルビーイングの各項目と入学時状況、学習成果・学習行動、卒業後の状況との関連（分析対象：学部卒業生、 $n = 414-838$ ）

	人生の満足	仕事の満足	ポジティブ感情	落ち着き・安心感	他者との良好な関係	貢献感・社会的意義	集中・没頭・フロー	達成・進歩	人生の意味・意義	自己決定感	自己効力感	楽観性・ポジティブな展望	Well-being 総合
FG ダミー	.021	-.005	.032	.022	.027	-.001	.010	.016	.037	-.008	.011	.023	.023
現在居住地：首都圏ダミー	.139 **	.059	.075 *	.102 **	.068	-.032	.022	.036	.018	.058	.038	.024	.060
本学受験理由													
勉強したい分野がその学部にあったから	.123 **	.108 **	.139 **	.097 **	.150 **	.184 **	.155 **	.165 **	.094 **	.155 **	.107 **	.083 *	.167 **
将来の希望する職業分野を勉強できるから	.106 **	.208 **	.146 **	.123 **	.103 **	.230 **	.203 **	.199 **	.205 **	.169 **	.162 **	.142 **	.213 **
指導してほしい教員がその学部にいたから	.034	.086 *	.044	.084 *	.038	.165 **	.111 **	.079 *	.091 **	.031	.053	.065	.108 **
学部在学中経験													
自分でテーマを決めて研究したり、その成果を発表したりした	.073 *	.087 *	.119 **	.088 *	.116 **	.159 **	.181 **	.176 **	.141 **	.134 **	.114 **	.132 **	.159 **
授業内容について、他の学生と議論した	.085 *	.101 **	.144 **	.098 **	.078 *	.183 **	.195 **	.194 **	.176 **	.139 **	.144 **	.154 **	.186 **
授業内容について、教員と議論した	.067	.059	.108 **	.086 *	.080 *	.174 **	.175 **	.182 **	.159 **	.112 **	.112 **	.156 **	.160 **
授業の一環として大学外で学んだ（フィールドワーク等）	-.036	.051	.049	.037 *	-.023	.126 **	.119 **	.094 **	.097 **	.044	.060	.080 *	.079 *
できるだけ授業を休まないようにした	.032	-.003	.011	.007	.059	.030	.024	.015	.002	.005	-.014	-.022	.016
よい教員に巡り会えた	.070 *	.078 *	.115 **	.070 *	.151 **	.148 **	.127 **	.154 **	.138 **	.097 **	.081 *	.125 **	.141 **
専門科目への熱心度	.023	.048	.037	.030	.043	.086 *	.097 **	.110 **	.059	.049	.039	.033	.069 *
GPA	.032	-.008	-.001	.019	.001	-.007	-.013	.006	-.028	-.002	-.037	-.035	-.009
学部在学時 DP 平均	.107 **	.178 **	.198 **	.128 **	.182 **	.266 **	.257 **	.209 **	.231 **	.197 **	.214 **	.209 **	.254 **

現在の学習活動

勤めている企業等の教育・研修プログラムに参加する	.132 **	.182 **	.151 **	.135 **	.100 **	.189 **	.157 **	.131 **	.159 **	.088 *	.121 **	.135 **	.196 **
単発の講座、セミナー、勉強会に参加する	.013	.166 **	.087 *	.058	.039	.131 **	.171 **	.120 **	.099 **	.060	.103 **	.081 *	.134 **
本を読む	.094 **	.183 **	.189 **	.139 **	.154 **	.146 **	.251 **	.216 **	.185 **	.218 **	.206 **	.216 **	.240 **
仕事上の困難に直面したときに相談できる友人数	.200 **	.240 **	.249 **	.165 **	.304 **	.202 **	.227 **	.241 **	.249 **	.210 **	.228 **	.245 **	.297 **
現在収入	.136 **	.232 **	.117 **	.060	.081 *	.125 **	.184 **	.169 **	.115 **	.140 **	.187 **	.203 **	.191 **
専門科目の現在の仕事への役立ち度	.056	.145 **	.101 **	.064	.027	.177 **	.146 **	.163 **	.164 **	.157 **	.165 **	.104 **	.158 **
一般科目の現在の仕事への役立ち度	.051	.132 **	.125 **	.115 **	.047	.209 **	.194 **	.132 **	.170 **	.080 *	.118 **	.062	.152 **

転職・辞職理由（ダミー）

新たなステップアップを図るため	.173 **	.236 **	.152 **	.106 *	.102 *	.125 *	.123 *	.201 **	.152 **	.144 **	.166 **	.175 **	.202 **
収入面での不満	-.153 **	-.155 **	-.129 **	-.077	-.057	-.108 *	-.159 **	-.095 **	-.088	-.037	-.076	-.127 **	-.139 **
解雇や倒産など	-.106 *	-.078	-.066	-.077	-.038	-.002	-.03	-.042	-.068	-.039	.012	-.109 *	-.083

現在の就業形態（ダミー）

正規の職員・従業員	.085 *	-.006	-.028	.052	.021	.047	-.043	-.038	-.038	-.051	-.036	.016	.004
就業していない	-.014	-.080 *	.037	.020	-.021	-.120 **	-.038	-.042	-.009	-.018	.002	-.003	-.051

*** : $p < .001$, ** : $p < .01$, * : $p < .05$

1) 紙幅の都合上、アスタリスクは数値の下に表示した。

2) FG ダミー、現在居住地：首都圏ダミー、GPA は、いずれも教学およびウェルビーイングに関わる重要項目と考えられるため、 r_s の値に関わらず表に掲載している。

3) 「熱心」と「役立ち」の各項目については、それらを「経験しなかった」と回答した場合を除いている。

4) n は項目の組み合わせにより異なる。

: $0.1 \leq |r_s| < 0.2$

: $0.2 \leq |r_s| < 0.3$

: $0.3 \leq |r_s|$

表 3-7 ウェルビーイングの各項目と入学時状況、学習成果・学習行動、卒業後の状況

との関連（分析対象：大学院卒業生、 $n = 134-315$ ）

	人生の満足	仕事の満足	ポジティブ感情	落ち着き・安心感	他者との良好な関係	Well-being 貢献感：社会的 Being	集中・没頭・フロー	達成・進歩	人生の意味・意義	自己決定感	自己効力感	展望 楽観性・ポジティブな	Well-being 総合
FG ダミー	-.144 *	-.082	-.130 *	-.088	-.077	-.118 *	-.047	-.119 *	-.100	-.090	-.116 *	-.121 *	-.134 *
現在居住地：首都圏ダミー	.012	-.004	.050	.121 *	.011	-.016	.033	.011	-.014	.002	.030	.040	.037
本学大学院受験理由													
研究したい分野が本学にあったから	.154 *	.137 *	.194 **	.177 **	.174 **	.177 **	.185 **	.206 **	.167 **	.152 *	.204 **	.184 **	.216 **
将来の希望する職業分野を勉強できるから	.085	.155 *	.175 **	.083	.041	.093	.158 *	.130 *	.103	.038	.005	.086	.131 *
指導してほしい教員が本学にいたから	.180 **	.161 *	.215 **	.121	.182 **	.145 *	.211 **	.231 **	.168 **	.168 **	.146 *	.116	.194 **
大学院在学中経験													
自分でテーマを決めて研究したり、その成果を発表したりした	.091	.065	.134 *	.129 *	.114 *	.181 **	.199 **	.148 *	.211 **	.186 **	.216 **	.193 **	.186 **
研究内容について、他の学生と議論した	.167 **	.122 *	.226 **	.176 **	.179 **	.206 **	.215 **	.202 **	.210 **	.182 **	.226 **	.180 **	.229 **
研究内容について、教員と議論した	.150 **	.125 *	.205 **	.148 **	.164 **	.243 **	.235 **	.202 **	.185 **	.187 **	.187 **	.127 *	.210 **
授業の一環として大学外で学んだ（フィールドワーク等）	.094	.046	.133 *	.011	.056	.137 *	.124 *	.129 *	.198 **	.029	.074	.112	.122 *
できるだけ授業を休まないようにした	.123 *	.080	.147 *	.135 *	.136 *	.097	.155 **	.162 **	.175 **	.168 **	.191 **	.165 **	.188 **
よい教員に巡り合えた	.197 **	.173 **	.210 **	.148 **	.160 **	.194 **	.223 **	.193 **	.202 **	.138 *	.155 **	.159 **	.221 **
専門科目への熱心度	.170 **	.125 *	.146 *	.140 *	.130 *	.180 **	.226 **	.224 **	.177 **	.161 **	.239 **	.156 **	.199 **
GPA	.058	-.033	.064	.051	-.014	-.013	.010	.038	.062	-.056	-.067	-.048	.027
学部在学時 DP 平均	.332 **	.195 **	.406 **	.297 **	.285 **	.340 **	.399 **	.412 **	.413 **	.309 **	.372 **	.339 **	.413 **
現在の学習活動													
勤めている企業等の教育・研修プログラムに参加する	.157 **	.124 *	.148 **	.191 **	.137 *	.194 **	.191 **	.183 **	.141 *	.118 *	.140 *	.141 *	.200 **
単発の講座、セミナー、勉強会に参加する	.145 *	.201 **	.206 **	.110	.070	.272 **	.216 **	.231 **	.264 **	.186 **	.149 **	.182 **	.233 **
本を読む	.169 **	.139 *	.196 **	.143 *	.079	.216 **	.222 **	.217 **	.207 **	.151 **	.206 **	.163 **	.206 **
仕事上の困難に直面したときに相談できる友人数	.103	.164 **	.152 **	.139 *	.219 **	.207 **	.187 **	.254 **	.255 **	.180 **	.175 **	.205 **	.225 **
現在収入	.220 **	.230 **	.164 **	.192 **	.112	.114	.110	.144 *	.068	.086	.214 **	.241 **	.198 **
専門科目の現在の仕事への役立ち度	.228 **	.240 **	.228 **	.165 **	.139 *	.259 **	.278 **	.225 **	.209 **	.145 *	.201 **	.184 **	.255 **
転職・辞職理由（ダミー）													

新たなステップアップを図るため	.080	.178 *	.122	.138	.208 *	.140	.163	.115	.083	.099	.178 *	.280 **	.199 *
収入面での不満	-.081	-.074	-.012	.055	-.037	-.116	-.141	-.193 *	-.105	-.091	-.094	-.061	-.086
解雇や倒産など	-.146	-.131	-.183 *	-.184 *	-.103	-.079	-.132	-.060	-.063	-.067	-.194 *	-.210 *	-.176 *
現在の就業形態（ダミー）													
正規の職員・従業員	-.052	-.038	-.102	-.008	-.050	-.112 *	-.162 **	-.217 **	-.235 **	-.154 **	-.083	-.084	-.146 **
就業していない	-.019	-.191 **	.015	-.061	-.072	-.099	.008	.023	.048	-.032	-.017	-.098	-.050

*** : $p < .001$, ** : $p < .01$, * : $p < .05$

1) 紙幅の都合上、アスタリスクは数値の下に表示した。

2) FG ダミー、現在居住地：首都圏ダミー、GPA は、いずれも教学およびウェルビーイングに関わる重要項目と考えられるため、 r_s の値に関わらず表に掲載している。

3) 「熱心度」・「役立ち度」の項目については、それらを「経験しなかった」と回答した場合を除いている。

4) 質問項目「一般科目熱心度」「一般科目の現在の仕事への役立ち度」は、大学院卒業生の質問項目には含まれていない。

5) n は項目の組み合わせにより異なる。

： $0.1 \leq |r_s| < 0.2$

： $0.2 \leq |r_s| < 0.3$

： $0.3 \leq |r_s|$

3-5. 階層的重回帰分析

本節では、学部・大学院卒業生のウェルビーイングと、大学・大学院在学時の学習行動および教学に関わる諸条件との関連について検討する。先の相関分析から、学部卒業生と大学院卒業生では、ウェルビーイングと関連する変数の現れ方が異なる可能性が示されたため、本分析では両者を区別し、それぞれにおける関連要因を探索的に検討する。ここでは、どの要因が Well-being 総合と独立して関連しているのかを確認するため、入学時・在学中・卒業後の変数を段階的に投入し、各ステップで新たに加えた変数群の説明力を確認する。

そのために、ウェルビーイングの総合項目である「Well-being 総合」を目的変数とした階層的重回帰分析を実施する。独立変数は4ステップに分けて投入し、ステップ1では基本的な属性や所属学部・研究科に関わる項目、ステップ2では入学時・在学中の状況、ステップ3では在学中の学習成果、ステップ4では現在の状況に関する変数を投入した。なお、転職・辞職理由に関する変数は、該当する有効ケースが転職・辞職経験者に限られるため、回帰分析には投入しなかった。

ステップ1およびステップ3において投入するのは理論的観点および教学的観点から重要と考えられる変数であるため、両ステップの変数を強制投入法によって投入した。一方、ステップ2およびステップ4においては、相関分析によって一定の関連が認められた変数を対象として、ステップワイズ法（変数増減法）に

よる変数選択を行い、「Well-being 総合」と関連する変数を探索的に検討した。本分析では、仮説検証的に少数の変数をあらかじめ特定するのではなく、多数の調査項目のなかから関連要因を整理することを目的としている。そのため、一定の基準に基づいて独立変数を選択する方法として、ステップワイズ法を補助的に用いた。ただし、ステップワイズ法を基本としながらも、変数の選択にあたっては、AIC（赤池情報量基準）や BIC（ベイズ情報量基準）といったモデルの当てはまりの良さを評価するための指標も参照しながら変数選択の妥当性を吟味した。また VIF 値によって多重共線性を確認した。分析には IBM SPSS Statistics Ver. 30 を用いた。

表中に示す標準偏回帰係数 (β) は、各ステップにおいて、それぞれの説明変数が「Well-being 総合」の個人差を、どの程度説明・予測しているかを示す指標である。 β の値が正に大きいほど、その変数の値が高い場合に「Well-being 総合」の数値も高くなる傾向を示し、負に大きい場合は、変数の値が高くなるにつれて「Well-being 総合」の数値が低くなる傾向を示す。また、 β の値が 0 に近い場合には、当該変数と「Well-being 総合」との間に明確な関連がみられないことを意味する。表の下段に示す R^2 および $\text{adj. } R^2$ は、回帰モデルによって目的変数である「Well-being 総合」の個人差（分散）が、どの程度説明されているかを示す決定係数という指標である。 R^2 は説明変数群が目的変数の全体的な変動のうちどの程度を説明できるかを示す指標であり、 $\text{adj. } R^2$ （自由度調整済み決定係数）は説明変数の数を考慮して自由度調整を行うことで、不要な変数の追加による過大評価を抑えた指標である。また表の最下段の ΔR^2 は、ひとつ前のステップからの R^2 の変化量を意味する。 ΔR^2 が極めて小さい、または統計的に有意でない場合には、そのステップで新たに投入した変数の独立した説明力が乏しい可能性、または先行ステップや同じステップで同時に投入した他の変数によって、その影響が既に説明されている可能性が示唆される。

表 3-8 は、分析対象を学部卒業生に限定し、「Well-being 総合」を目的変数とした、階層的重回帰分析の結果である。学部卒業生モデルでは、入学時・在学中の経験に関する変数に加えて、DP 平均、現在収入、相談できる友人数、現在の学習活動が、Well-being 総合と関連するかを確認する。ステップ 1 では、入学前および現在における基本的な状況を示す変数として、FG ダミー、現在首都圏ダミー、学部在籍時の専攻ダミーを強制投入した。本ステップにおいて、FG ダミー、現在首都圏ダミー、専攻分野ダミーの係数はいずれも有意でなかった。

ステップ 2 では、入学時および在学中の変数として、本学の受験理由と在学中の学習経験の各変数を検討した。ステップワイズ法により、「受験理由_将来の希望する職業分野を勉強できるから」($\beta = .184$)、「在学中経験_授業内容について、他の学生と議論した」($\beta = .174$)、「在学中経験_できるだけ授業を休まないようにした」($\beta = -.122$)、「在学中経験_よい教員に巡り合えた」($\beta = .124$) が選択され、いずれの変数の係数も統計的に有意であった。また、これらの変数の投入による ΔR^2 は .093 であった。これら 4 つの変数のうち、「受験理由_将来の希望する職業分野を勉強できるから」「在学中経験_授業内容について、他の学生と議論した」「在学中経験_よい教員に巡り合えた」は、Well-being 総合と正の関連を示していた。一方、「在学中経験_できるだけ授業を休まないようにした」は、Well-being 総合と負の関連を示していた。

ステップ 3 では、在学中の学習成果を表す変数として、GPA と DP 平均を強制投入した。その結果、直接

評価にあたる GPA ($\beta = .021$) は、Well-being 総合と明確な関連を示さなかった一方、間接評価にあたる DP 平均 ($\beta = .218$) は、Well-being 総合と正の関連を示していた。なお、このステップにおける変数の投入による ΔR^2 は .031 であり、比較的小さかった。また、本ステップにおける DP 平均の投入によって、「在学中経験_よい教員に巡り合えた」の係数が低下したことから、在学時における教員との出会いが現在のウェルビーイングに及ぼす影響は、DP 平均によって部分的に媒介されている可能性が示唆された。

ステップ 4 では、現在の状況に関する変数として、表 3-6 で示した「現在の学習活動」「仕事上の困難に直面したときに相談できる友人数」「現在収入」「専門科目の現在の仕事への役立ち度」「現在の就業形態（ダミー）」の各変数を検討した。ステップワイズ法により、「現在収入」($\beta = .168$)、「個人的に相談できる友人数」($\beta = .111$)、「現在の学習活動_勤めている企業等の教育・研修プログラムに参加する」($\beta = .088$)、「現在の学習活動_本を読む」($\beta = .161$) が選択された。これら 4 つの変数はいずれも Well-being 総合と正の関連を示しており、そのなかでも、現在収入の β が相対的に大きかった。本ステップにおける変数の投入による ΔR^2 は .094 であった。

ステップ 4 の変数を投入すると、ステップ 3 で投入した DP 平均の係数は低下した。この結果は、DP 平均と現在のウェルビーイングとの関連の一部が、現在収入や現在の学習活動などの、卒業後の状況に関する変数を通じて説明される可能性を示している。したがって、現在収入や現在の学習活動など、卒業後の状況に関する変数が、DP 平均と現在のウェルビーイングとの関連を部分的に媒介している可能性が示唆される。なお、本分析では媒介効果そのものを直接検証しているわけではないため、ここでいう媒介とは、階層的重回帰分析において後続ステップの変数投入により先行ステップの係数が低下するという、古典的な解釈に基づくものである。

以上を整理すると、学部卒業生では、GPA は Well-being 総合と明確な関連を示さなかった一方、DP 平均は正の関連を示した。また、現在収入、相談できる友人数、企業等の教育・研修プログラムへの参加、本を読むことも、Well-being 総合と正に関連していた。したがって、学部卒業生のウェルビーイングは、在学中の学習成果に関する自己評価だけでなく、卒業後の経済状況、相談できる友人関係、現在の学習活動とも結びついていると考えられる。

表 3-8 階層的重回帰分析の結果（分析対象：学部卒業生、 $n = 736$ ）

	ステップ 1	ステップ 2	ステップ 3	ステップ 4
	β	β	β	β
FG ダミー	.009	-.013	-.004	.008
現在首都圏ダミー	.051	.061 †	.063 †	.048
人文科学ダミー	.005	.008	-.006	.028
理・工学ダミー	.050	.046	.046	.046
教育ダミー	.031	.034	.037	.065 †

受験理由_将来の希望する職業分野を勉強できるから	.184 ***	.148 ***	.143 ***
在学中経験_授業内容について、他の学生と議論した	.174 ***	.110 **	.066 †
在学中経験_できるだけ授業を休まないようにした	-.122 **	-.149 **	-.126 **
在学中経験_よい教員に巡り合えた	.124 **	.056	.058
GPA		.021	.045
学部在学中 DP 平均		.218 ***	.169 ***
現在収入			.168 ***
個人的に相談できる友人数			.111 **
現在の学習活動_勤めている企業等の教育・研修プログラムに参加する			.088 *
現在の学習活動_本を読む			.161 ***
R^2	.006	.104 ***	.135 ***
adj. R^2	-.001	.093	.122
ΔR^2		.099 ***	.031 ***

*** : $p < .001$, ** : $p < .01$, * : $p < .05$, † : $p < .10$

1) 従属変数は、Well-being 総合。

2) 学部専攻分野の基準カテゴリーは社会科学。

次に、表 3-9 は、分析対象を大学院卒業生に限定した、階層的重回帰分析の結果である。大学院卒業生モデルでは、大学院受験理由や大学院在学中経験に加えて、GPA、DP 平均、現在収入などが、Well-being 総合とどのように関連するかを確認する。ステップ 1 では、入学前および現在における基本的な状況を示す変数として、FG ダミー、現在首都圏ダミー、研究科専攻分野ダミーを強制投入した。そのうち、FG ダミー ($\beta = -.240$) のみが、Well-being 総合と負の関連を示していた。ただし本分析の有効ケースのうち、FG に該当するケースは 18 ケースと少なく、割合にして 12% であるため、FG ダミーと Well-being 総合との関連については慎重に解釈する必要がある。

ステップ 2 では、入学時および在学中の変数として、本学の受験理由と在学中の学習経験の各変数を検討した。ステップワイズ法により、「大学院受験理由_研究したい分野が本学にあったから」($\beta = .170$)、「大学院在学中経験_研究内容について、教員と議論した」($\beta = .210$) が選択され、これら 2 つの変数は、いずれも Well-being 総合と正の関連を示していた。これらの変数の投入による ΔR^2 は .092 であった。

ステップ 3 では、在学中の学習成果を表す変数として、GPA と DP 平均を強制投入した。ここでは GPA は大学院での GPA であり、DP 平均は学部在学中 DP 平均を用いた。その結果、直接評価にあたる GPA ($\beta = -.079$) は、Well-being 総合と明確な関連を示さなかった一方、間接評価にあたる DP 平均 ($\beta = .412$) は、Well-being 総合と正の関連を示していた。また、このステップにおける変数の投入による ΔR^2 は .129 であり、比

較的大きかった。なお、GPA と DP 平均を投入すると、ステップ 2 で投入した大学院受験理由および大学院在学中経験の係数は低下した。この結果は、受験理由や在学中経験と現在のウェルビーイングとの関連の一部が、学部在学中 DP 平均によって説明される可能性を示している。ただし、ここで用いた GPA と DP 平均は、それぞれ大学院段階の成績評価と学部段階の学習成果に関する自己評価であり、同一段階の学習成果指標を比較したものではない点には留意が必要である。

ステップ 4 では、現在の状況に関する変数として、表 3-7 で示した「現在の学習活動」「仕事上の困難に直面したときに相談できる友人数」「現在収入」「専門科目の現在の仕事への役立ち度」「現在の就業形態（ダミー）」の各変数を検討した。ステップワイズ法により「現在収入」($\beta = .251$) のみが選択され、現在収入は、Well-being 総合と正の関連を示していた。この変数の投入による ΔR^2 は .057 であり、比較的小さかった。

ステップ 1 からステップ 4 を通して、FG ダミーは現在のウェルビーイングに対して一貫して負の係数を示していた。ただし、上述の通り、本分析の有効ケースのうち FG に該当するケースは 18 ケースと少ないため、この結果の解釈には慎重である必要がある。FG であることが大学院卒業生のウェルビーイングとどのように結びついているのかについては、今後さらに検討が必要である。

以上を整理すると、大学院卒業生では、GPA は Well-being 総合と明確な関連を示さなかった一方、DP 平均は比較的大きな正の関連を示した。また、大学院受験理由や大学院在学中の教員との議論経験は、ステップ 2 では正の関連を示したものの、DP 平均を投入した後には係数が低下した。現在の状況に関する変数では、現在収入のみが選択され、Well-being 総合と正に関連していた。

表 3-9 階層的重回帰分析の結果（分析対象：大学院卒業生、 $n = 155$ ）

	ステップ 1	ステップ 2	ステップ 3	ステップ 4
	β	β	β	β
FG ダミー	-.240 **	-.217 **	-.195 **	-.179 **
現在首都圏ダミー	.114	.123	.106	.066
人文科学ダミー	.035	.025	.026	.072
理・工学ダミー	-.040	-.004	.085	.071
教育ダミー	.017	.015	.040	.078
大学院受験理由_研究したい分野 が本学にあったから		.170 *	.101	.106
大学院在学中経験_研究内容につ いて、教員と議論した		.210 **	.099	.099
GPA			-.079	-.072
学部在学中 DP 平均			.412 ***	.407 ***

現在収入						.251	***
R^2	.070	.162	***	.291	***	.347	***
adj. R^2	.039	.122		.247		.302	
ΔR^2		.092	***	.129	***	.057	***

*** : $p < .001$, ** : $p < .01$, * : $p < .05$, † : $p < .10$

1) 従属変数は、Well-being 総合。

2) 研究科専攻分野の基準カテゴリーは、社会科学。

以上の結果を整理すると、学部卒業生モデル（表 3-8）と大学院卒業生モデル（表 3-9）では、Well-being 総合と関連する変数の現れ方に一定の違いがみられた。学部卒業生モデルでは、ステップ 2 で投入された入学時・在学中の状況に関する変数に加えて、ステップ 4 で投入された現在収入、相談できる友人数、現在の学習活動に関する変数が、Well-being 総合と関連していた。一方、大学院卒業生モデルでは、ステップ 3 で投入された学部在学中 DP 平均が相対的に大きな係数を示しており、学部段階の学習成果に関する自己評価が、現在のウェルビーイングと強く結びついている可能性が示された。

学部卒業生モデルと大学院卒業生モデルに共通していたのは、GPA が Well-being 総合と明確な関連を示さず、DP 平均が正の関連を示した点である。一方、学部卒業生では、相談できる友人数や現在の学習活動など、卒業後の生活・学習に関わる複数の変数が選択されたのに対し、大学院卒業生では、現在の状況に関する変数として現在収入のみが選択された。このことから、Well-being 総合と関連する要因の現れ方は、学部卒業生と大学院卒業生で異なる可能性がある。

ただし、本分析は、学部卒業生と大学院卒業生を別個のモデルとして分析したものであり、さらにステップ 2 およびステップ 4 ではステップワイズ法による探索的な変数選択を行っている。そのため、両モデルの標準偏回帰係数や各ステップの説明力を直接比較することには慎重である必要がある。ここで確認された結果は、学部卒業生と大学院卒業生のウェルビーイングの規定構造の違いを厳密に検証したものではなく、それぞれのモデル内で確認された関連要因の整理として解釈する必要がある。

3-6. まとめ

本章では、早稲田大学卒業生の現在のウェルビーイングに着目し、学部卒業生と大学院卒業生それぞれについて、ウェルビーイングと関連する要因を検討した。まず第 1 節で、作成したウェルビーイング項目の概要およびその記述統計量を示した。第 2 節では、学部卒業生と大学院卒業生の各々について、在学時の学部・研究科 4 類型を区別したうえで棒グラフを作成し、各ウェルビーイング項目の特徴を記述した。第 3 節では、相関分析表を作成することで、ウェルビーイング項目間の相関を確認した。また第 4 節では、ウェルビーイング項目と入学時・在学中・卒業後の状況との相関を確認し、各ウェルビーイング項目と比較的強く関連す

る変数を探索的に整理した。第5節では、第4節で検討した変数を中心に投入する階層的重回帰分析を行い、学部卒業生および大学院卒業生それぞれについて、Well-being 総合と関連する要因を検討した。

回帰分析の結果によれば、学部卒業生と大学院卒業生のいずれにおいても、DP 平均および現在収入は Well-being 総合と関連していた。また、学部卒業生では本学への受験理由や学部在学中経験、大学院卒業生では本学大学院への受験理由や大学院在学中経験も、モデル内で関連要因として選択された。とりわけ DP 平均は、学部卒業生と大学院卒業生のいずれにおいても相対的に大きな係数を示しており、在学中の学習成果に関する自己評価が、卒業後のウェルビーイングと結びついていることが示唆された。そのため、卒業生のウェルビーイングを考えるうえでは、学部段階において学生が DP の達成を実感できるような教学環境をどのように整備するかが、重要な検討課題となる。

一方、本分析では、学部卒業生と大学院卒業生で、Well-being 総合と関連する変数の現れ方に一定の違いもみられた。ただし、本章の分析は、両者を別個のモデルとして扱った探索的な検討であり、両者の規定構造の違いを厳密に検証したものではない。したがって、ここでの結果は、それぞれのモデル内で確認された関連要因の整理として解釈する必要がある。

集計データ

I. 調査概要

- ◆ 調査方法：「Qualtrics」を用いたオンライン調査。アンケート URL を登録されたメールアドレスに送付、およびアンケート URL 等が印刷されたダイレクトメールの郵送
- ◆ 調査時期：2025 年 8 月 5 日～9 月 15 日
- ◆ 調査対象者：早稲田大学の 2012 年度学部入学者、および早稲田大学以外で学部を卒業し 2016 年度に早稲田大学大学院（修士課程）に入学した者 11,238 名
- ◆ 回収状況：1,521 件（回収率：13.5%）
- ◆ 調査結果引用に関するお願い

本調査結果を引用される際には、下記の出典を明記くださいますようお願いいたします。

著者：早稲田大学大学総合研究センター

タイトル：2025 年度 早稲田大学卒業生調査報告書

II. 調査項目一覧

1. 基本情報

- Q01. あなたの性別について、あてはまるものをお選びください。
- Q02. あなたの最終学歴について、あてはまるものを一つだけお選びください。
- Q03. あなたが卒業した大学・学部名をお選びください。
- Q04. あなたが卒業した早稲田大学の学部名をお選びください。
- Q05. あなたが修士課程を修了した、または在学している大学・研究科名をお選びください。
- Q06. あなたが修了または在学している早稲田大学の研究科名（修士課程）をお選びください。
- Q07. あなたが博士後期課程を修了した（単位取得退学を含む）、または在学している大学・研究科名をお選びください。
- Q08. あなたが修了または在学している早稲田大学の研究科名（博士後期課程）をお選びください。
- Q09. あなたの高校卒業時の居住地について都道府県名をお選びください（海外の場合は海外をお選びください）。
- Q10. あなたの現在の居住地について都道府県名をお選びください（海外の場合は海外をお選びください）。
- Q11. あなたのご両親の最終学歴をお選びください。

2. 大学入学前・在学時の学部経験

- Q12. あなたが大学（学部）に入学した試験の形態を、次の選択肢の中から一つだけお選びください。

- Q13. 入学した大学は第一志望でしたか。また、入学した学部は第一志望でしたか。
- Q14. あなたは現役で入学しましたか（学部）。
- Q15. 本学の受験を決めた理由として、次の項目はそれぞれどのくらいあてはまりますか。
- Q16. 高校卒業までに留学したこと、海外に住んでいたことはありますか。
- Q17. 学部在学中において、次のような活動にどのくらい熱心に取り組んでいましたか。
- Q18. 学部在学中に、以下のような経験をしましたか。
- Q19. 学部在学中に留学をしたことはありますか。
- Q20. 学部在学中において、あなたの成績は、全体的に学部の中でどのあたりでしたか。
- Q21. 学部で次のようなことをどの程度身につけましたか。

3. 大学院入学前・在学時の経験

- Q22. 本学大学院の受験を決めた理由として、次の項目はそれぞれどのくらいあてはまりますか。
- Q23. 大学院在学中において、次のような活動にどのくらい熱心に取り組んでいましたか。
- Q24. 大学院在学中に、以下のような経験をしましたか。
- Q25. 大学院在学中に留学をしたことはありますか。

4. 大学卒業（修了）時とその後

- Q26. あなたは学部を4年間で卒業しましたか。
- Q27. あなたは学部卒業時にどのような進路選択をしましたか。
- Q28. あなたは大学院（修士課程）修了時にどのような進路選択をしましたか。
- Q29. あなたは大学院（博士後期課程）修了時にどのような進路選択をしましたか。
- Q30. 学部・大学院等の卒業・修了後最初の就職先を決定するに当たって最も重視したことは何ですか。
- Q31. 学部・大学院等の卒業・修了後最初の居住地について都道府県名をお選びください。
- Q32. 学部・大学院等の卒業・修了後最初に就いたお仕事は、現在も継続されていますか。
- Q33. 学部・大学院等の卒業・修了後最初に就いたお仕事の勤続年数を記入してください。
- Q34. 転職または辞職された理由は何ですか。
- Q35. あなたの現在の就業形態について、該当するものを一つだけお選びください。
- Q36. 現在働いている企業・団体等の業種について、該当するものを一つだけお選びください。
- Q37. 現在働いている企業・団体等の職種について、該当するものを一つだけお選びください。
- Q38. 現在働いている企業・団体等の従業員規模について、該当するものを一つだけお選びください。
- Q39. 現在のお仕事の勤続年数を記入してください。
- Q40. 現在の学習活動について、最もあてはまるものをお選びください。
- Q41. あなたの現在の年収（税込）について、該当するものを一つだけお選びください。
- Q42. あなたの学部時代の経験は、仕事にどの程度役立っていますか。

Q43. あなたの大学院時代の経験は、仕事にどの程度役立っていますか。

Q44. あなたは、仕事上の難しい問題に直面したときに、個人的に相談できる友人がどれくらいいますか。

Q45. その友人は、どのような関係にある方ですか。

5. Well-being

Q46. あなたの現在の生活・仕事・人生は、どの程度望ましい状態にあると感じますか。

6. 卒後 10 年時点での関わり

Q47. あなたは早稲田大学の校友(こうゆう)として、現在、早稲田大学とどのように関わっていますか。

Q48. 早稲田大学の校友(卒業生)であることを誇りに思う時はどのような時ですか。

Q49. あなたが早稲田大学に関する情報に触れる機会・手段として、どのようなものがありますか。

注1：グレー部分の自由記述設問の記載は省略した。

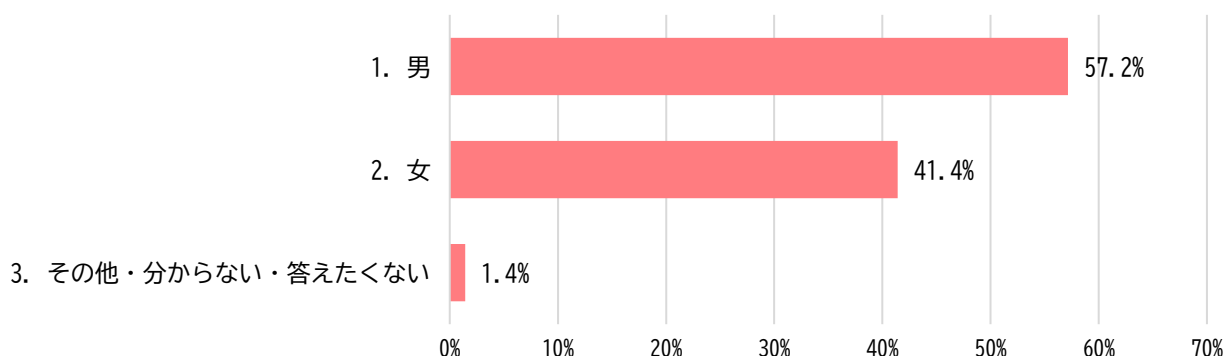
注2：「全体の集計データ」のQ番号は、この資料のために付加した番号である。

Ⅲ. 調査データ〈グラフ〉

1. 基本調査

Q01. あなたの性別について、あてはまるものをお選びください。

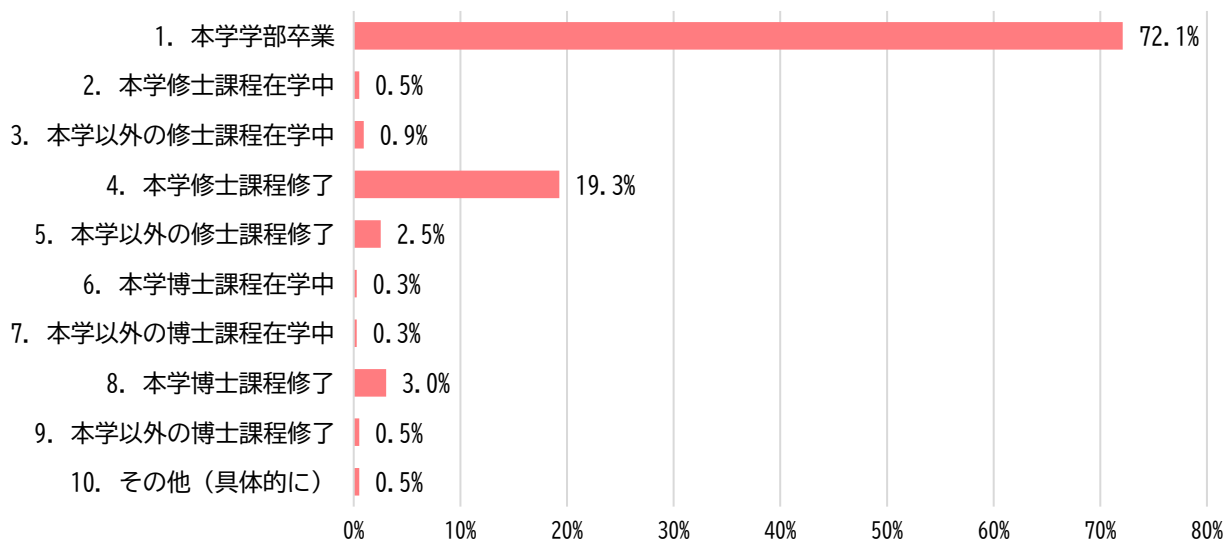
Please choose the option that describes your gender.



1. Male, 2. Female, 3. Others / Undecided / Prefer not to answer.

Q02. あなたの最終学歴について、あてはまるものを一つだけお選びください。

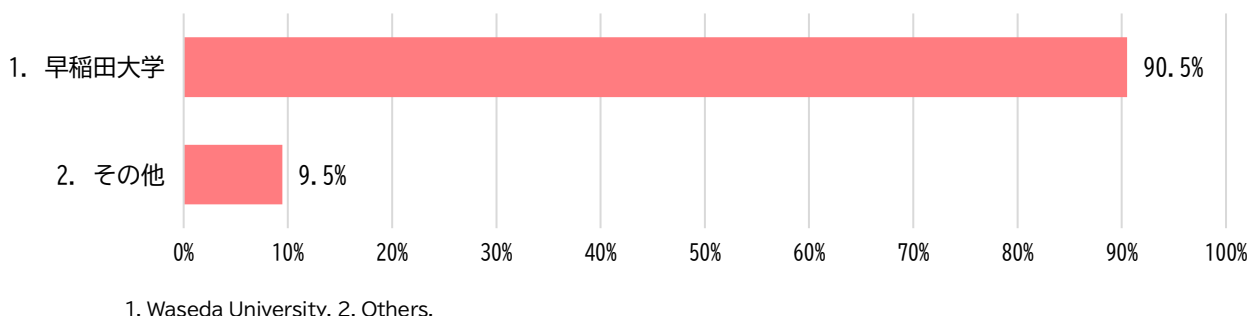
Please choose only one that applies to your latest educational background.



1. Graduated from an undergraduate school at Waseda University. 2. Currently enrolled in a master's program at Waseda University. 3. Currently enrolled in a master's program at a university other than Waseda University. 4. Completed a master's program at Waseda University. 5. Completed a master's program at a university other than Waseda University. 6. Currently enrolled in a doctoral program at Waseda University. 7. Currently enrolled in a doctoral program at a university other than Waseda University. 8. Completed a doctoral program at Waseda University. 9. Completed a doctoral program at a university other than Waseda University. 10. Others (Please specify).

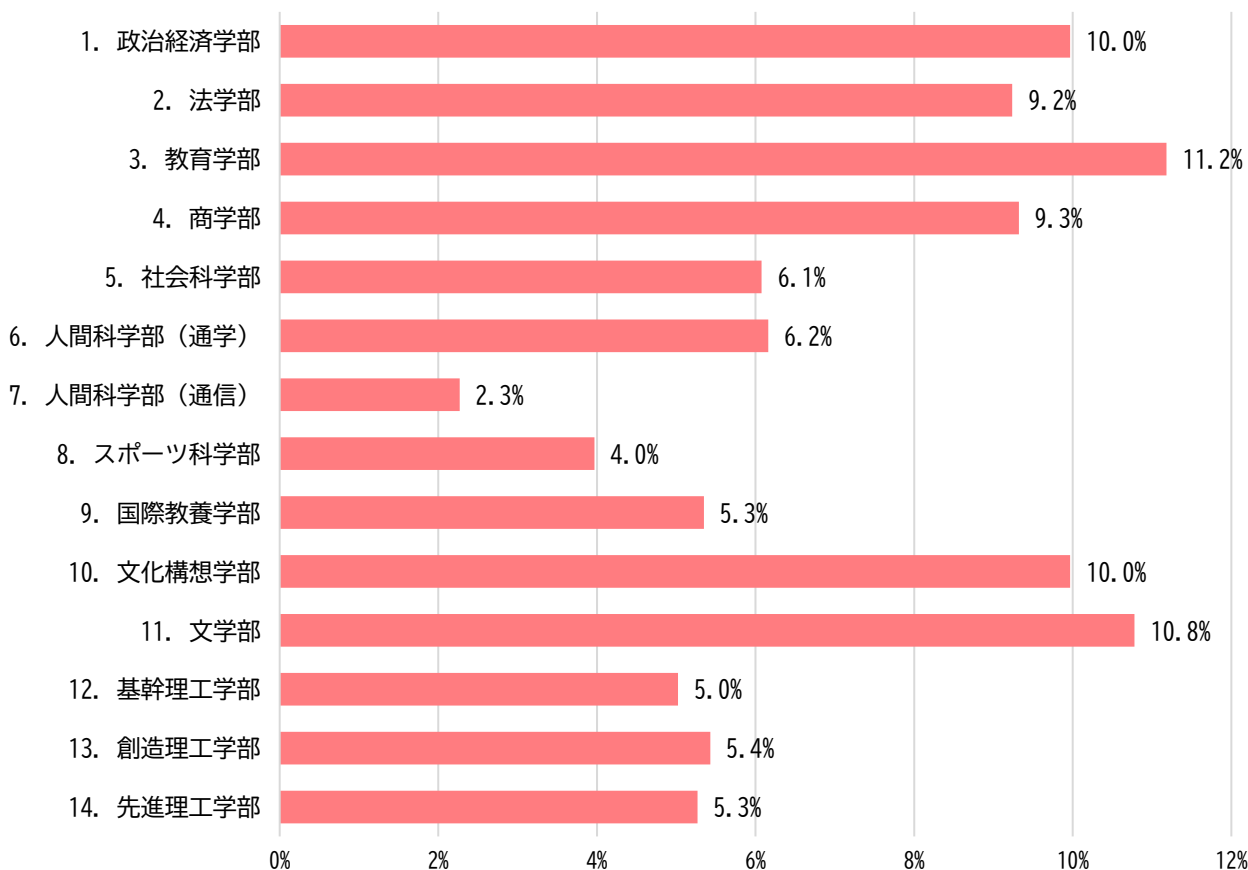
Q03. あなたが卒業した大学・学部名をお選びください。

Please select the name of the university and undergraduate school/department from which you graduated.



Q04. あなたが卒業した早稲田大学の学部名をお選びください。

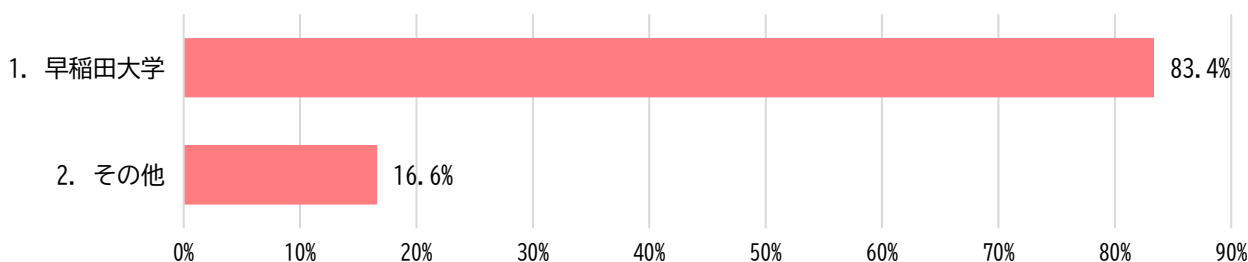
Please select the name of the undergraduate school of Waseda University from which you graduated.



1. School of Political Science and Economics. 2. School of Law. 3. School of Education. 4. School of Commerce. 5. School of Social Sciences. 6. School of Human Sciences. 7. School of Human Sciences (Online Degree Program). 8. School of Sport Sciences. 9. School of International Liberal Studies. 10. School of Culture, Media and Society. 11. School of Humanities and Social Sciences. 12. School of Fundamental Science and Engineering. 13. School of Creative Science and Engineering. 14. School of Advanced Science and Engineering.

Q05. あなたが修士課程を修了した、または在学している大学・研究科名をお選びください。

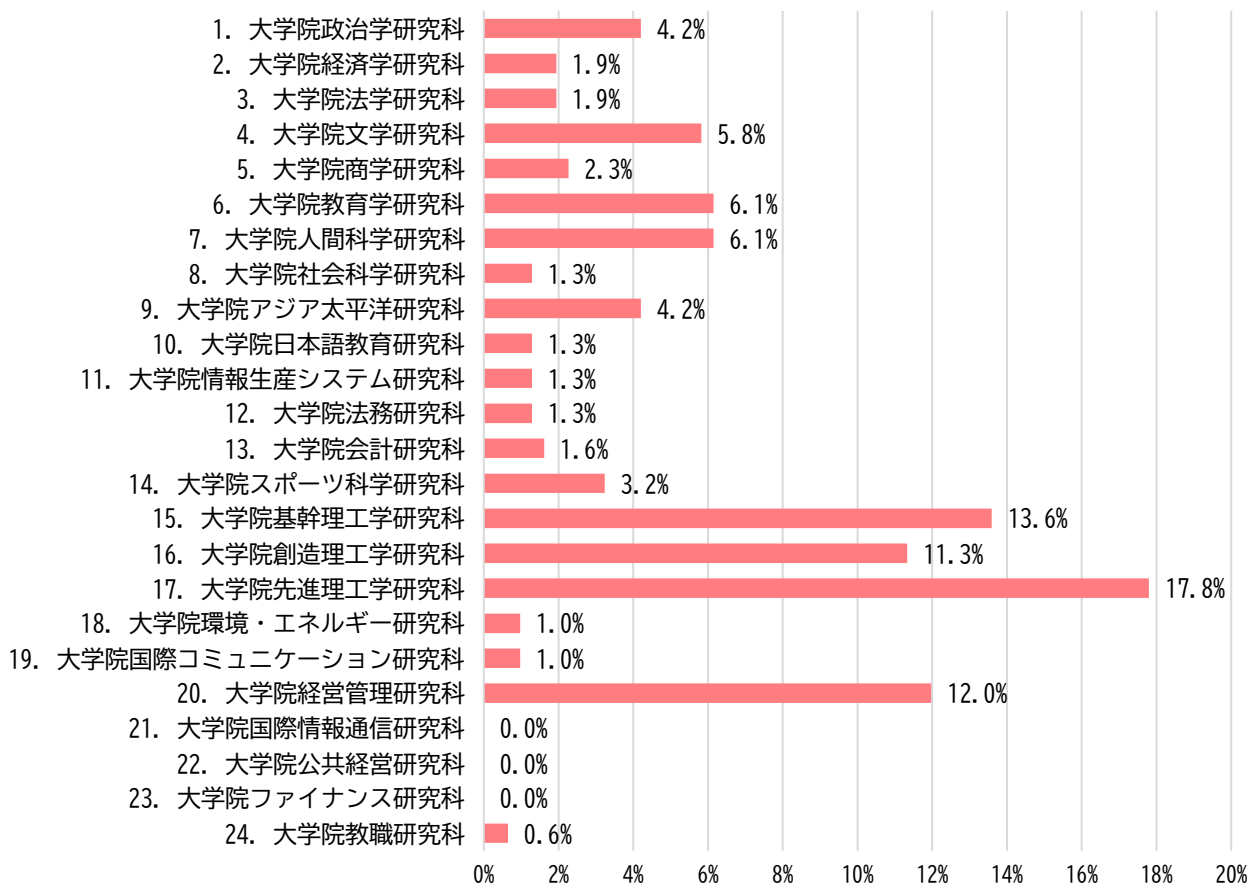
Please select the name of the university and graduate school (master's program) which you graduated from or are enrolled in.



1. Waseda University. 2. Others.

Q06. あなたが修了または在学している早稲田大学の研究科名（修士課程）をお選びください。

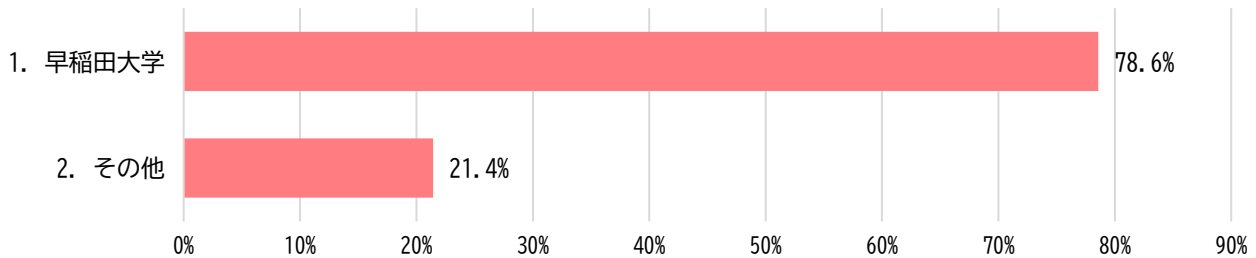
Please select the name of the graduate school (master's program) of Waseda University which you graduated from or are enrolled in.



1. Graduate School of Political Science. 2. Graduate School of Economics. 3. Graduate School of Law. 4. Graduate School of Letters, Arts and Sciences. 5. Graduate School of Commerce. 6. Graduate School of Education. 7. Graduate School of Human Sciences. 8. Graduate School of Social Sciences. 9. Graduate School of Asia-Pacific Studies. 10. Graduate School of Japanese Applied Linguistics. 11. Graduate School of Information, Production and Systems. 12. Waseda Law School. 13. Graduate School of Accountancy. 14. Graduate School of Sport Sciences. 15. Graduate School of Fundamental Science and Engineering. 16. Graduate School of Creative Science and Engineering. 17. Graduate School of Advanced Science and Engineering. 18. Graduate School of Environment and Energy Engineering. 19. Graduate School of International Culture and Communication Studies. 20. Graduate School of Business and Finance. 21. Graduate School of Global Information and Telecommunication Studies. 22. The Okuma School of Public Management. 23. Graduate School of Finance, Accounting and Law. 24. Graduate School of Teacher Education.

Q07. あなたが博士後期課程を修了した（単位取得退学を含む）、または在学している大学・研究科名をお選びください。

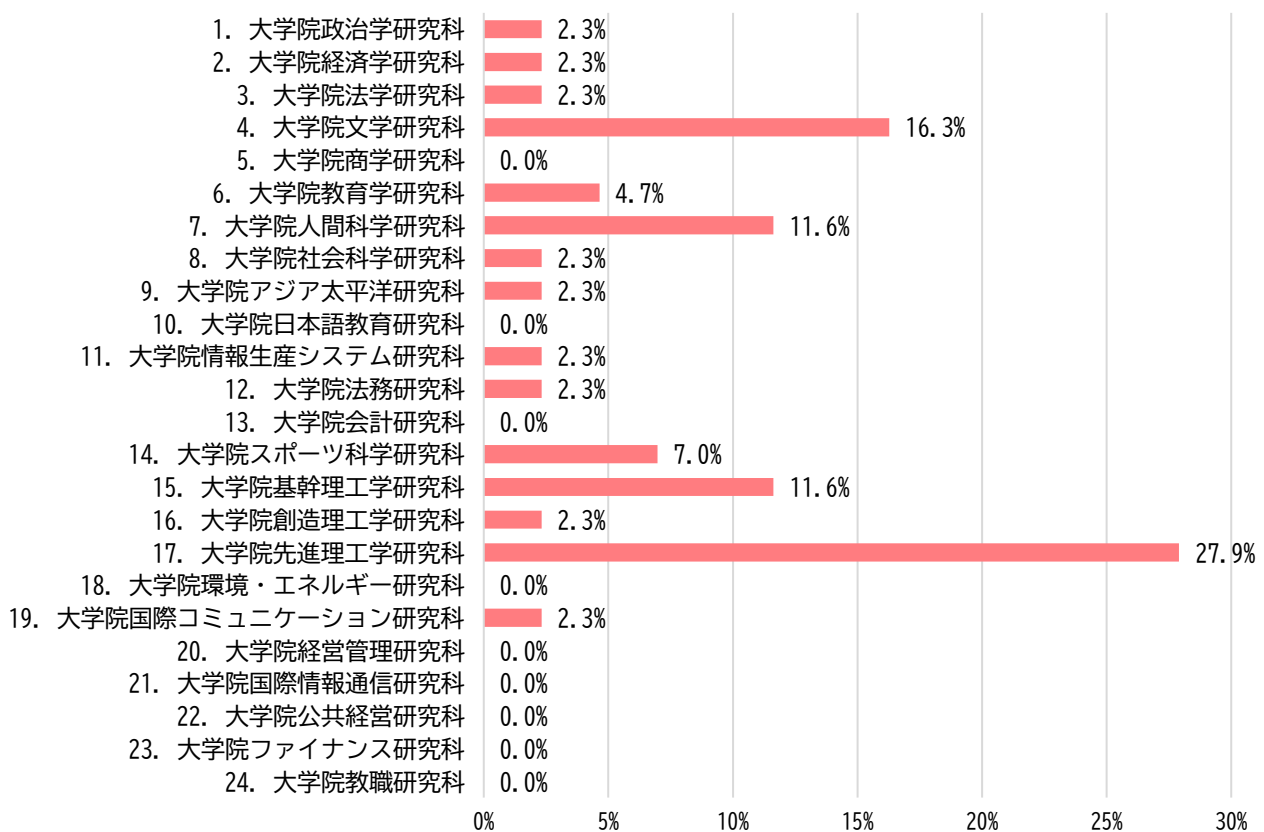
Please select the name of the university and graduate school (doctoral program) which you graduated from or are enrolled in.



1. Waseda University. 2. Others.

Q08. あなたが修了または在学している早稲田大学の研究科名（博士後期課程）をお選びください。

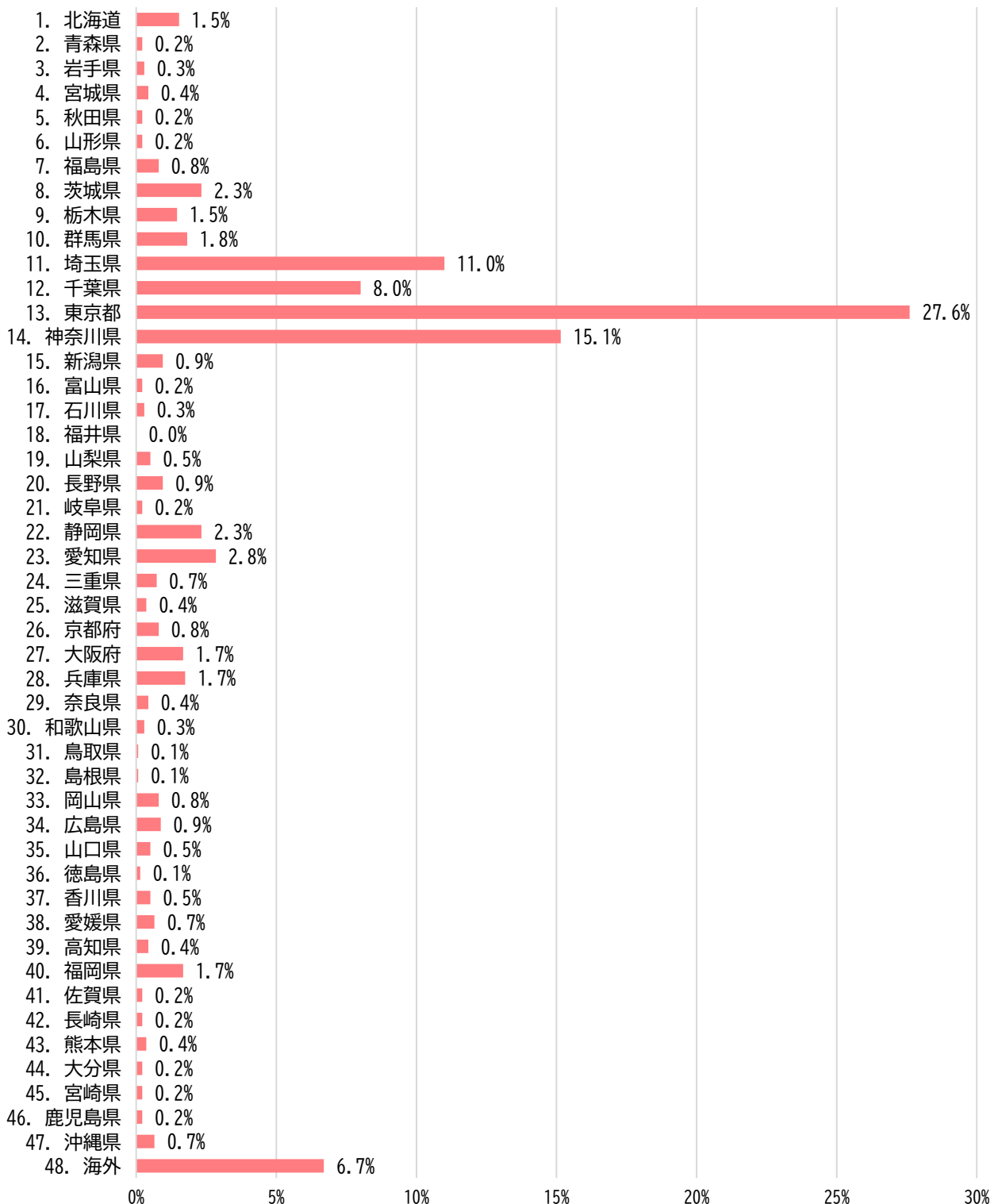
Please select the name of the graduate school (doctoral program) of Waseda University which you graduated from or are enrolled in.



1. Graduate School of Political Science. 2. Graduate School of Economics. 3. Graduate School of Law. 4. Graduate School of Letters, Arts and Sciences. 5. Graduate School of Commerce. 6. Graduate School of Education. 7. Graduate School of Human Sciences. 8. Graduate School of Social Sciences. 9. Graduate School of Asia-Pacific Studies. 10. Graduate School of Japanese Applied Linguistics. 11. Graduate School of Information, Production and Systems. 12. Waseda Law School. 13. Graduate School of Accountancy. 14. Graduate School of Sport Sciences. 15. Graduate School of Fundamental Science and Engineering. 16. Graduate School of Creative Science and Engineering. 17. Graduate School of Advanced Science and Engineering. 18. Graduate School of Environment and Energy Engineering. 19. Graduate School of International Culture and Communication Studies. 20. Graduate School of Business and Finance. 21. Graduate School of Global Information and Telecommunication Studies. 22. The Okuma School of Public Management. 23. Graduate School of Finance, Accounting and Law. 24. Graduate School of Teacher Education.

Q09. あなたの高校卒業時の居住地について都道府県名をお選びください（海外の場合は海外をお選びください）。

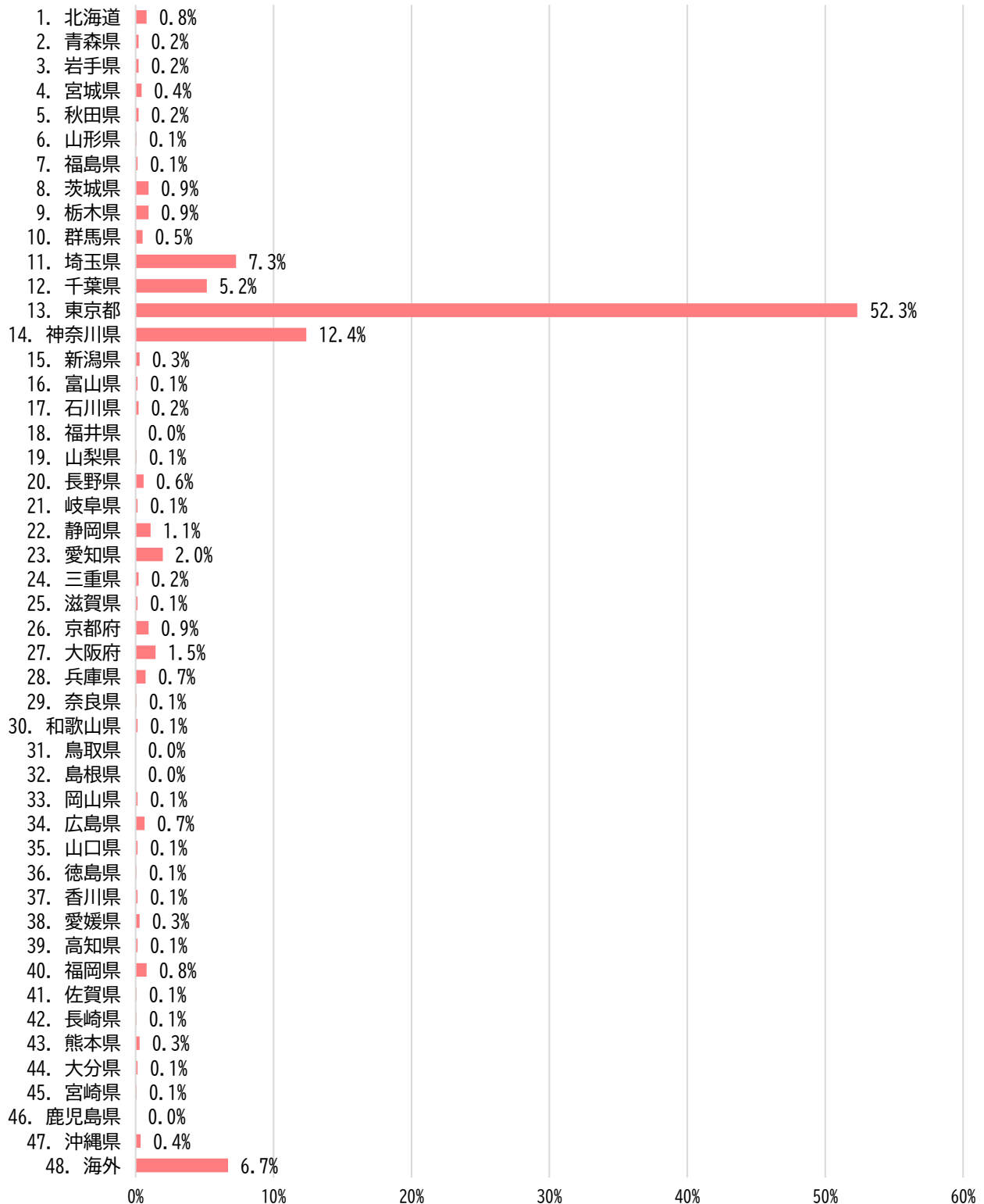
Please select the prefecture where you lived at the time of your high school graduation (if overseas, please select overseas).



1. Hokkaido. 2. Aomori. 3. Iwate. 4. Miyagi. 5. Akita. 6. Yamagata. 7. Fukushima. 8. Ibaraki. 9. Tochigi. 10. Gumma. 11. Saitama. 12. Chiba. 13. Tokyo. 14. Kanagawa. 15. Niigata. 16. Toyama. 17. Ishikawa. 18. Fukui. 19. Yamanashi. 20. Nagano. 21. Gifu. 22. Shizuoka. 23. Aichi. 24. Mie. 25. Shiga. 26. Kyoto. 27. Osaka. 28. Hyogo. 29. Nara. 30. Wakayama. 31. Tottori. 32. Shimane. 33. Okayama. 34. Hiroshima. 35. Yamaguchi. 36. Tokushima. 37. Kagawa. 38. Ehime. 39. Kochi. 40. Fukuoka. 41. Saga. 42. Nagasaki. 43. Kumamoto. 44. Oita. 45. Miyazaki. 46. Kagoshima. 47. Okinawa. 48. Overseas.

Q10. あなたの現在の居住地について都道府県名をお選びください（海外の場合は海外をお選びください）。

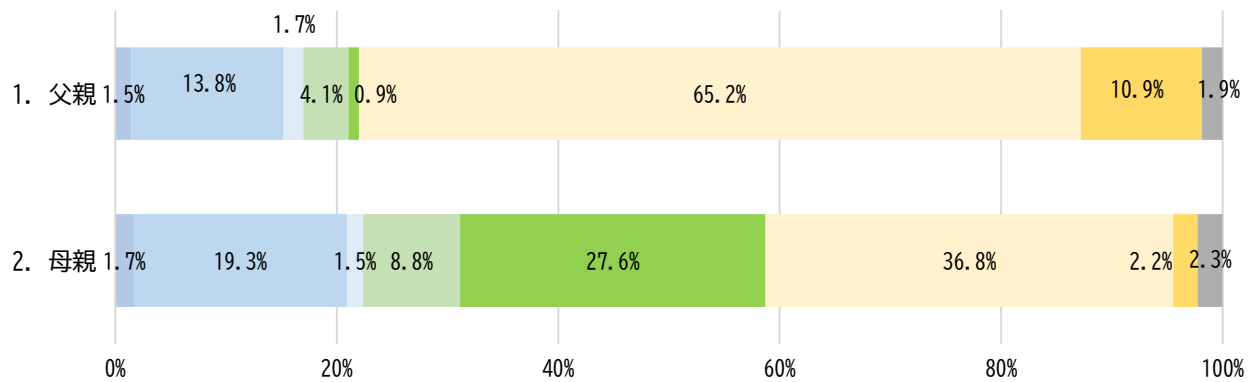
Please select the prefecture where you currently live (if overseas, please select overseas).



1. Hokkaido. 2. Aomori. 3. Iwate. 4. Miyagi. 5. Akita. 6. Yamagata. 7. Fukushima. 8. Ibaraki. 9. Tochigi. 10. Gumma. 11. Saitama. 12. Chiba. 13. Tokyo. 14. Kanagawa. 15. Niigata. 16. Toyama. 17. Ishikawa. 18. Fukui. 19. Yamanashi. 20. Nagano. 21. Gifu. 22. Shizuoka. 23. Aichi. 24. Mie. 25. Shiga. 26. Kyoto. 27. Osaka. 28. Hyogo. 29. Nara. 30. Wakayama. 31. Tottori. 32. Shimane. 33. Okayama. 34. Hiroshima. 35. Yamaguchi. 36. Tokushima. 37. Kagawa. 38. Ehime. 39. Kochi. 40. Fukuoka. 41. Saga. 42. Nagasaki. 43. Kumamoto. 44. Oita. 45. Miyazaki. 46. Kagoshima. 47. Okinawa. 48. Overseas.

Q11. あなたのご両親の最終学歴をお選びください。

Please select the educational background of your parents.



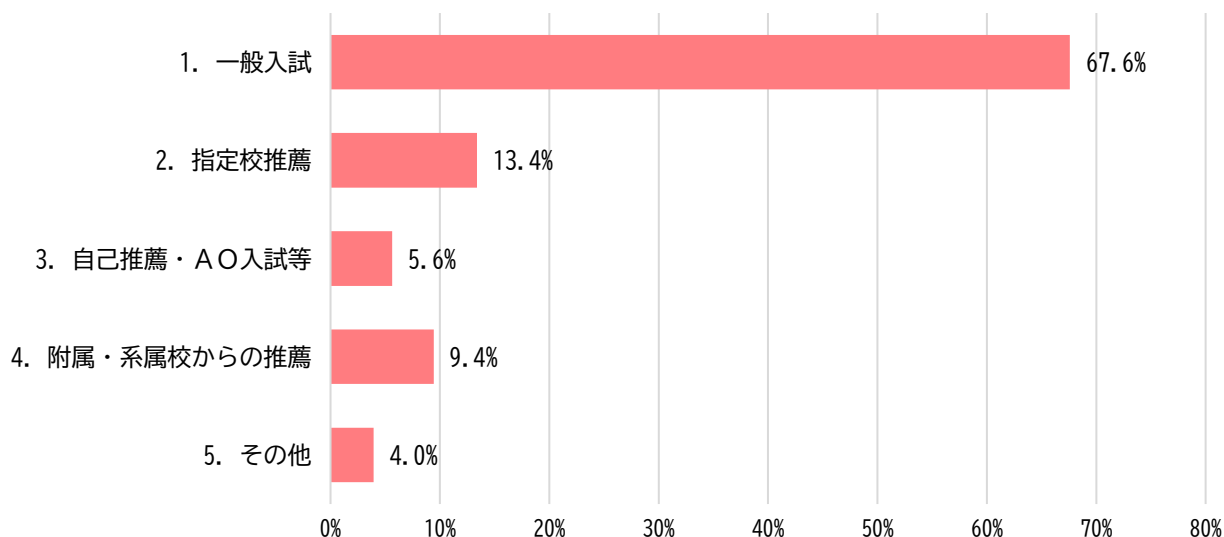
■ 中学卒/ Junior high school graduate	■ 高校卒/ High school graduate
■ 高等専門学校卒/ Technical college graduate	■ 専門学校・各種学校卒/ Vocational school graduate
■ 短大卒/ Junior college graduate	■ 大卒/ University graduate
■ 大学院卒/ Graduate school graduate	■ わからない・いない/ Don't know/none

1. Father, 2. Mother.

2. 大学入学前・在学時の学部経験

Q12. あなたが大学（学部）に入学した試験の形態を、次の選択肢の中から一つだけお選びください。

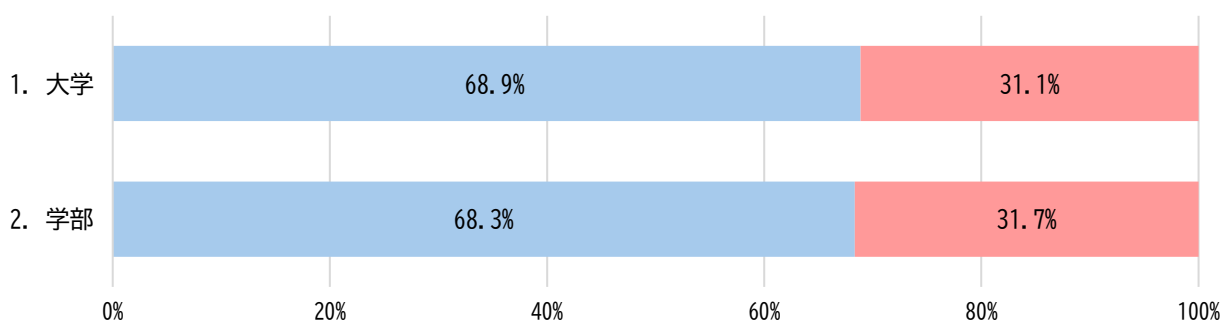
Please choose only one of the following options regarding the form of examination in which you were admitted to the university.



1. General entrance examination. 2. School recommendation. 3. Self-recommendation, AO Entrance Examination, etc. 4. Recommendations from affiliated schools. 5. Others.

Q13. 入学した大学は第一志望でしたか。また、入学した学部は第一志望でしたか。

Was the university you entered your first choice? Also, was the undergraduate school you entered your first choice?



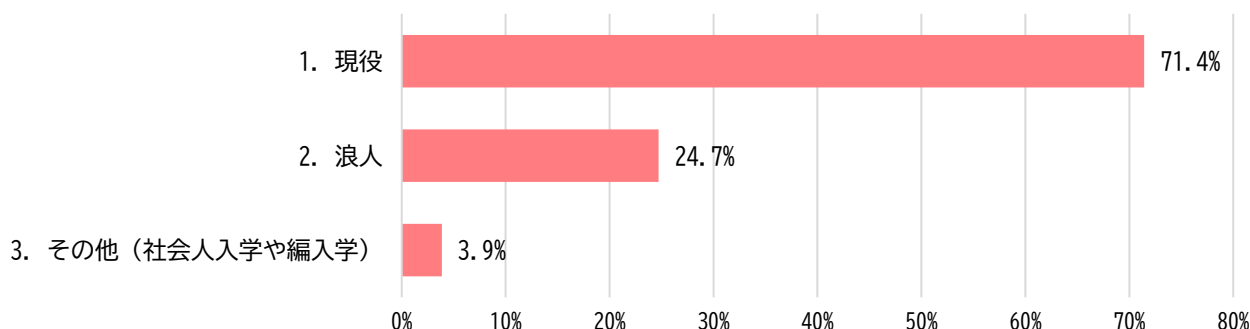
■ 第一志望であった / It was my first choice.

■ 第一志望でなかった / It was not my first choice.

1. University. 2. Undergraduate school.

Q14. あなたは現役で入学しましたか（学部）。

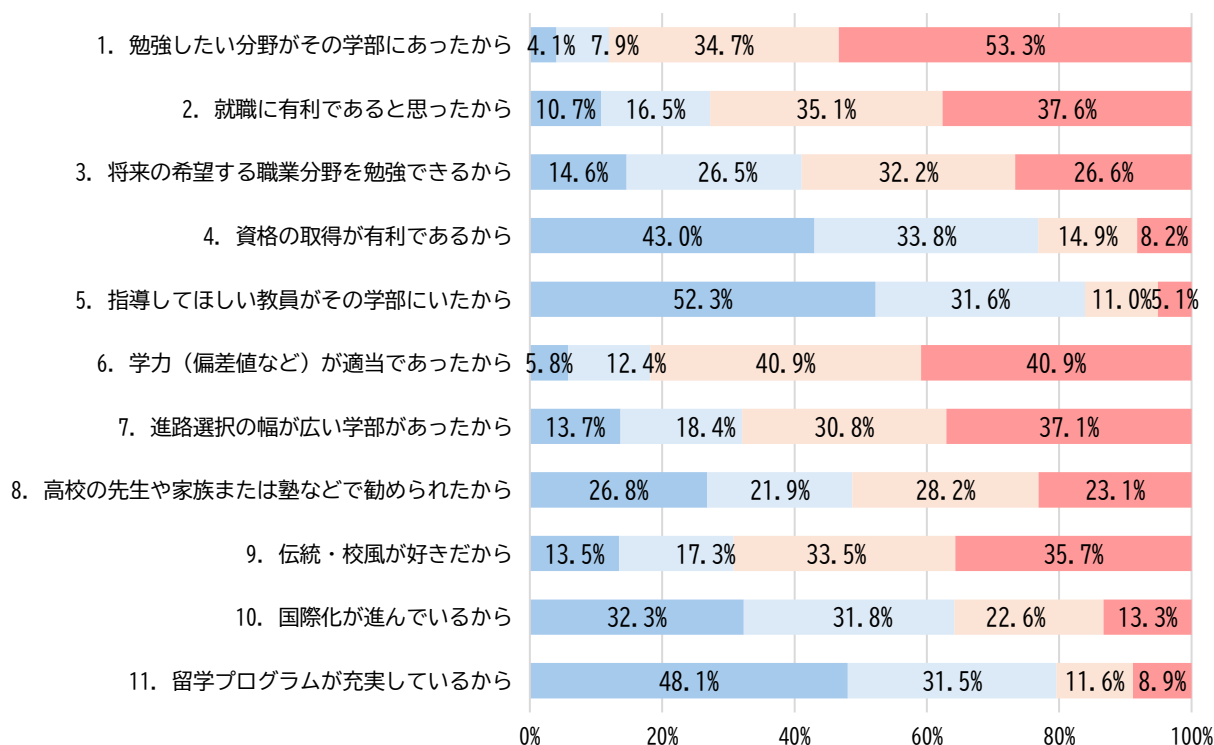
Did you enroll in the university straight out of high school?



1. Straight out of high school. 2. Took the entrance exam more than once after graduating from high school. 3. Others (admission for working adults and transfer students).

Q15. 本学の受験を決めた理由として、次の項目はそれぞれどのくらいあてはまりますか。

How applicable are each of the following reasons for your decision to apply to the undergraduate school at Waseda University?



■まったくあてはまらない/ Not at all applicable

■あまりあてはまらない/ Not very applicable

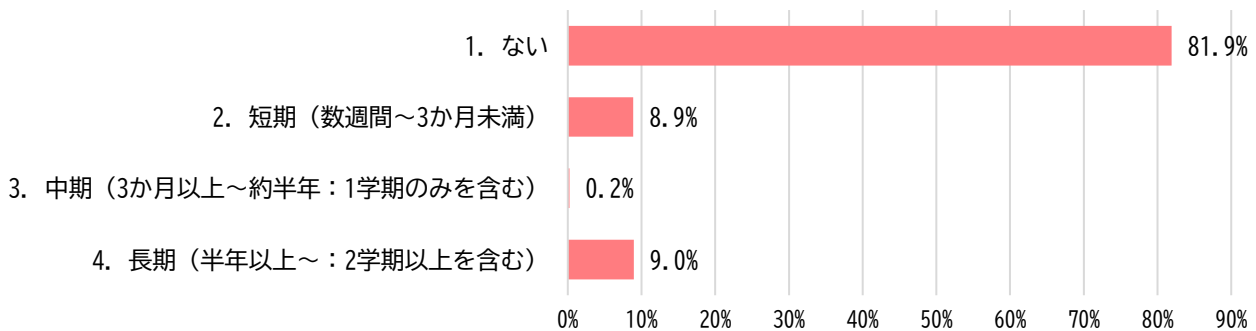
■ややあてはまる/ Somewhat applicable

■とてもあてはまる/ Very applicable

1. Because the field I wanted to study was offered in that undergraduate school. 2. Because I thought it would be advantageous for me to find a job. 3. Because I can study my desired future career field. 4. Because it is advantageous to obtain qualifications. 5. Because the faculty member I wanted to learn from was in that undergraduate school. 6. Because the academic ability (deviation score, etc.) was appropriate. 7. Because there was an undergraduate school with a wide range of career options. 8. Because it was recommended by a high school teacher, family member, or cram school. 9. Because I like the tradition and school culture. 10. Because it is internationalized. 11. Because it has many good study abroad programs.

Q16. 高校卒業までに留学したこと、海外に住んでいたことはありますか。

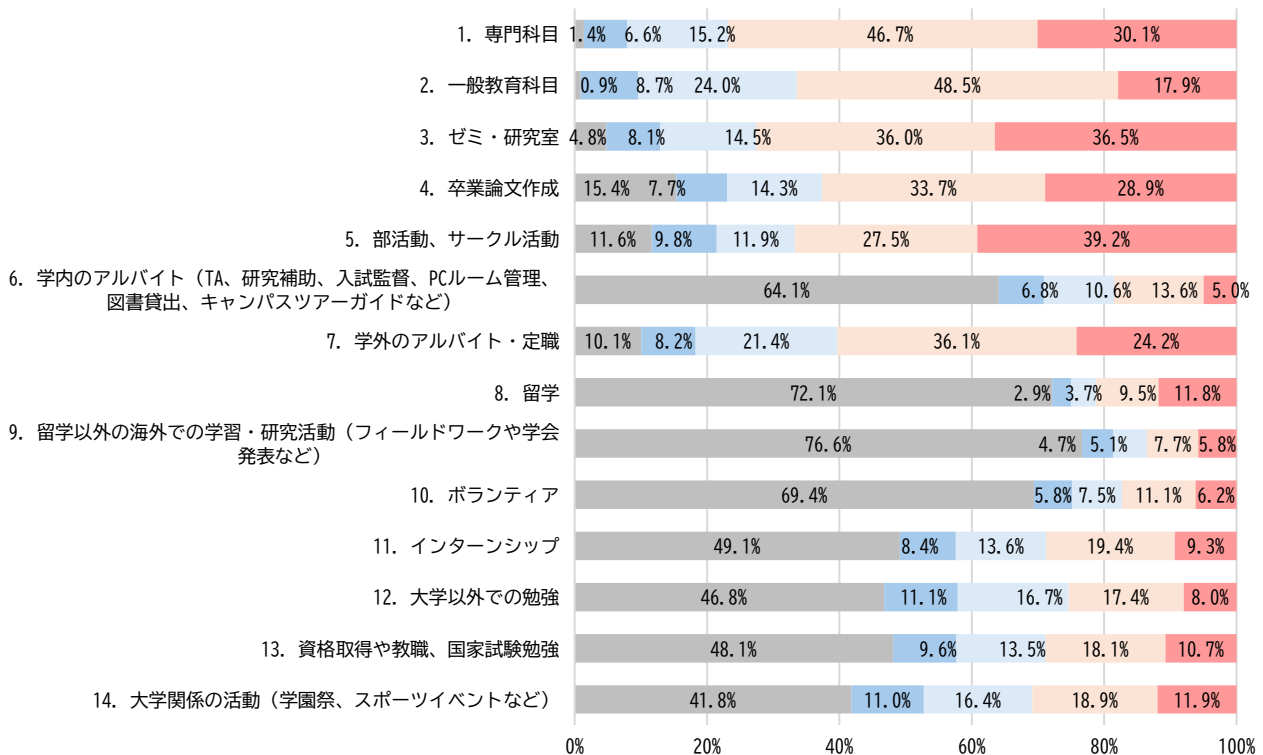
Have you studied or lived abroad before graduating from high school?



1. No. 2. Short-term (a few weeks to less than three months). 3. Medium-term (3-6 months: including only one semester). 4. Long-term (6 months or more: including two semesters or more).

Q17. 学部在学中において、次のような活動にどのくらい熱心に取り組んでいましたか。

While enrolled in undergraduate school, how enthusiastic were you about the following activities?

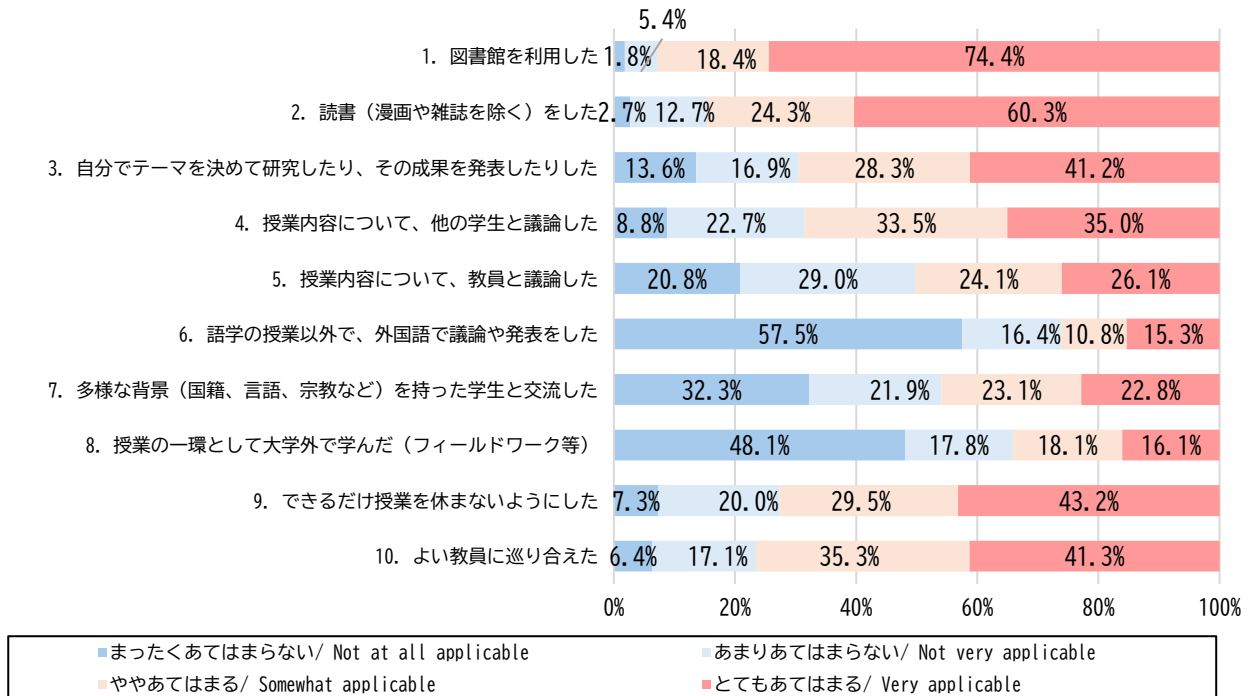


■ 経験しなかった/ Did not experience the activity
 ■ 不熱心/ Unenthusiastic
 ■ やや不熱心/ Somewhat unenthusiastic
 ■ やや熱心/ Somewhat enthusiastic
 ■ 熱心/ Enthusiastic

1. Specialized subjects. 2. General education subjects. 3. Seminars, laboratory activities. 4. Graduation thesis writing. 5. Club and circle activities. 6. Part-time jobs on campus (TA, research assistance, admissions supervisor, PC room management, book lending, campus tour guide, etc.). 7. Off-campus part-time or regular employment. 8. Study abroad. 9. Study and research activities abroad other than "study abroad" (fieldwork, conference presentations, etc.). 10. Volunteering. 11. Internships. 12. Study outside of the university. 13. Study for certification, teaching, and national examinations. 14. University-related activities (school festivals, sport events, etc.).

Q18. 学部在学中に、以下のような経験をしましたか。

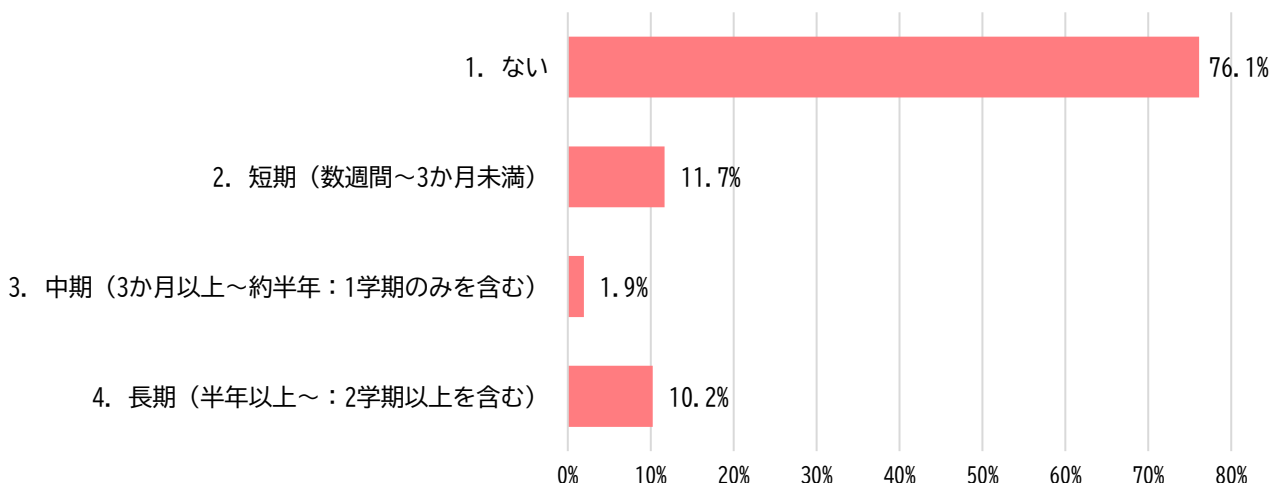
While enrolled in undergraduate school, did you have the following experiences?



1. Used the library. 2. Read (excluding comic books and magazines). 3. Independently chose a topic to conduct research and presented the results. 4. Discussed class content with other students. 5. Discussed class content with faculty. 6. Discussions and presentations in a foreign language outside of foreign language classes. 7. Interact with students from diverse backgrounds (nationality, language, religion, etc.). 8. Learned off-campus as part of a class (e.g., fieldwork). 9. Tried not to miss class as much as possible. 10. Was able to meet an exemplary faculty member.

Q19. 学部在学中に留学をしたことはありますか。

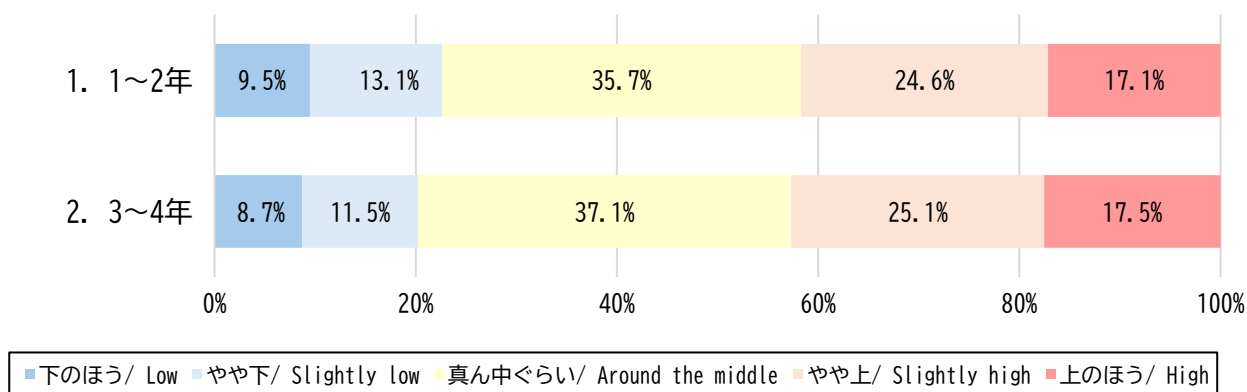
Have you studied abroad while enrolled in undergraduate school?



1. No. 2. Short-term (a few weeks to less than three months). 3. Medium-term (3-6 months: including only one semester). 4. Long-term (6 months or more: including two semesters or more).

Q20. 学部在学中において、あなたの成績は、全体的に学部の中でどのあたりでしたか。

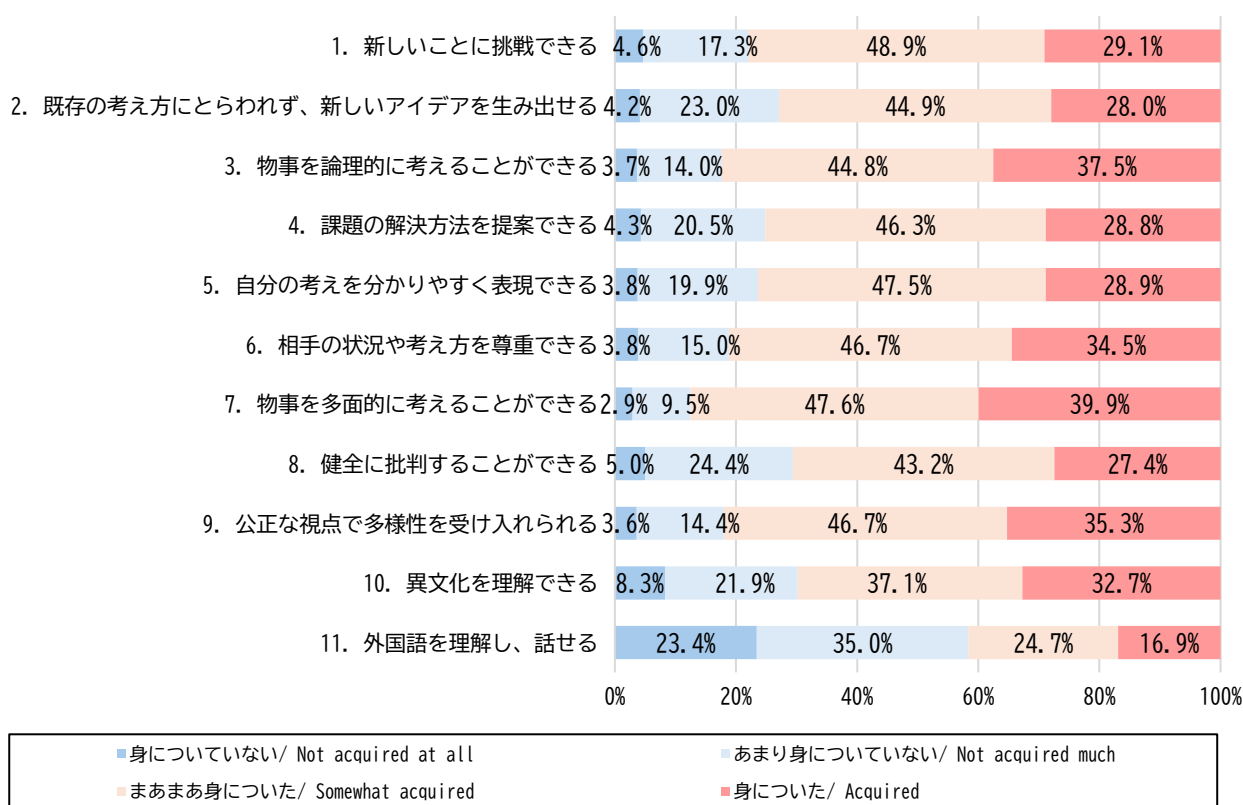
In your undergraduate school, how did your grades compare relative to other students in your grade?



1. 1st - 2nd year. 2. 3rd - 4th year.

Q21. 学部で次のようなことをどの程度身につけましたか。

To what extent did you acquire the following during your undergraduate studies?

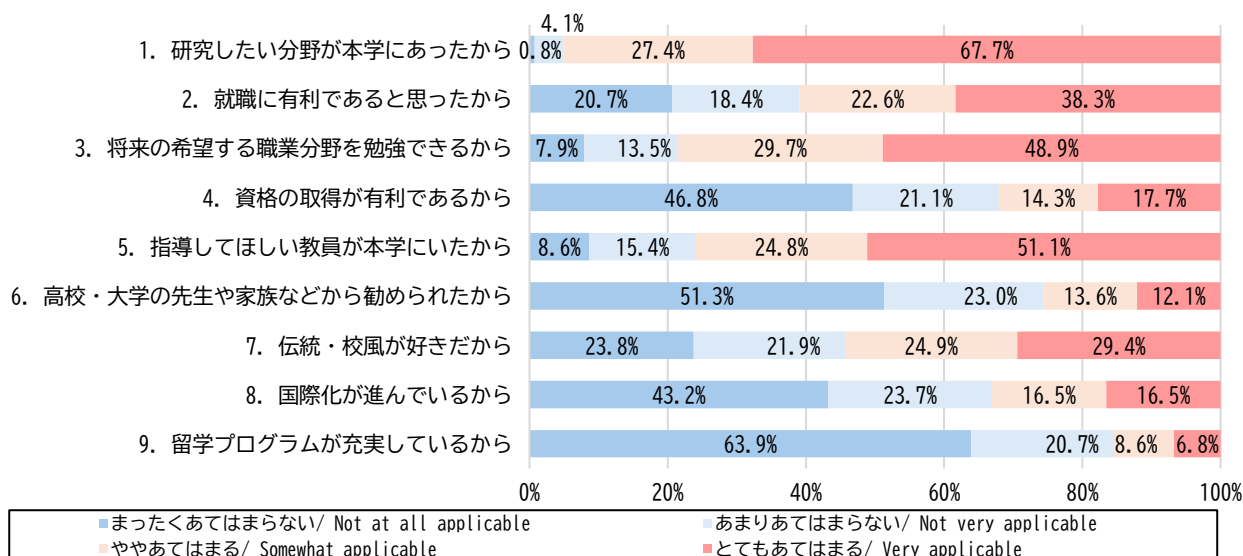


1. Able to make new challenges. 2. Able to generate new ideas without being limited by existing thoughts. 3. Able to think logically. 4. Able to propose solutions to problems. 5. Able to express one's thoughts clearly. 6. Able to respect the other person's situation and way of thinking. 7. Able to think from multiple perspectives. 8. Able to provide healthy criticisms. 9. Able to embrace diversity from a fair perspective. 10. Able to understand different cultures. 11. Able to understand and speak foreign languages.

3. 大学院入学前・在学時の経験

Q22. 本学大学院の受験を決めた理由として、次の項目はそれぞれどのくらいあてはまりますか。

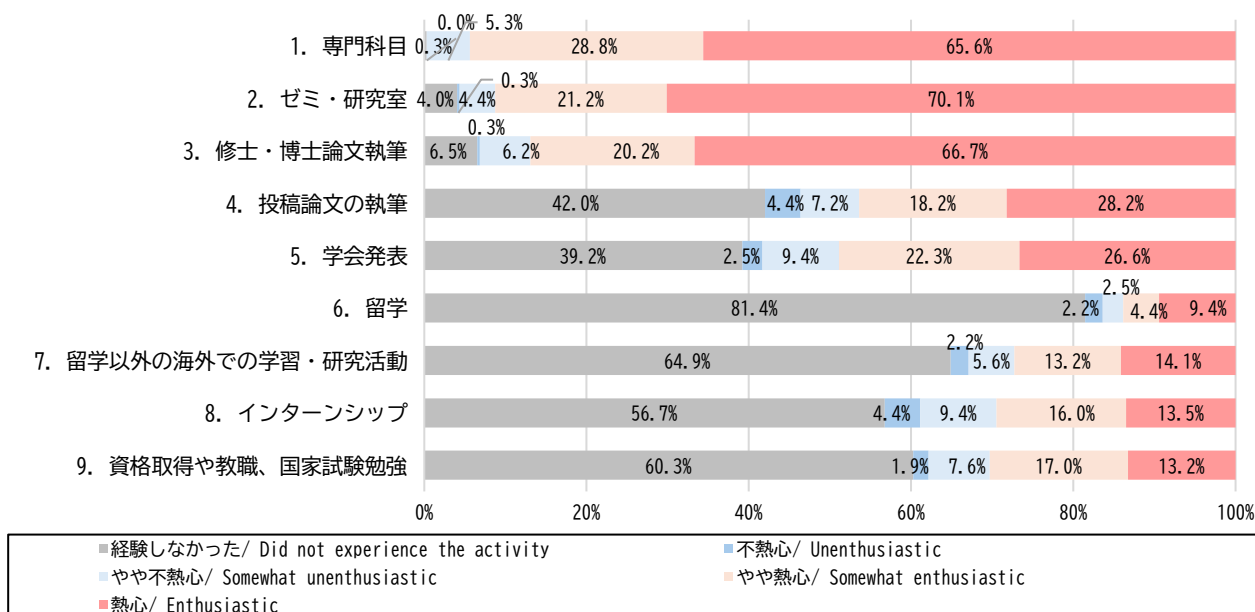
How applicable are each of the following reasons for your decision to apply to the graduate school at Waseda University?



1. Because the field I wanted to research was offered at Waseda University. 2. Because I thought it would be advantageous for me to find a job. 3. Because I can study my desired future career field. 4. Because it is advantageous to obtain qualifications. 5. Because the faculty member I wanted to learn from was at Waseda University. 6. Because it was recommended by a high school teacher, university teacher, or family member. 7. Because I like the tradition and school culture. 8. Because it is internationalized. 9. Because it has many good study abroad programs.

Q23. 大学院在学中において、次のような活動にどのくらい熱心に取り組んでいましたか。

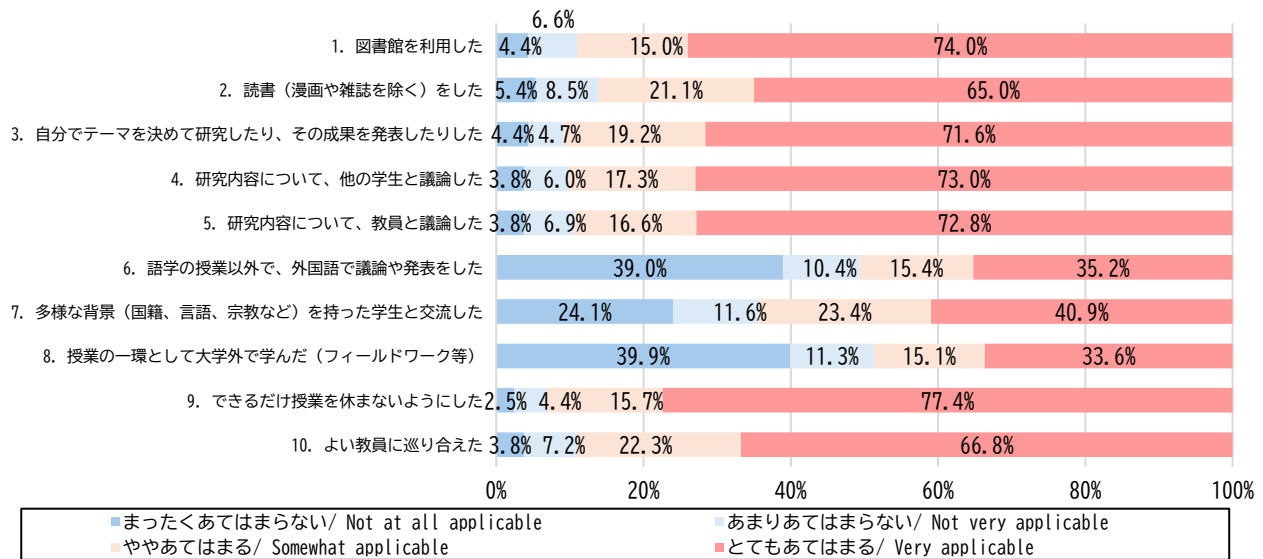
While enrolled in graduate school, how enthusiastic were you about the following activities?



1. Specialized subjects. 2. Seminars, laboratory activities. 3. Writing master's and doctoral dissertations. 4. Writing submission papers. 5. Conference presentations. 6. Study abroad. 7. Study and research activities abroad other than "study abroad" (fieldwork, conference presentations, etc.). 8. Internships. 9. Study for certification, teaching, and national examinations.

Q24. 大学院在学中に、以下のような経験をしましたか。

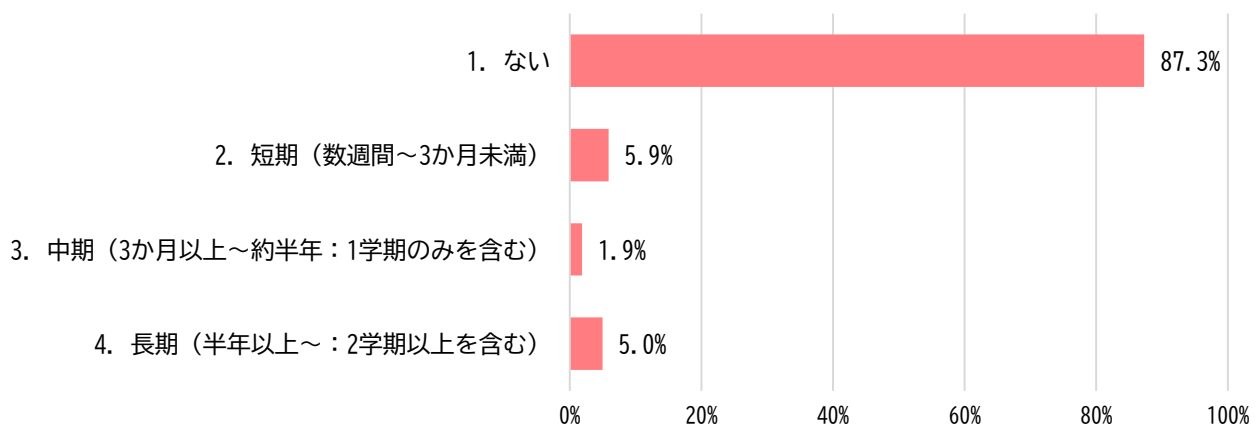
While enrolled in graduate school, did you have the following experiences?



1. Used the library. 2. Read (excluding comic books and magazines). 3. Independently chose a topic to conduct research and presented the results. 4. Discussed research content with other students. 5. Discussed research content with faculty. 6. Discussions and presentations in a foreign language outside of foreign language classes. 7. Interact with students from diverse backgrounds (nationality, language, religion, etc.). 8. Learned off-campus as part of a class (e.g., fieldwork). 9. Tried not to miss class as much as possible. 10. Was able to meet an exemplary faculty member.

Q25. 大学院在学中に留学をしたことはありますか。

Have you studied abroad while enrolled in graduate school?

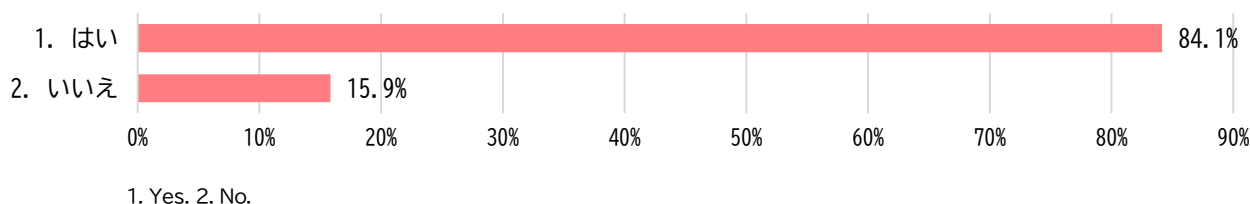


1. No. 2. Short-term (a few weeks to less than three months). 3. Medium-term (3-6 months: including only one semester). 4. Long-term (6 months or more: including two semesters or more).

4. 大学卒業（修了）時とその後

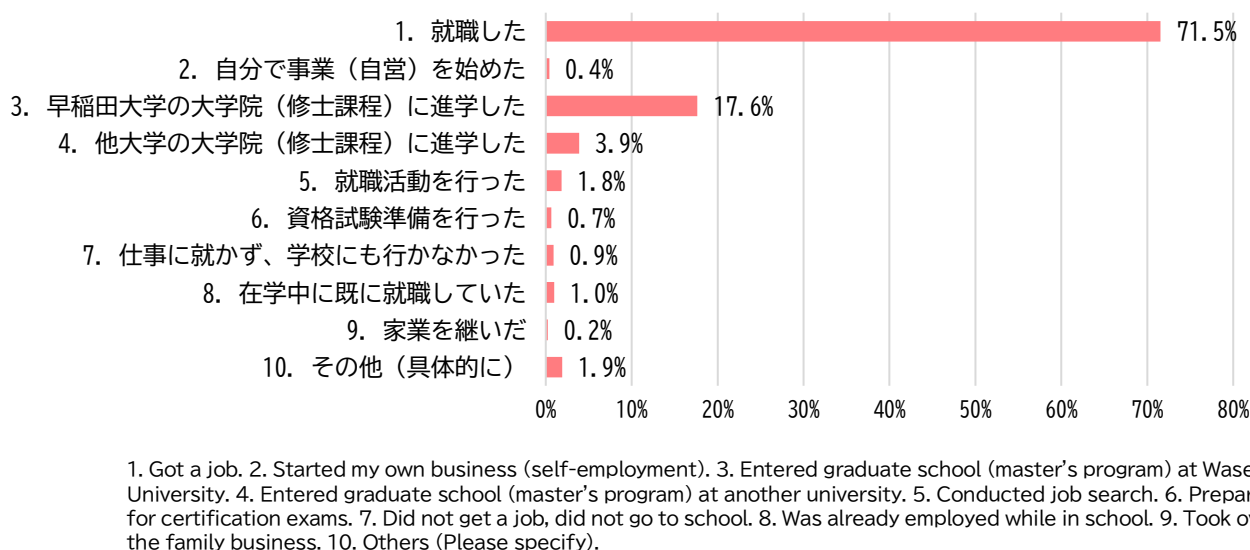
Q26. あなたは学部を4年間で卒業しましたか。

Did you complete your undergraduate degree in four years?



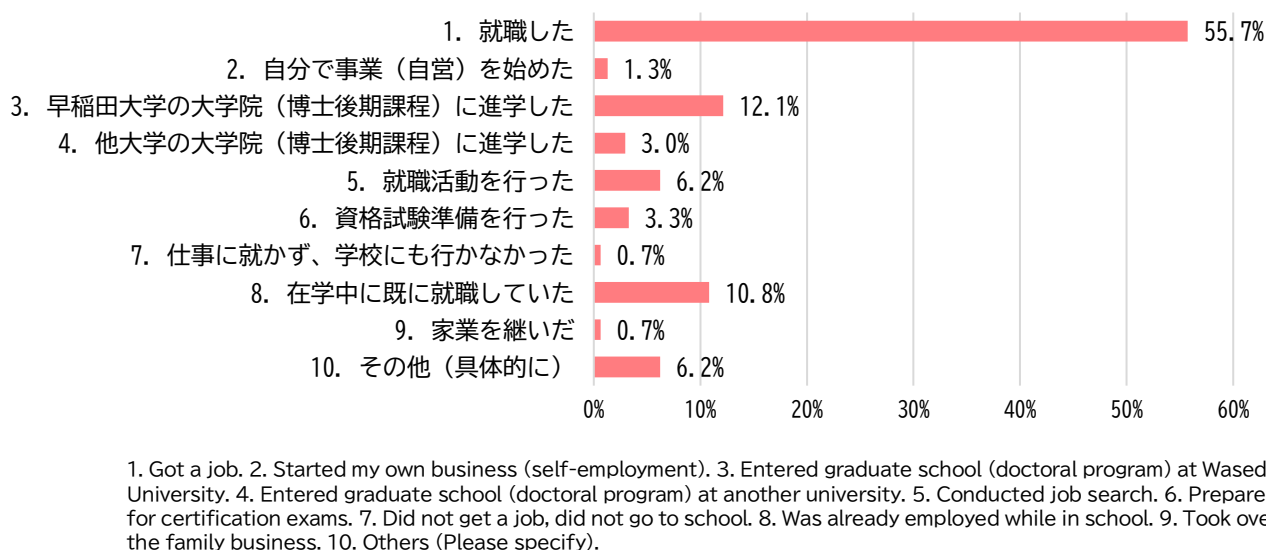
Q27. あなたは学部卒業時にどのような進路選択をしましたか。

What career choice did you make upon graduation from undergraduate school?



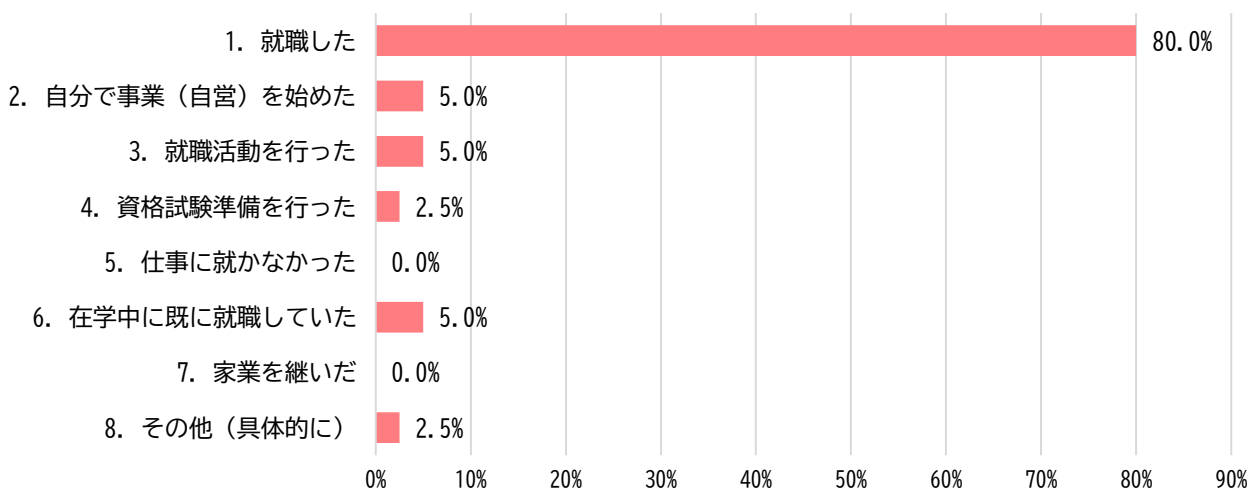
Q28. あなたは大学院（修士課程）修了時にどのような進路選択をしましたか。

What career choice did you make upon completion of the master's program?



Q29. あなたは大学院（博士後期課程）修了時にどのような進路選択をしましたか。

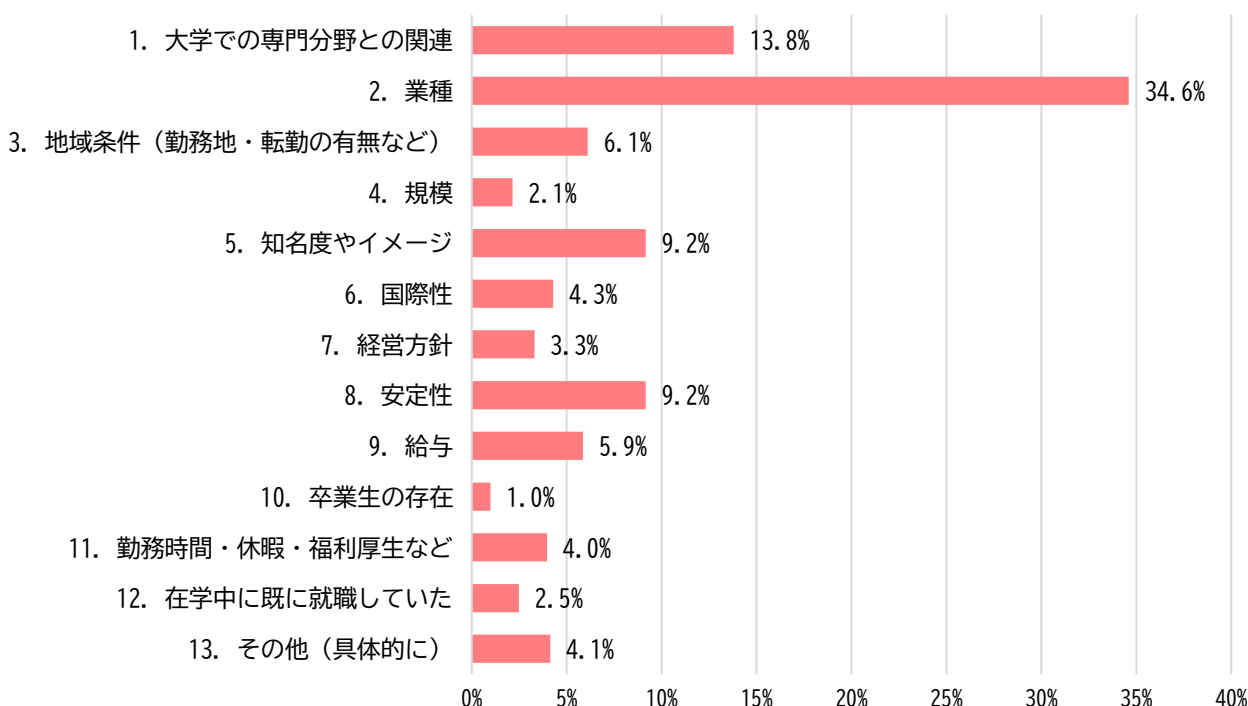
What career choice did you make upon completion of the doctoral program?



1. Got a job. 2. Started my own business (self-employment). 3. Conducted job search. 4. Prepared for certification exams. 5. Did not get a job. 6. Was already employed while in school. 7. Took over the family business. 8. Others (Please specify).

Q30. 学部・大学院等の卒業・修了後最初の就職先を決定するに当たって最も重視したことは何ですか。

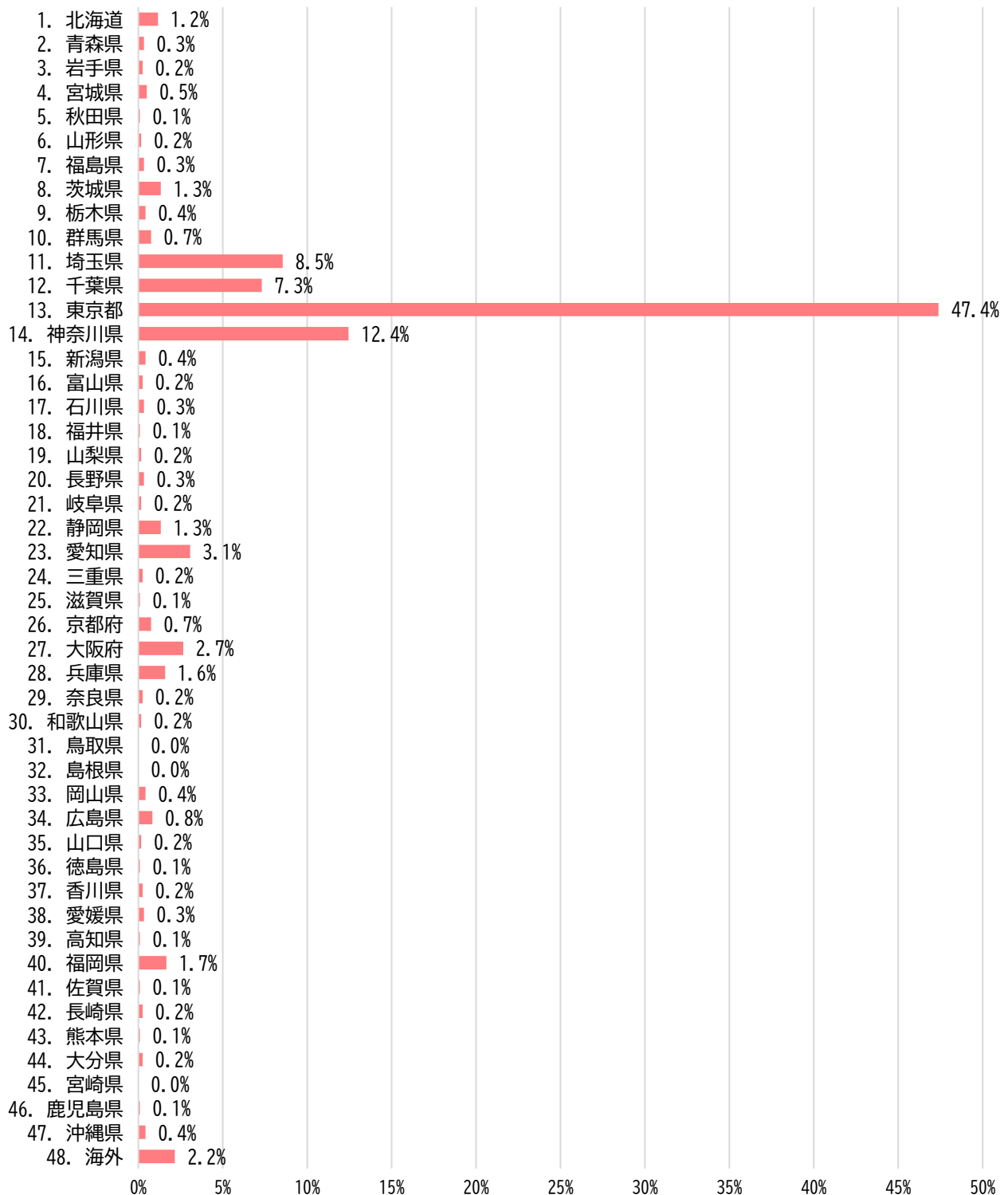
What was most important to you in deciding your first job after graduation/completion of undergraduate/graduate school?



1. Relevance to my field of study at the university. 2. Type of industry. 3. Regional conditions (work location, the possibility of relocation and transfers, etc.). 4. Size. 5. Name recognition and image. 6. International outlook. 7. Management policy. 8. Stability. 9. Salary. 10. Presence of alumni/alumnae. 11. Working hours, vacation, benefits, etc. 12. Was already employed while in school. 13. Others (Please specify).

Q31. 学部・大学院等の卒業・修了後最初の居住地について都道府県名をお選びください。

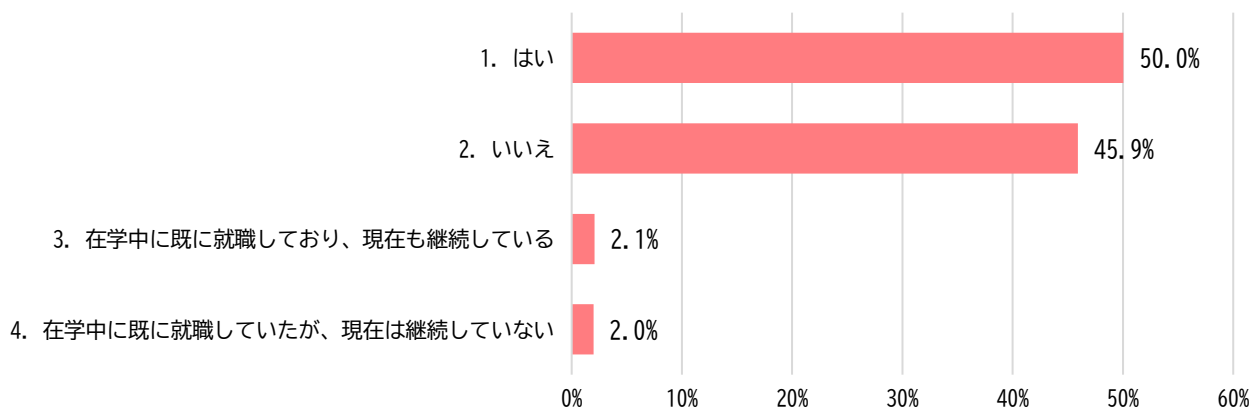
Please select the prefecture where you first resided after graduation/completion of undergraduate/graduate school (if overseas, please select overseas).



1. Hokkaido. 2. Aomori. 3. Iwate. 4. Miyagi. 5. Akita. 6. Yamagata. 7. Fukushima. 8. Ibaraki. 9. Tochigi. 10. Gumma. 11. Saitama. 12. Chiba. 13. Tokyo. 14. Kanagawa. 15. Niigata. 16. Toyama. 17. Ishikawa. 18. Fukui. 19. Yamanashi. 20. Nagano. 21. Gifu. 22. Shizuoka. 23. Aichi. 24. Mie. 25. Shiga. 26. Kyoto. 27. Osaka. 28. Hyogo. 29. Nara. 30. Wakayama. 31. Tottori. 32. Shimane. 33. Okayama. 34. Hiroshima. 35. Yamaguchi. 36. Tokushima. 37. Kagawa. 38. Ehime. 39. Kochi. 40. Fukuoka. 41. Saga. 42. Nagasaki. 43. Kumamoto. 44. Oita. 45. Miyazaki. 46. Kagoshima. 47. Okinawa. 48. Overseas.

Q32. 学部・大学院等の卒業・修了後最初に就いたお仕事は、現在も継続されていますか。

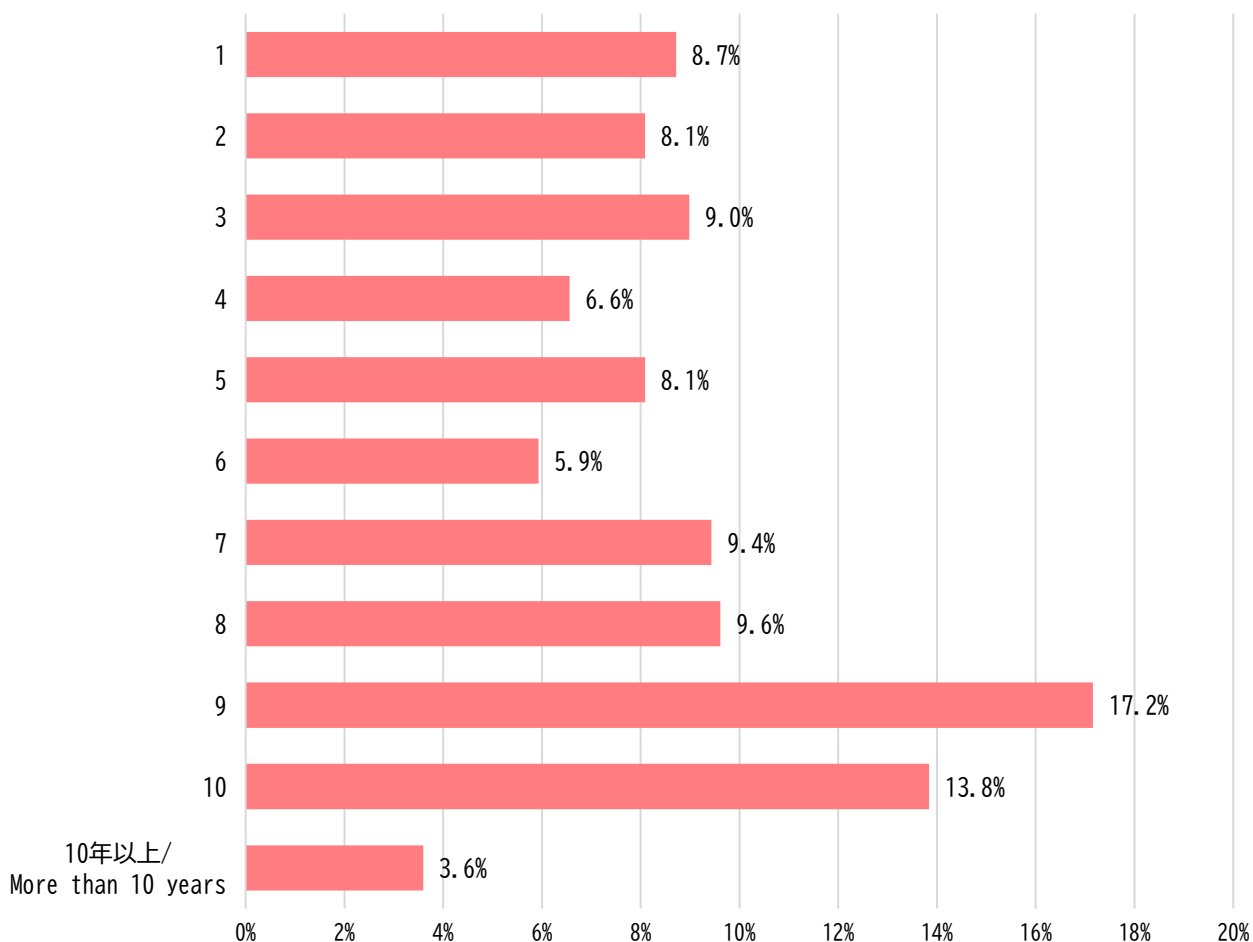
Are you still working at the first job you held after graduation/completion of undergraduate/graduate school?



1. Yes. 2. No. 3. I was already employed while in school and continuing the same job. 4. I was already employed while in school but not continuing the same job.

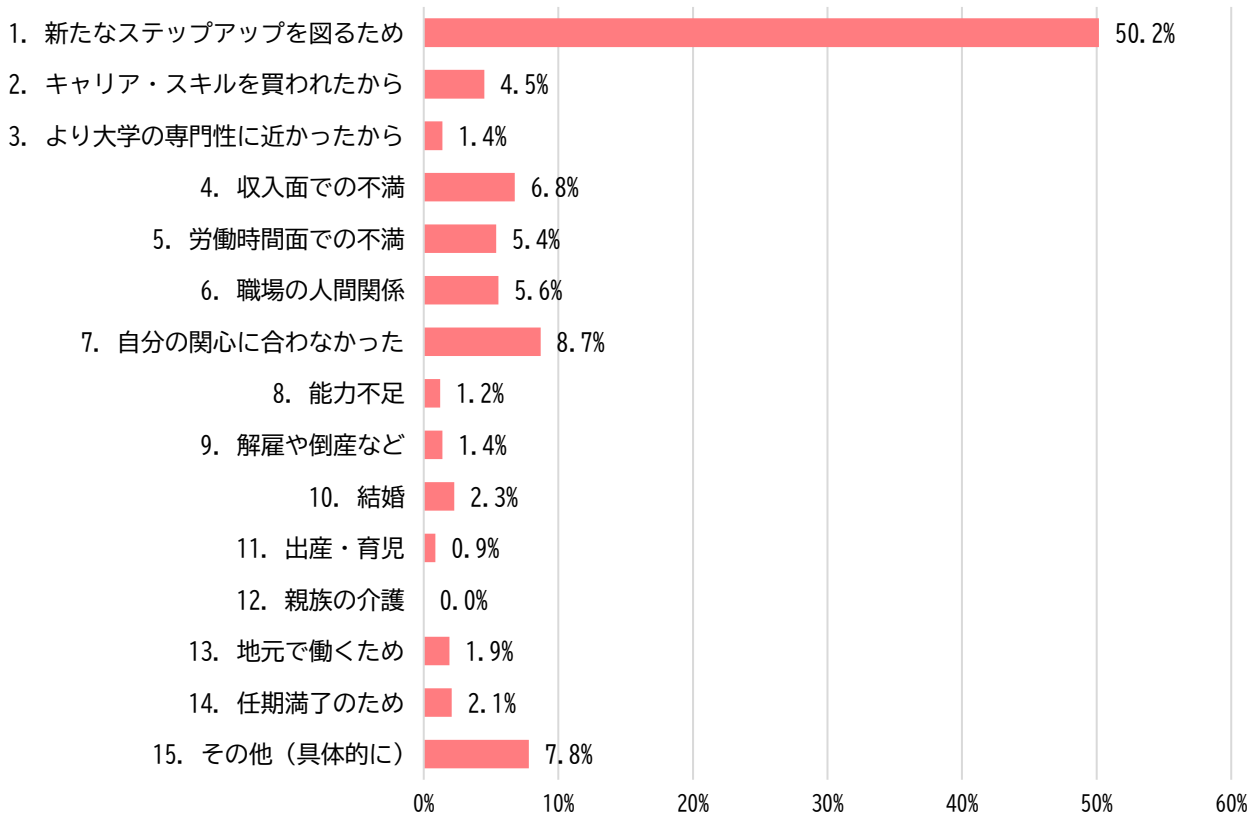
Q33. 学部・大学院等の卒業・修了後最初に就いたお仕事の勤続年数を記入してください。

Please indicate the number of years you worked at the first job you held after graduation/completion of undergraduate/graduate school.



Q34. 転職または辞職された理由は何ですか。

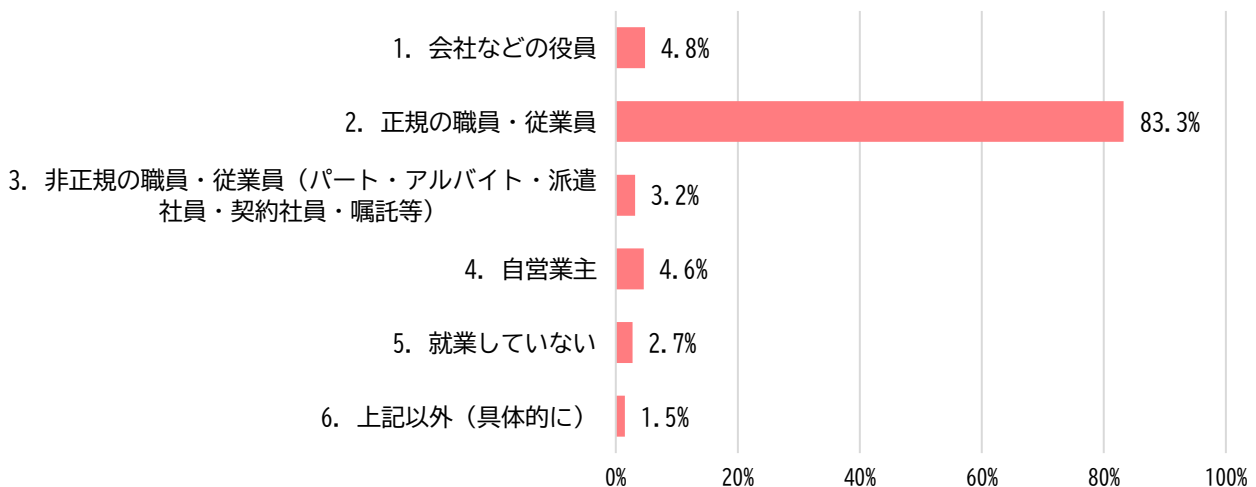
What were your reasons for changing jobs or resigning?



1. To take a new step forward. 2. Because my career and skills were highly valued. 3. Because it was closer to the field I studied at the university. 4. Dissatisfaction with income. 5. Dissatisfaction with working hours. 6. Workplace relationships. 7. Did not fit my interests. 8. Lack of ability. 9. Dismissals, bankruptcy, etc. 10. Marriage. 11. Childbirth and childcare. 12. Caring for relatives. 13. To work in one's home city. 14. Due to the expiration of the term of office. 15. Others (Please specify).

Q35. あなたの現在の就業形態について、該当するものを一つだけお選びください。

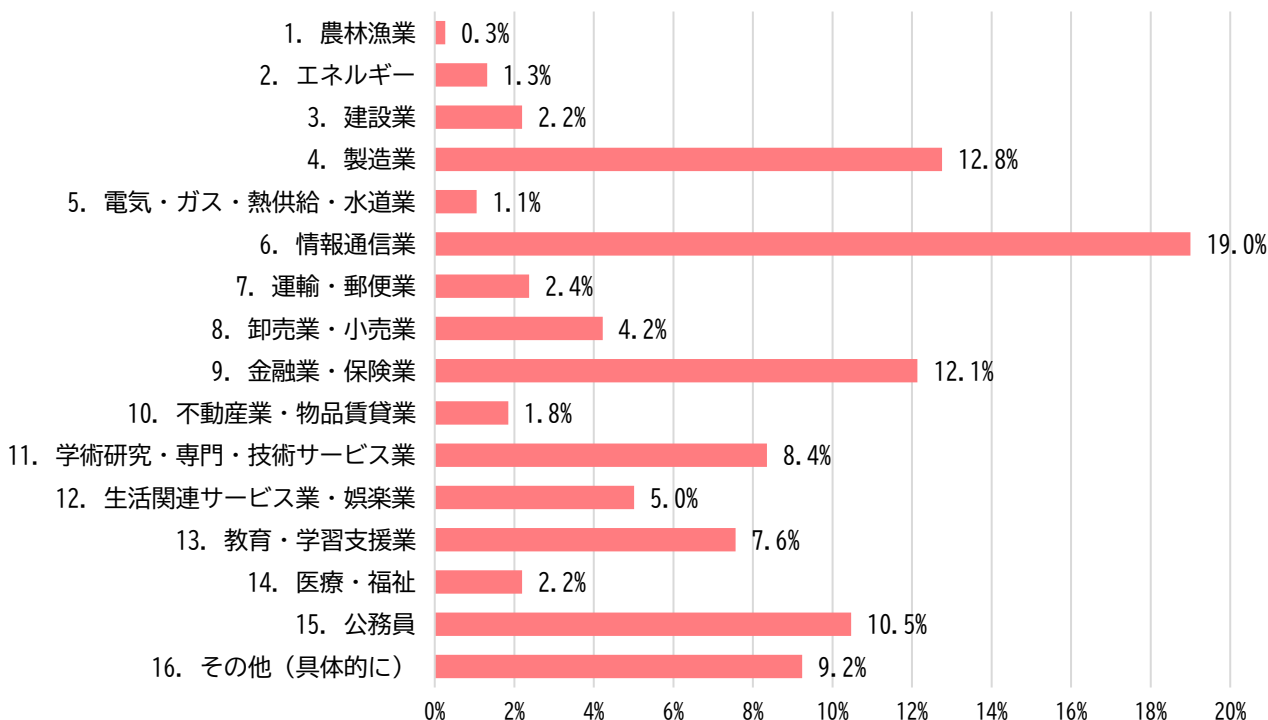
Please select only one applicable item regarding your current work status.



1. Director of companies, etc. 2. Regular staff/employee. 3. Part-time, temporary, and contract staff/employee. 4. Self-employed. 5. Do not work. 6. Other than the above (Please specify).

Q36. 現在働いている企業・団体等の業種について、該当するものを一つだけお選びください。

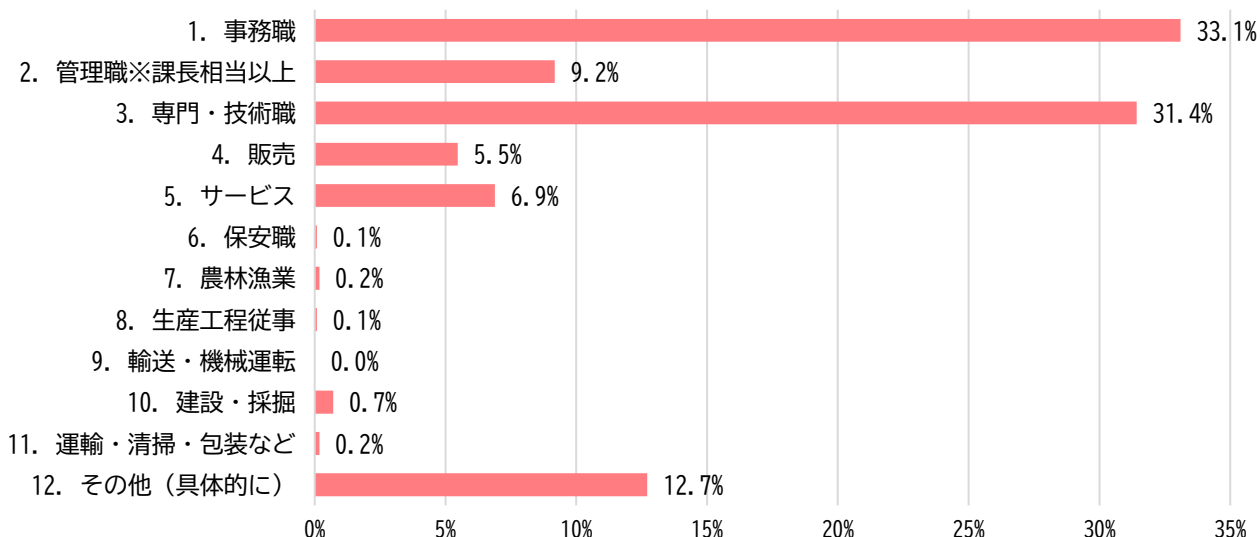
Please select only one applicable industry for the company/organization in which you are currently working.



1. Agricultural, forestry, and fishing industries. 2. Energy. 3. Construction. 4. Manufacturing. 5. Electricity, gas, heat supply, and water supply. 6. IT services. 7. Transportation and postal services. 8. Wholesale and retail. 9. Finance and insurance. 10. Real estate and goods rental. 11. Academic research, professional and technical services. 12. Lifestyle-related services and entertainment. 13. Education and learning support industry. 14. Medical and welfare. 15. Public servant. 16. Others (Please specify).

Q37. 現在働いている企業・団体等の職種について、該当するものを一つだけお選びください。

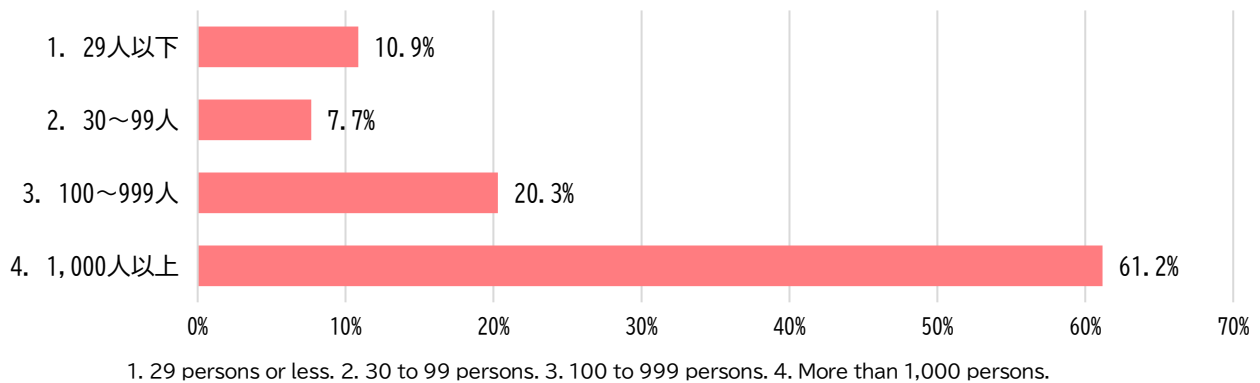
Please select only one applicable job title for the company/organization in which you are currently working.



1. Administrative position. 2. Managerial position (equivalent to section manager or above). 3. Professional/technical position. 4. Sales. 5. Service. 6. Security personnel. 7. Agriculture, forestry, and fishery. 8. Production process worker. 9. Transportation and machine operation. 10. Construction and mining. 11. Transportation, cleaning, packaging, etc. 12. Others (Please specify).

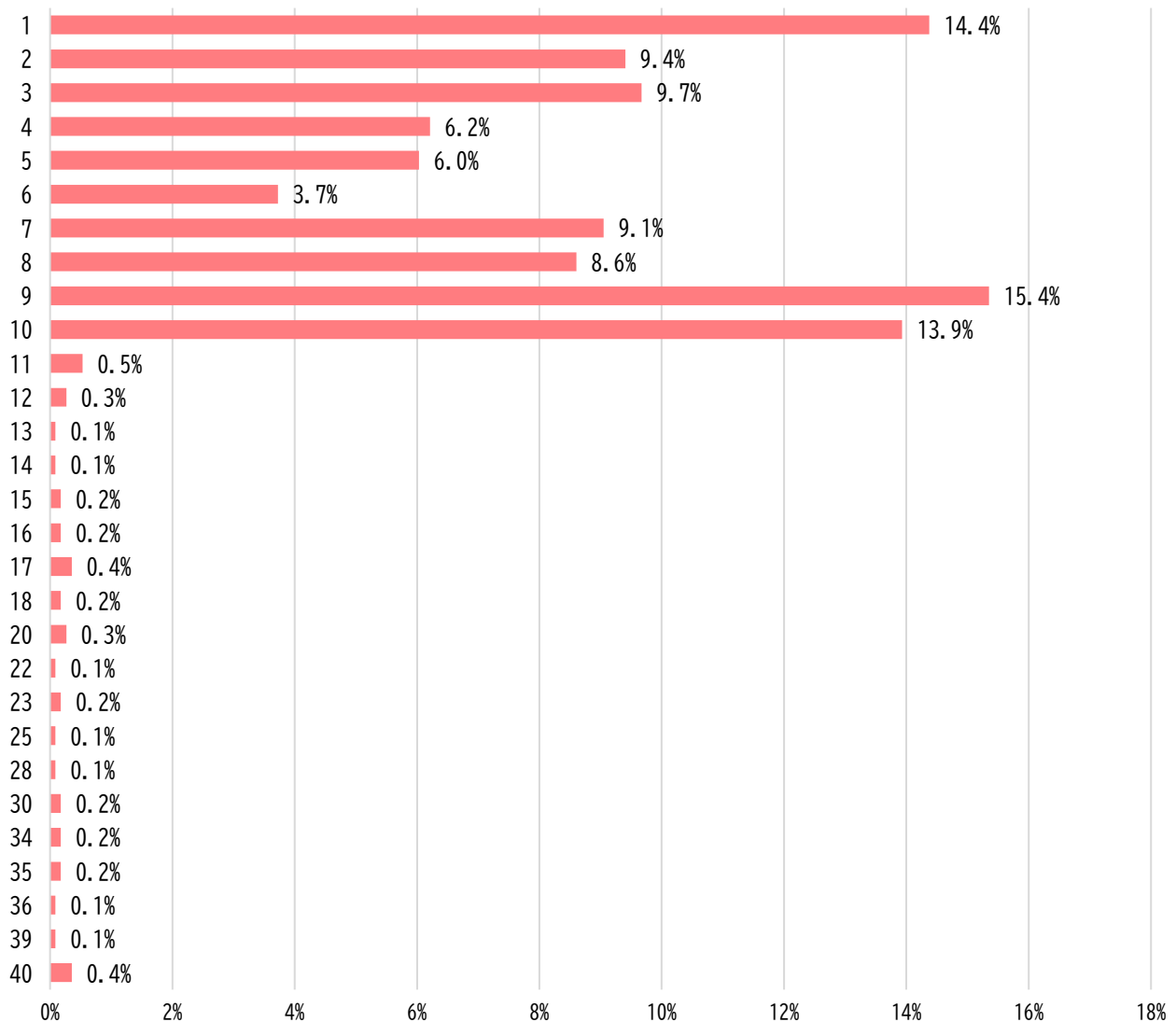
Q38. 現在働いている企業・団体等の従業員規模について、該当するものを一つだけお選びください。

Please select only one applicable item regarding the size of the workforce at the company/organization in which you are currently working.



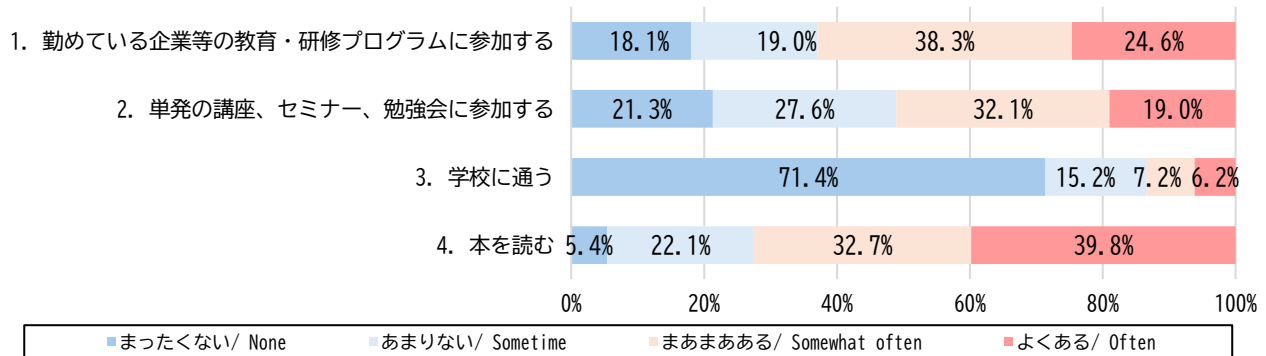
Q39. 現在のお仕事の勤続年数を記入してください。

Please indicate the number of years you have worked at your current job.



Q40. 現在の学習活動について、最もあてはまるものをお選びください。

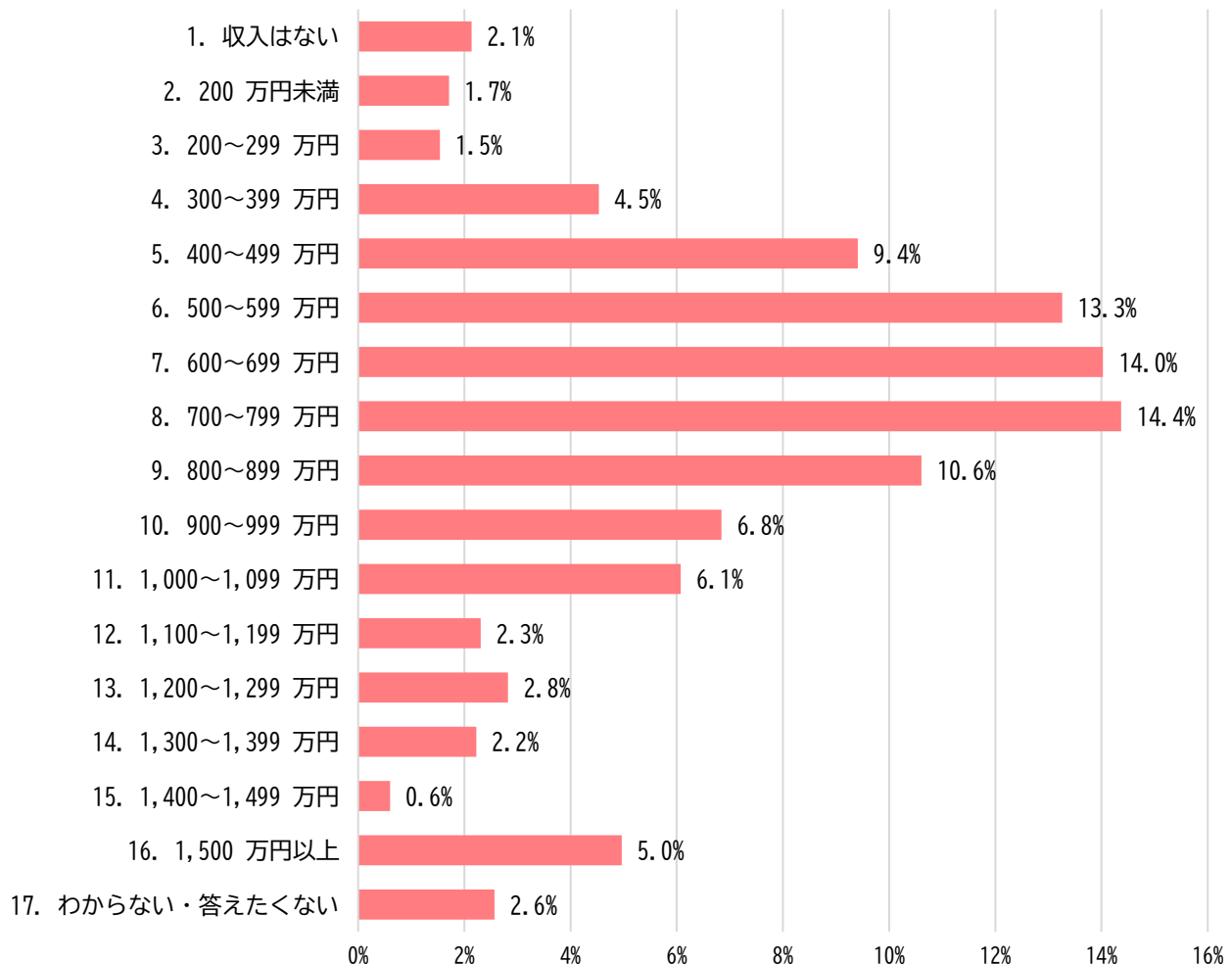
Please select the most applicable item about your current learning activities.



1. Participate in education and training programs at my company, etc. 2. Participate in one-off courses, seminars, and workshops. 3. Attend school. 4. Read books.

Q41. あなたの現在の年収（税込）について、該当するものを一つだけお選びください。

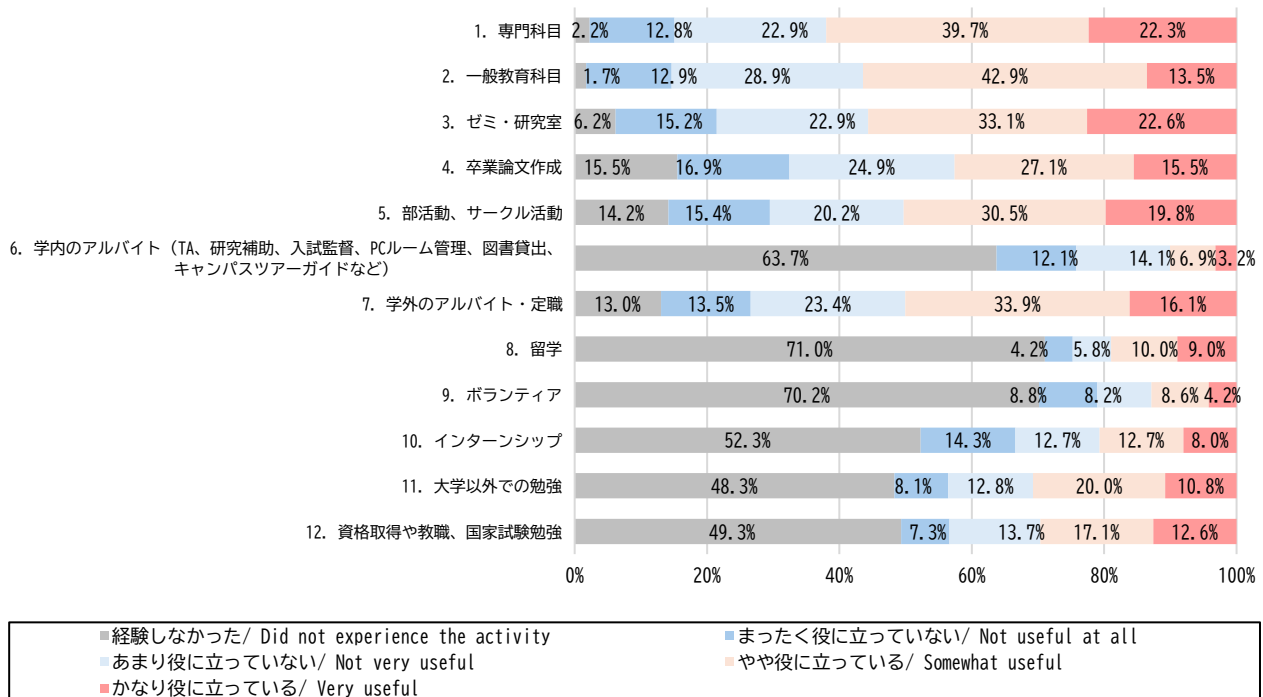
Please select only one item that applies to your current annual income (including tax).



1. No income. 2. Less than 2 million yen. 3. 2-2.9 million yen. 4. 3-3.9 million yen. 5. 4-4.9 million yen. 6. 5-5.9 million yen. 7. 6-6.9 million yen. 8. 7-7.9 million yen. 9. 8-8.9 million yen. 10. 9-9.9 million yen. 11. 10-10.9 million yen. 12. 11-11.9 million yen. 13. 12-12.9 million yen. 14. 13-13.9 million yen. 15. 14-14.9 million yen. 16. 15 million yen or more. 17. Do not know / Prefer not to answer.

Q42. あなたの学部時代の経験は、仕事にどの程度役立っていますか。

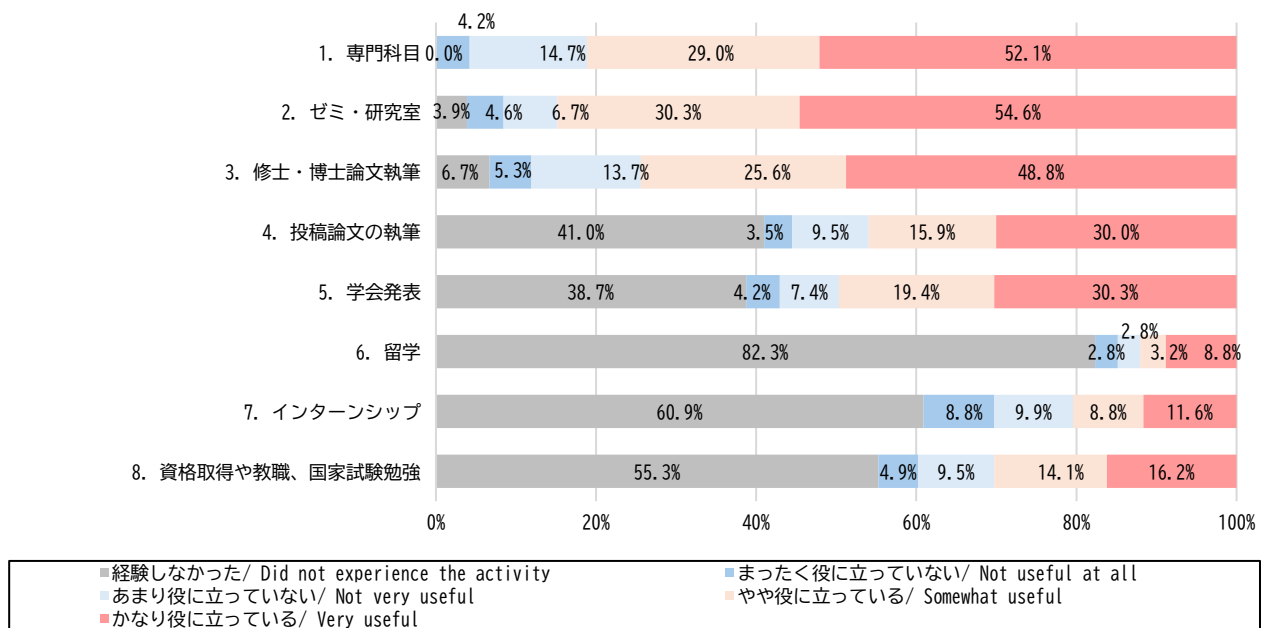
To what extent have your experiences in undergraduate school been useful for you in your job?



1. Specialized subjects. 2. General education subjects. 3. Seminars, laboratory activities. 4. Graduation thesis writing. 5. Club and circle activities. 6. Part-time jobs on campus. 7. Off-campus part-time jobs. 8. Study abroad. 9. Volunteering. 10. Internships. 11. Study outside of the university. 12. Study for certification, teaching, and national examinations.

Q43. あなたの大学院時代の経験は、仕事にどの程度役立っていますか。

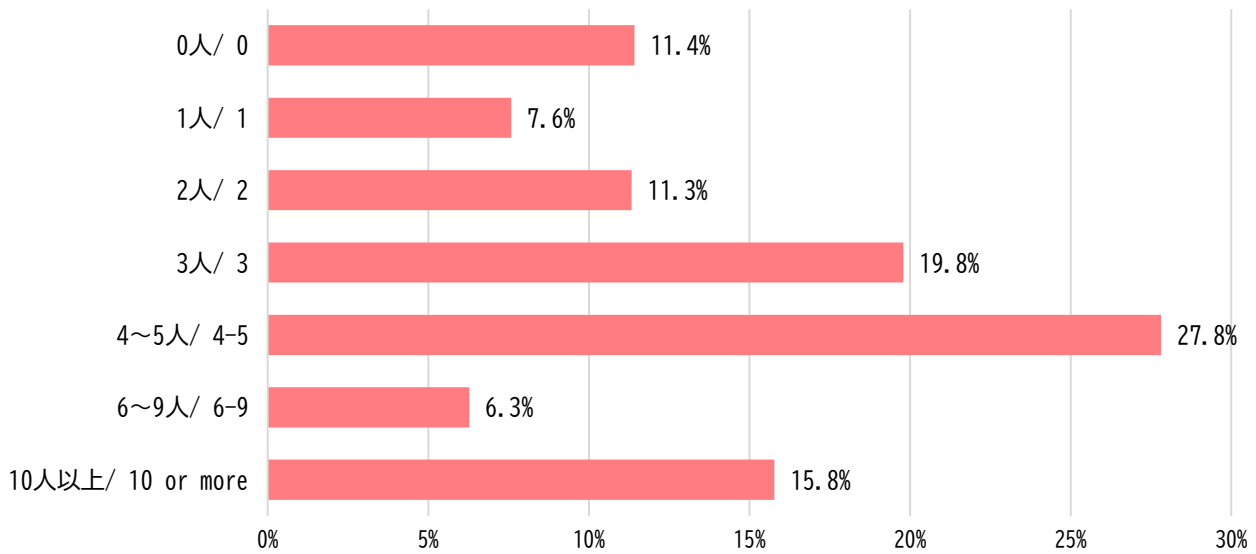
To what extent have your experiences in undergraduate school been useful for you in your job?



1. Specialized subjects. 2. Seminars, laboratory activities. 3. Writing master's and doctoral dissertations. 4. Writing submission papers. 5. Conference presentations. 6. Study abroad. 7. Internships. 8. Study for certification, teaching, and national examinations.

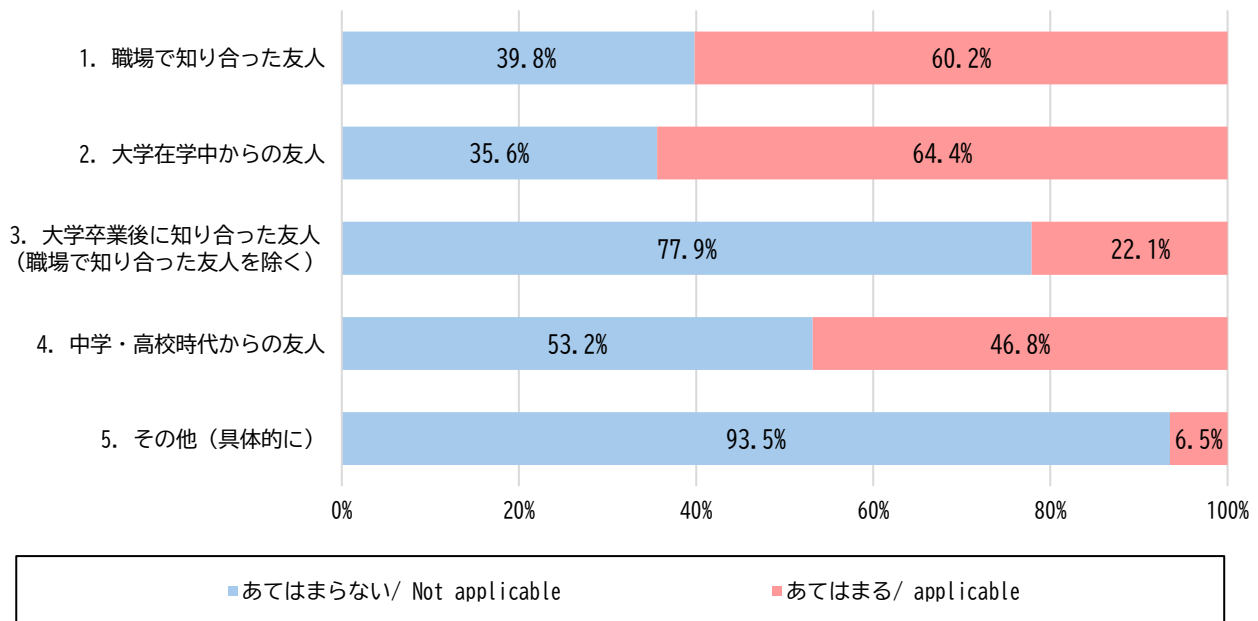
Q44. あなたは、仕事上の難しい問題に直面したときに、個人的に相談できる友人がどれくらいいますか。

How many friends do you have with whom you can consult personally when faced with difficult work-related problems?



Q45. その友人は、どのような関係にある方ですか。

What kind of relationship do you have with this friend/these friends?

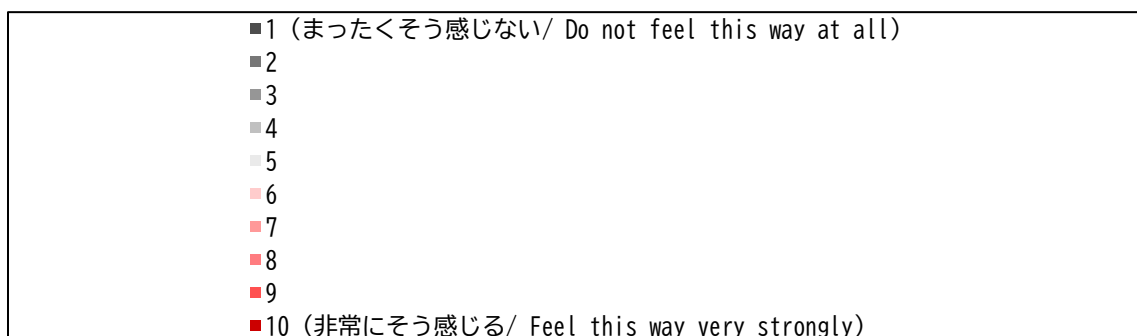
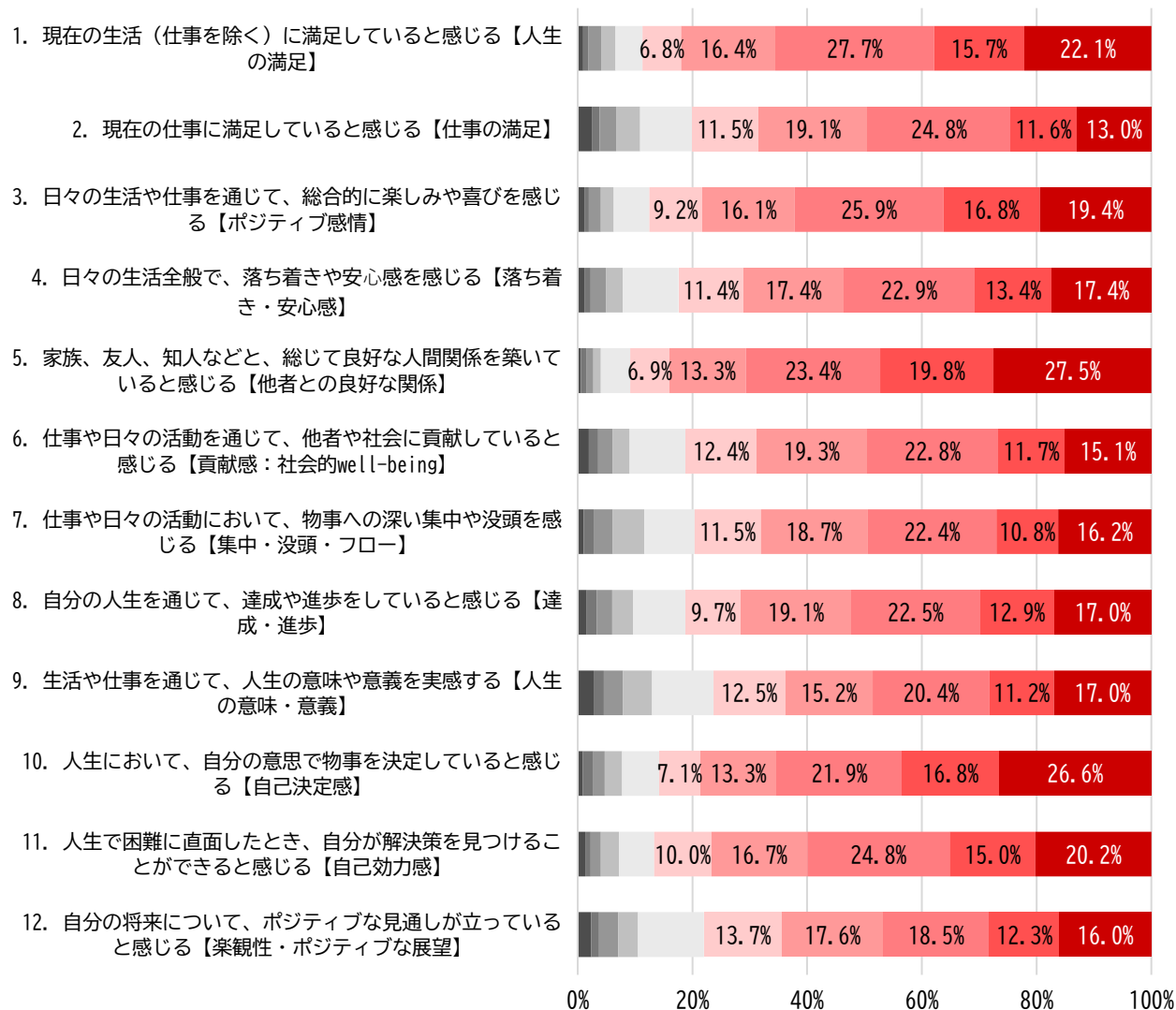


1. Friends I met at work. 2. Friends from university. 3. Friends I met after graduating from university (excluding friends from work). 4. Friends from junior high and high school. 5. Others (Please specify).

5. Well-being

Q46. あなたの現在の生活・仕事・人生は、どの程度望ましい状態にあると感じますか。

To what extent do you feel that your current life, work, and overall situation are in a desirable state?

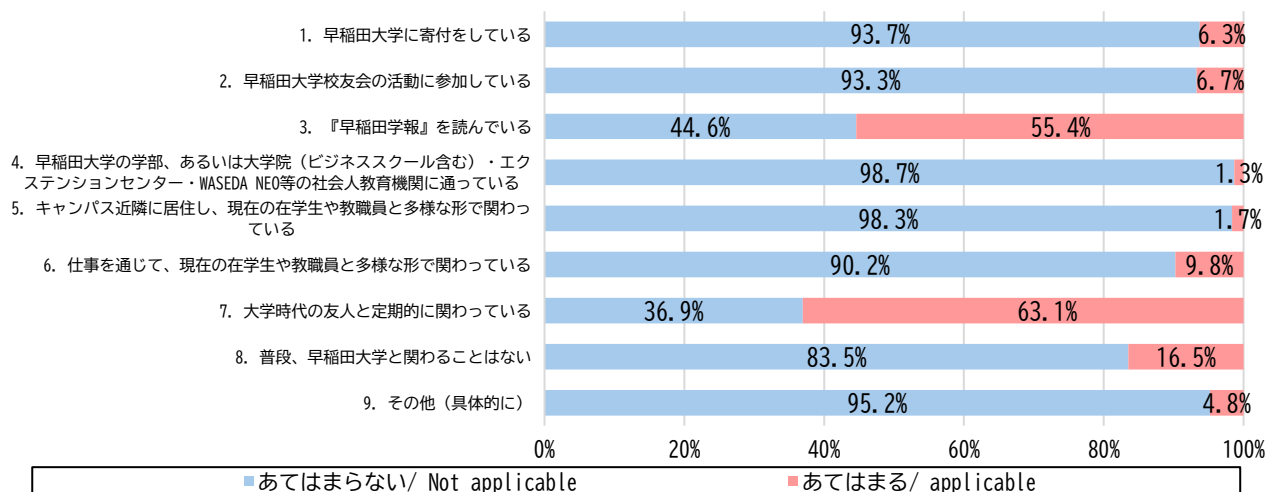


1. I feel that I am satisfied with my current life (excluding work). 2. I feel that I am satisfied with my current work. 3. I feel that I find pleasure and enjoyment through my daily life and work. 4. I feel that I am settled and secure in my daily life. 5. I feel that I have good relationships, generally, with family, friends, and others around me. 6. I feel that I contribute to others or society through my work and daily activities. 7. I feel that I am deeply focused or engaged in my work and daily activities. 8. I feel that I am making progress or achieving things through my life. 9. I feel that I find meaning and purpose in life through my daily life and work. 10. I feel that I make decisions in my life based on my own will. 11. I feel that I can find solutions when facing difficulties in my life. 12. I feel that I have a positive outlook on my future.

6. 卒後 10 年時点での関わり

Q47. あなたは早稲田大学の校友(こうゆう)として、現在、早稲田大学とどのように関わっていますか。

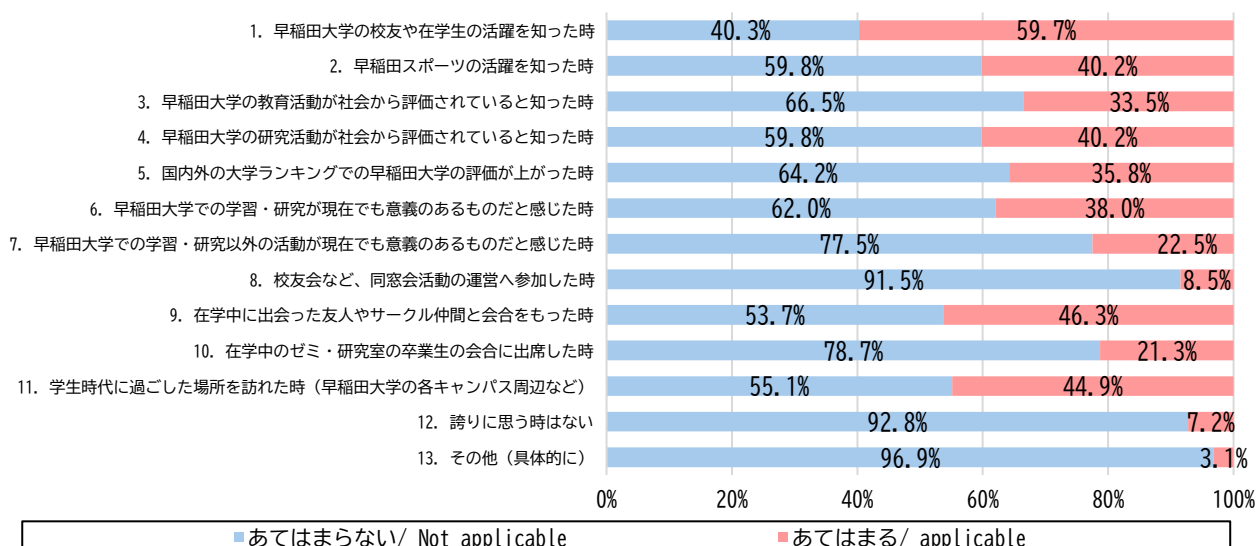
As a Waseda University Alumni (Koyu), how are you currently involved with Waseda University?



1. Donations to Waseda University. 2. Participating in Waseda University Alumni Association activities. 3. I read "Waseda Gakuho". 4. Attending Waseda University undergraduate or graduate schools (including the business school), the Extension Center, WASEDA NEO, or other educational institutions at Waseda University for working adults. 5. Living near campus and is involved in a variety of ways with current students, faculty, and staff. 6. Engaging with current students, faculty, and staff in a variety of ways through work. 7. Regularly involved with friends from the university. 8. Not usually involved with Waseda University. 9. Others (Please specify).

Q48. 早稲田大学の校友(卒業生)であることを誇りに思う時はどのような時ですか。

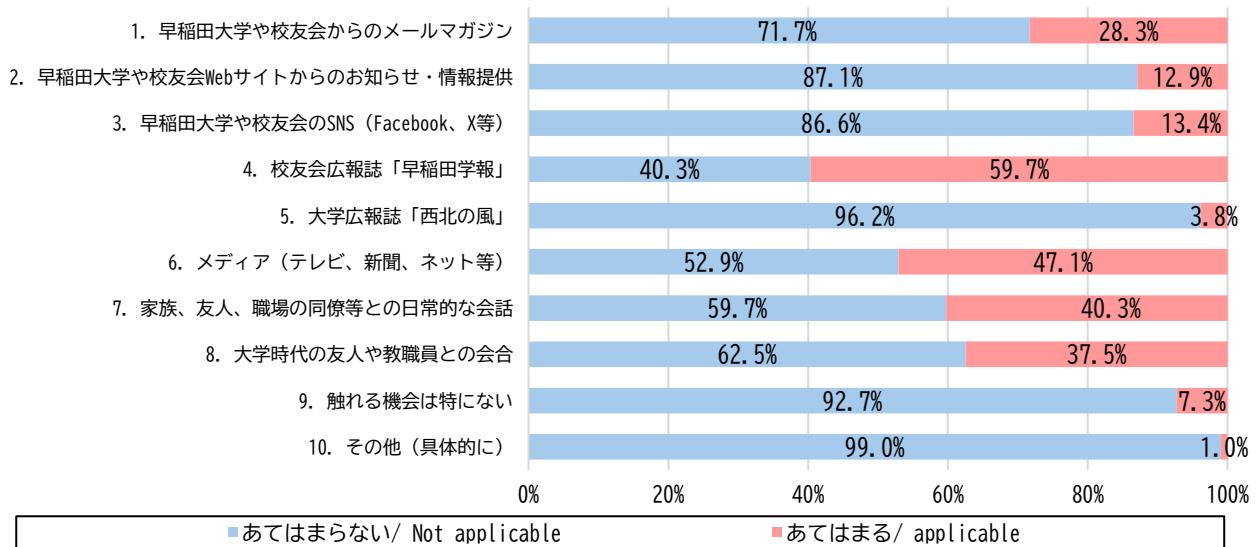
When do you feel proud to be an alumnus of Waseda University?



1. When I learn about the success of Waseda University alums and current students. 2. When I learn about the success of Waseda Sports. 3. When I learn that Waseda University's educational activities are highly regarded by society. 4. When I learn that Waseda University's research activities are highly regarded by society. 5. When Waseda University's reputation in domestic and international university rankings rise. 6. When I feel that my studies and research while enrolled at Waseda University are still meaningful today. 7. When I feel that the activities I engaged in other than study and research while enrolled at Waseda University are still meaningful today. 8. Participation in the management of alumni association activities, such as the Alumni Association. 9. When I meet with friends and circle friends, who I met while enrolled at Waseda University. 10. When I attend an alumni/alumnae meeting of the seminar or laboratory, which I was in while enrolled at Waseda University. 11. When visiting places where I spent time as a student (e.g., around the various campuses of Waseda University). 12. I never feel proud. 13. Others (Please specify).

Q49. あなたが早稲田大学に関する情報に触れる機会・手段として、どのようなものがありますか。

What opportunities/means do you have to access information about Waseda University?



1. Email newsletters from Waseda University and the Alumni Association. 2. Notices and information from Waseda University and the Alumni Association Web site. 3. SNS (Facebook, X, etc.) of Waseda University and Alumni Association. 4. The public relations magazine of the Alumni Association "Waseda Gakuho". 5. The university public relations magazine "Seihoku no Kaze". 6. Media (TV, newspapers, internet, etc.). 7. Daily conversations with family, friends, co-workers, etc. 8. Meetings with friends from the university, faculty, and staff. 9. No particular opportunity. 10. Others (Please specify).

IV. 調査データ〈単純集計表〉

1. 基本調査

Q01. あなたの性別について、あてはまるものをお選びください。

男	女	その他・分らない・答えたくない	合計
57.2% (759)	41.4% (550)	1.4% (19)	100.0% (1,328)

Q02. あなたの最終学歴について、あてはまるものを一つだけお選びください。

本学学部卒業	本学修士課程在学中	本学以外の修士課程在学中	本学修士課程修了	本学以外の修士課程修了	合計
72.1% (995)	0.5% (7)	0.9% (13)	19.3% (266)	2.5% (35)	100.0% (1,380)
本学博士課程在学中	本学以外の博士課程在学中	本学博士課程修了	本学以外の博士課程修了	その他（具体的に）	
0.3% (4)	0.3% (4)	3.0% (42)	0.5% (7)	0.5% (7)	

Q03. あなたが卒業した大学・学部名をお選びください。

早稲田大学	その他	合計
90.5% (1,241)	9.5% (130)	100.0% (1,371)

Q04. あなたが卒業した早稲田大学の学部名をお選びください。

政治経済学部	法学部	教育学部	商学部	社会科学部	人間科学部（通学）	人間科学部（通信）	合計
10.0% (123)	9.2% (114)	11.2% (138)	9.3% (115)	6.1% (75)	6.2% (76)	2.3% (28)	100.0% (1,234)
スポーツ科学部	国際教養学部	文化構想学部	文学部	基幹理工学部	創造理工学部	先進理工学部	
4.0% (49)	5.3% (66)	10.0% (123)	10.8% (133)	5.0% (62)	5.4% (67)	5.3% (65)	

Q05. あなたが修士課程を修了した、または在学している大学・研究科名をお選びください。

早稲田大学	その他	合計
83.4% (311)	16.6% (62)	100.0% (373)

Q06. あなたが修了または在学している早稲田大学の研究科名（修士課程）をお選びください。

政治学研究科	経済学研究科	法学研究科	文学研究科	商学研究科	教育学研究科	合計
4.2% (13)	1.9% (6)	1.9% (6)	5.8% (18)	2.3% (7)	6.1% (19)	100.0% (309)
人間科学研究科	社会科学研究科	アジア太平洋研究科	日本語教育研究科	情報生産システム研究科	法務研究科	
6.1% (19)	1.3% (4)	4.2% (13)	1.3% (4)	1.3% (4)	1.3% (4)	
会計研究科	スポーツ科学研究科	基幹理工学研究科	創造理工学研究科	先進理工学研究科	環境・エネルギー研究科	
1.6% (5)	3.2% (10)	13.6% (42)	11.3% (35)	17.8% (55)	1.0% (3)	

国際コミュニケーション研究科	経営管理研究科	国際情報通信研究科	公共経営研究科	ファイナンス研究科	教職研究科
1.0% (3)	12.0% (37)	0.0% (0)	0.0% (0)	0.0% (0)	0.6% (2)

Q07. あなたが博士後期課程を修了した（単位取得退学を含む）、または在学している大学・研究科名をお選びください。

早稲田大学	その他	合計
78.6% (44)	21.4% (12)	100.0% (56)

Q08. あなたが修了または在学している早稲田大学の研究科名（博士後期課程）をお選びください。

政治学研究科	経済学研究科	法学研究科	文学研究科	商学研究科	教育学研究科	合計
2.3% (1)	2.3% (1)	2.3% (1)	16.3% (7)	0.0% (0)	4.7% (2)	100.0% (43)
人間科学研究科	社会科学研究科	アジア太平洋研究科	日本語教育研究科	情報生産システム研究科	法務研究科	
11.6% (5)	2.3% (1)	2.3% (1)	0.0% (0)	2.3% (1)	2.3% (1)	
会計研究科	スポーツ科学研究科	基幹理工学研究科	創造理工学研究科	先進理工学研究科	環境・エネルギー研究科	
0.0% (0)	7.0% (3)	11.6% (5)	2.3% (1)	27.9% (12)	2.3% (1)	
国際コミュニケーション研究科	経営管理研究科	国際情報通信研究科	公共経営研究科	ファイナンス研究科	教職研究科	
2.3% (1)	0.0% (0)	0.0% (0)	0.0% (0)	0.0% (0)	0.0% (0)	

Q09. あなたの高校卒業時の居住地について都道府県名をお選びください（海外の場合は海外をお選びください）。

北海道	青森県	岩手県	宮城県	秋田県	山形県	福島県	茨城県	合計
1.5% (21)	0.2% (3)	0.3% (4)	0.4% (6)	0.2% (3)	0.2% (3)	0.8% (11)	2.3% (32)	100.0% (1,373)
栃木県	群馬県	埼玉県	千葉県	東京都	神奈川県	新潟県	富山県	
1.5% (20)	1.8% (25)	11.0% (151)	8.0% (110)	27.6% (379)	15.1% (208)	0.9% (13)	0.2% (3)	
石川県	福井県	山梨県	長野県	岐阜県	静岡県	愛知県	三重県	
0.3% (4)	0.0% (0)	0.5% (7)	0.9% (13)	0.2% (3)	2.3% (32)	2.8% (39)	0.7% (10)	
滋賀県	京都府	大阪府	兵庫県	奈良県	和歌山県	鳥取県	島根県	
0.4% (5)	0.8% (11)	1.7% (23)	1.7% (24)	0.4% (6)	0.3% (4)	0.1% (1)	0.1% (1)	
岡山県	広島県	山口県	徳島県	香川県	愛媛県	高知県	福岡県	
0.8% (11)	0.9% (12)	0.5% (7)	0.1% (2)	0.5% (7)	0.7% (9)	0.4% (6)	1.7% (23)	
佐賀県	長崎県	熊本県	大分県	宮崎県	鹿児島県	沖縄県	海外	
0.2% (3)	0.2% (3)	0.4% (5)	0.2% (3)	0.2% (3)	0.2% (3)	0.7% (9)	6.7% (92)	

Q10. あなたの現在の居住地について都道府県名をお選びください（海外の場合は海外をお選びください）。

北海道	青森県	岩手県	宮城県	秋田県	山形県	福島県	茨城県	合計
0.8% (11)	0.2% (3)	0.2% (3)	0.4% (6)	0.2% (3)	0.1% (1)	0.1% (2)	0.9% (13)	100.0% (1,374)
栃木県	群馬県	埼玉県	千葉県	東京都	神奈川県	新潟県	富山県	
0.9% (13)	0.5% (7)	7.3% (100)	5.2% (71)	52.3% (719)	12.4% (170)	0.3% (4)	0.1% (2)	

石川県	福井県	山梨県	長野県	岐阜県	静岡県	愛知県	三重県
0.2% (3)	0.0% (0)	0.1% (1)	0.6% (8)	0.1% (2)	1.1% (15)	2.0% (27)	0.2% (3)
滋賀県	京都府	大阪府	兵庫県	奈良県	和歌山県	鳥取県	島根県
0.1% (2)	0.9% (13)	1.5% (20)	0.7% (10)	0.1% (1)	0.1% (2)	0.0% (0)	0.0% (0)
岡山県	広島県	山口県	徳島県	香川県	愛媛県	高知県	福岡県
0.1% (2)	0.7% (9)	0.1% (2)	0.1% (1)	0.1% (2)	0.3% (4)	0.1% (2)	0.8% (11)
佐賀県	長崎県	熊本県	大分県	宮崎県	鹿児島県	沖縄県	海外
0.1% (1)	0.1% (1)	0.3% (4)	0.1% (2)	0.1% (1)	0.0% (0)	0.4% (5)	6.7% (92)

Q11. あなたのご両親の最終学歴をお選びください。

	中学卒	高校卒	高等専門 学校卒	専門学校・ 各種学校 卒	短大卒	大卒	大学院卒	わからない・ いない	合計
父親	1.5% (20)	13.8% (189)	1.7% (24)	4.1% (56)	0.9% (13)	65.2% (895)	10.9% (150)	1.9% (26)	100.0% (1,373)
母親	1.7% (23)	19.3% (264)	1.5% (20)	8.8% (120)	27.6% (378)	36.8% (505)	2.2% (30)	2.3% (31)	100.0% (1,371)

2. 大学入学前・在学時の学部経験

Q12. あなたが大学（学部）に入学した試験の形態を、次の選択肢の中から一つだけお選びください。

一般入試	指定校推薦	自己推薦・ＡＯ入試等	附属・系属校からの推薦	その他	合計
67.6% (838)	13.4% (166)	5.6% (70)	9.4% (117)	4.0% (49)	100.0% (1,240)

Q13. 入学した大学は第一志望でしたか。また、入学した学部は第一志望でしたか。

	第一志望であった	第一志望でなかった	合計
大学	68.9% (852)	31.1% (385)	100.0% (1,237)
学部	68.3% (835)	31.7% (387)	100.0% (1,222)

Q14. あなたは現役で入学しましたか（学部）。

現役	浪人	その他（社会人入学や編入学）	合計
71.4% (885)	24.7% (306)	3.9% (48)	100.0% (1,239)

Q15. 本学の受験を決めた理由として、次の項目はそれぞれどのくらいあてはまりますか。

	まったくあてはまらない	あまりあてはまらない	ややあてはまる	とてもあてはまる	合計
勉強したい分野がその学部にあったから	4.1% (45)	7.9% (88)	34.7% (386)	53.3% (592)	100.0% (1,111)
就職に有利であると思ったから	10.7% (119)	16.5% (183)	35.1% (389)	37.6% (417)	100.0% (1,108)
将来の希望する職業分野を勉強できるから	14.6% (162)	26.5% (293)	32.2% (357)	26.6% (295)	100.0% (1,107)
資格の取得が有利であるから	43.0% (476)	33.8% (374)	14.9% (165)	8.2% (91)	100.0% (1,106)
指導してほしい教員がその学部にいるから	52.3% (578)	31.6% (350)	11.0% (122)	5.1% (56)	100.0% (1,106)
学力（偏差値など）が適当であったから	5.8% (65)	12.4% (138)	40.9% (456)	40.9% (456)	100.0% (1,115)
進路選択の幅が広い学部があったから	13.7% (152)	18.4% (204)	30.8% (342)	37.1% (411)	100.0% (1,109)
高校の先生や家族または塾などで勧められたから	26.8% (297)	21.9% (243)	28.2% (312)	23.1% (256)	100.0% (1,108)
伝統・校風が好きだから	13.5% (150)	17.3% (192)	33.5% (373)	35.7% (397)	100.0% (1,112)
国際化が進んでいるから	32.3% (358)	31.8% (352)	22.6% (250)	13.3% (147)	100.0% (1,107)
留学プログラムが充実しているから	48.1% (532)	31.5% (349)	11.6% (128)	8.9% (98)	100.0% (1,107)

Q16. 高校卒業までに留学したこと、海外に住んでいたことはありますか。

ない	短期（数週間～3か月未満）	中期（3か月以上～約半年：1学期のみを含む）	長期（半年以上～：2学期以上を含む）	合計
81.9% (1,013)	8.9% (110)	0.2% (3)	9.0% (111)	100.0% (1,237)

Q17. 学部在学中において、次のような活動にどのくらい熱心に取り組んでいましたか。

	経験しなかつた	不熱心	やや不熱心	やや熱心	熱心	合計
専門科目	1.4% (17)	6.6% (81)	15.2% (186)	46.7% (573)	30.1% (369)	100.0% (1,226)
一般教育科目	0.9% (11)	8.7% (107)	24.0% (295)	48.5% (597)	17.9% (220)	100.0% (1,230)
ゼミ・研究室	4.8% (59)	8.1% (100)	14.5% (179)	36.0% (444)	36.5% (450)	100.0% (1,232)
卒業論文作成	15.4% (189)	7.7% (95)	14.3% (176)	33.7% (415)	28.9% (356)	100.0% (1,231)
部活動、サークル活動	11.6% (143)	9.8% (121)	11.9% (146)	27.5% (338)	39.2% (482)	100.0% (1,230)
学内のアルバイト (TA、研究補助、入試監督、PCルーム管理、図書貸出、キャンパスツアーガイドなど)	64.1% (788)	6.8% (84)	10.6% (130)	13.6% (167)	5.0% (61)	100.0% (1,230)
学外のアルバイト・定職	10.1% (124)	8.2% (101)	21.4% (264)	36.1% (445)	24.2% (298)	100.0% (1,232)
留学	72.1% (875)	2.9% (35)	3.7% (45)	9.5% (115)	11.8% (143)	100.0% (1,213)
留学以外の海外での学習・研究活動 (フィールドワークや学会発表など)	76.6% (941)	4.7% (58)	5.1% (63)	7.7% (95)	5.8% (71)	100.0% (1,228)
ボランティア	69.4% (853)	5.8% (71)	7.5% (92)	11.1% (137)	6.2% (76)	100.0% (1,226)
インターンシップ	49.1% (605)	8.4% (104)	13.6% (168)	19.4% (239)	9.3% (115)	100.0% (1,231)
大学以外での勉強	46.8% (573)	11.1% (136)	16.7% (205)	17.4% (213)	8.0% (98)	100.0% (1,225)
資格取得や教職、国家試験勉強	48.1% (591)	9.6% (118)	13.5% (166)	18.1% (222)	10.7% (132)	100.0% (1,229)
大学関係の活動 (学園祭、スポーツイベントなど)	41.8% (515)	11.0% (135)	16.4% (202)	18.9% (233)	11.9% (147)	100.0% (1,232)

Q18. 学部在学中に、以下のような経験をしましたか。

	まったくあてはまらない	あまりあてはまらない	ややあてはまる	とてもあてはまる	合計
図書館を利用した	1.8% (22)	5.4% (66)	18.4% (227)	74.4% (916)	100.0% (1,231)
読書 (漫画や雑誌を除く) をした	2.7% (33)	12.7% (156)	24.3% (299)	60.3% (742)	100.0% (1,230)
自分でテーマを決めて研究したり、その成果を発表したりした	13.6% (167)	16.9% (208)	28.3% (348)	41.2% (507)	100.0% (1,230)
授業内容について、他の学生と議論した	8.8% (108)	22.7% (279)	33.5% (411)	35.0% (430)	100.0% (1,228)
授業内容について、教員と議論した	20.8% (255)	29.0% (355)	24.1% (295)	26.1% (319)	100.0% (1,224)
語学の授業以外で、外国語で議論や発表をした	57.5% (707)	16.4% (201)	10.8% (133)	15.3% (188)	100.0% (1,229)
多様な背景 (国籍、言語、宗教など) を持った学生と交流した	32.3% (397)	21.9% (269)	23.1% (284)	22.8% (281)	100.0% (1,231)
授業の一環として大学外で学んだ (フィールドワーク等)	48.1% (590)	17.8% (218)	18.1% (222)	16.1% (197)	100.0% (1,227)
できるだけ授業を休まないようにした	7.3% (90)	20.0% (246)	29.5% (362)	43.2% (530)	100.0% (1,228)
よい教員に巡り会えた	6.4% (78)	17.1% (210)	35.3% (433)	41.3% (507)	100.0% (1,228)

Q19. 学部在学中に留学をしたことはありますか。

ない	短期（数週間～3か月未満）	中期（3か月以上～約半年：1学期のみを含む）	長期（半年以上～：2学期以上を含む）	合計
76.1% (938)	11.7% (144)	1.9% (24)	10.2% (126)	100.0% (1,232)

Q20. 学部在学中において、あなたの成績は、全体的に学部の中でどのあたりでしたか。

	下のほう	やや下	真ん中ぐらい	やや上	上のほう	合計
1～2年	9.5% (116)	13.1% (161)	35.7% (437)	24.6% (301)	17.1% (210)	100.0% (1,225)
3～4年	8.7% (107)	11.5% (141)	37.1% (455)	25.1% (308)	17.5% (215)	100.0% (1,226)

Q21. 学部で次のようなことをどの程度身につけましたか。

	身につけていない	あまり身につけていない	まあまあ身につけた	身についた	合計
新しいことに挑戦できる	4.6% (57)	17.3% (213)	48.9% (601)	29.1% (357)	100.0% (1,228)
既存の考え方にとらわれず、新しいアイデアを生み出せる	4.2% (51)	23.0% (282)	44.9% (551)	28.0% (343)	100.0% (1,227)
物事を論理的に考えることができる	3.7% (45)	14.0% (172)	44.8% (551)	37.5% (461)	100.0% (1,229)
課題の解決方法を提案できる	4.3% (53)	20.5% (252)	46.3% (569)	28.8% (354)	100.0% (1,228)
自分の考えを分かりやすく表現できる	3.8% (46)	19.9% (244)	47.5% (582)	28.9% (354)	100.0% (1,226)
相手の状況や考え方を尊重できる	3.8% (47)	15.0% (184)	46.7% (573)	34.5% (423)	100.0% (1,227)
物事を多面的に考えることができる	2.9% (36)	9.5% (117)	47.6% (584)	39.9% (490)	100.0% (1,227)
健全に批判することができる	5.0% (61)	24.4% (300)	43.2% (530)	27.4% (337)	100.0% (1,228)
公正な視点で多様性を受け入れられる	3.6% (44)	14.4% (177)	46.7% (574)	35.3% (433)	100.0% (1,228)
異文化を理解できる	8.3% (102)	21.9% (269)	37.1% (456)	32.7% (402)	100.0% (1,229)
外国語を理解し、話せる	23.4% (288)	35.0% (430)	24.7% (304)	16.9% (208)	100.0% (1,230)

3. 大学院入学前・在学時の経験

Q22. 本学大学院の受験を決めた理由として、次の項目はそれぞれどのくらいあてはまりますか。

	まったくあてはまらない	あまりあてはまらない	ややあてはまる	とてもあてはまる	合計
研究したい分野が本学にあったから	0.8% (2)	4.1% (11)	27.4% (73)	67.7% (180)	100.0% (266)
就職に有利であると思ったから	20.7% (55)	18.4% (49)	22.6% (60)	38.3% (102)	100.0% (266)
将来の希望する職業分野を勉強できるから	7.9% (21)	13.5% (36)	29.7% (79)	48.9% (130)	100.0% (266)
資格の取得が有利であるから	46.8% (124)	21.1% (56)	14.3% (38)	17.7% (47)	100.0% (265)
指導してほしい教員が本学にいたから	8.6% (23)	15.4% (41)	24.8% (66)	51.1% (136)	100.0% (266)
高校・大学の先生や家族などから勧められたから	51.3% (136)	23.0% (61)	13.6% (36)	12.1% (32)	100.0% (265)
伝統・校風が好きだから	23.8% (63)	21.9% (58)	24.9% (66)	29.4% (78)	100.0% (265)
国際化が進んでいるから	43.2% (115)	23.7% (63)	16.5% (44)	16.5% (44)	100.0% (266)
留学プログラムが充実しているから	63.9% (170)	20.7% (55)	8.6% (23)	6.8% (18)	100.0% (266)

Q23. 大学院在学中において、次のような活動にどのくらい熱心に取り組んでいましたか。

	経験しなかった	不熱心	やや不熱心	やや熱心	熱心	合計
専門科目	0.3% (1)	0.0% (0)	5.3% (17)	28.8% (92)	65.6% (210)	100.0% (320)
ゼミ・研究室	4.0% (13)	0.3% (1)	4.4% (14)	21.2% (68)	70.1% (225)	100.0% (321)
修士・博士論文執筆	6.5% (21)	0.3% (1)	6.2% (20)	20.2% (65)	66.7% (214)	100.0% (321)
投稿論文の執筆	42.0% (134)	4.4% (14)	7.2% (23)	18.2% (58)	28.2% (90)	100.0% (319)
学会発表	39.2% (125)	2.5% (8)	9.4% (30)	22.3% (71)	26.6% (85)	100.0% (319)
留学	81.4% (259)	2.2% (7)	2.5% (8)	4.4% (14)	9.4% (30)	100.0% (318)
留学以外の海外での学習・研究活動	64.9% (207)	2.2% (7)	5.6% (18)	13.2% (42)	14.1% (45)	100.0% (319)
インターンシップ	56.7% (181)	4.4% (14)	9.4% (30)	16.0% (51)	13.5% (43)	100.0% (319)
資格取得や教職、国家試験勉強	60.3% (191)	1.9% (6)	7.6% (24)	17.0% (54)	13.2% (42)	100.0% (317)

Q24. 大学院在学中に、以下のような経験をしましたか。

	まったくあてはまらない	あまりあてはまらない	ややあてはまる	とてもあてはまる	合計
図書館を利用した	4.4% (14)	6.6% (21)	15.0% (48)	74.0% (236)	100.0% (319)
読書（漫画や雑誌を除く）をした	5.4% (17)	8.5% (27)	21.1% (67)	65.0% (206)	100.0% (317)
自分でテーマを決めて研究したり、その成果を発表したりした	4.4% (14)	4.7% (15)	19.2% (61)	71.6% (227)	100.0% (317)
研究内容について、他の学生と議論した	3.8% (12)	6.0% (19)	17.3% (55)	73.0% (232)	100.0% (318)
研究内容について、教員と議論した	3.8% (12)	6.9% (22)	16.6% (53)	72.8% (233)	100.0% (320)
語学の授業以外で、外国語で議論や発表をした	39.0% (124)	10.4% (33)	15.4% (49)	35.2% (112)	100.0% (318)
多様な背景（国籍、言語、宗教など）を持った学生と交流した	24.1% (77)	11.6% (37)	23.4% (75)	40.9% (131)	100.0% (320)
授業の一環として大学外で学んだ（フィールドワーク等）	39.9% (127)	11.3% (36)	15.1% (48)	33.6% (107)	100.0% (318)
できるだけ授業を休まないようにした	2.5% (8)	4.4% (14)	15.7% (50)	77.4% (247)	100.0% (319)
よい教員に巡り合えた	3.8% (12)	7.2% (23)	22.3% (71)	66.8% (213)	100.0% (319)

Q25. 大学院在学中に留学をしたことはありますか。

ない	短期（数週間～3か月未満）	中期（3か月以上～約半年：1学期のみを含む）	長期（半年以上～：2学期以上を含む）	合計
87.3% (281)	5.9% (19)	1.9% (6)	5.0% (16)	100.0% (322)

4. 大学卒業（修了）時とその後

Q26. あなたは学部を4年間で卒業しましたか。

はい	いいえ	合計
84.1% (1,014)	15.9% (191)	100.0% (1,205)

Q27. あなたは学部卒業時にどのような進路選択をしましたか。

就職した	自分で事業（自営）を始めた	早稲田大学の大学院（修士課程）に進学した	他大学の大学院（修士課程）に進学した	就職活動を行った	合計
71.5% (864)	0.4% (5)	17.6% (213)	3.9% (47)	1.8% (22)	100.0% (1,208)
資格試験準備を行った	仕事に就かず、学校にも行かなかった	在学中に既に就職していた	家業を継いだ	その他（具体的に）	
0.7% (8)	0.9% (11)	1.0% (12)	0.2% (3)	1.9% (23)	

Q28. あなたは大学院（修士課程）修了時にどのような進路選択をしましたか。

就職した	自分で事業（自営）を始めた	早稲田大学の大学院（博士後期課程）に進学した	他大学の大学院（博士後期課程）に進学した	就職活動を行った	合計
55.7% (170)	1.3% (4)	12.1% (37)	3.0% (9)	6.2% (19)	100.0% (305)
資格試験準備を行った	仕事に就かず、学校にも行かなかった	在学中に既に就職していた	家業を継いだ	その他（具体的に）	
3.3% (10)	0.7% (2)	10.8% (33)	0.7% (2)	6.2% (19)	

Q29. あなたは大学院（博士後期課程）修了時にどのような進路選択をしましたか。

就職した	自分で事業（自営）を始めた	就職活動を行った	資格試験準備を行った	合計
80.0% (32)	5.0% (2)	5.0% (2)	2.5% (1)	100.0% (40)
仕事に就かなかった	在学中に既に就職していた	家業を継いだ	その他（具体的に）	
0.0% (0)	5.0% (2)	0.0% (0)	2.5% (1)	

Q30. 学部・大学院等の卒業・修了後最初の就職先を決定するに当たって最も重視したことは何ですか。

大学での専門分野との関連	業種	地域条件（勤務地・転勤の有無など）	規模	知名度やイメージ	国際性	経営方針	合計
13.8% (167)	34.6% (419)	6.1% (74)	2.1% (26)	9.2% (111)	4.3% (52)	3.3% (40)	100.0% (1,211)
安定性	給与	卒業生の存在	勤務時間・休暇・福利厚生など	在学中に既に就職していた	その他（具体的に）		
9.2% (111)	5.9% (71)	1.0% (12)	4.0% (48)	2.5% (30)	4.1% (50)		

Q31. 学部・大学院等の卒業・修了後最初の居住地について都道府県名をお選びください。

北海道	青森県	岩手県	宮城県	秋田県	山形県	福島県	茨城県	合計
1.2% (14)	0.3% (4)	0.2% (3)	0.5% (6)	0.1% (1)	0.2% (2)	0.3% (4)	1.3% (16)	100.0% (1,205)
栃木県	群馬県	埼玉県	千葉県	東京都	神奈川県	新潟県	富山県	
0.4% (5)	0.7% (9)	8.5% (103)	7.3% (88)	47.4% (571)	12.4% (150)	0.4% (5)	0.2% (3)	
石川県	福井県	山梨県	長野県	岐阜県	静岡県	愛知県	三重県	
0.3% (4)	0.1% (1)	0.2% (2)	0.3% (4)	0.2% (2)	1.3% (16)	3.1% (37)	0.2% (3)	
滋賀県	京都府	大阪府	兵庫県	奈良県	和歌山県	鳥取県	島根県	
0.1% (1)	0.7% (9)	2.7% (32)	1.6% (19)	0.2% (3)	0.2% (2)	0.0% (0)	0.0% (0)	
岡山県	広島県	山口県	徳島県	香川県	愛媛県	高知県	福岡県	
0.4% (5)	0.8% (10)	0.2% (2)	0.1% (1)	0.2% (3)	0.3% (4)	0.1% (1)	1.7% (20)	
佐賀県	長崎県	熊本県	大分県	宮崎県	鹿児島県	沖縄県	海外	
0.1% (1)	0.2% (3)	0.1% (1)	0.2% (3)	0.0% (0)	0.1% (1)	0.4% (5)	2.2% (26)	

Q32. 学部・大学院等の卒業・修了後最初に就いたお仕事は、現在も継続されていますか。

はい	いいえ	在学中に既に就職しており、 現在も継続している	在学中に既に就職していた が、現在は継続していない	合計
50.0% (606)	45.9% (556)	2.1% (25)	2.0% (24)	100.0% (1,211)

Q33. 学部・大学院等の卒業・修了後最初に就いたお仕事の勤続年数を記入してください。

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	10年以上	合計
8.7% (97)	8.1% (90)	9.0% (100)	6.6% (73)	8.1% (90)	5.9% (66)	9.4% (105)	9.6% (107)	17.2% (191)	13.8% (154)	3.6% (40)	100.0% (1,113)

Q34. 転職または退職された理由は何ですか。

新たなステップアップを図るため	キャリア・スキルを買われたから	より大学の専門性に近かったから	収入面での不満	労働時間面での不満	職場の人間関係	自分の関心に合わなかった	能力不足	合計
50.2% (289)	4.5% (26)	1.4% (8)	6.8% (39)	5.4% (31)	5.6% (32)	8.7% (50)	1.2% (7)	100.0% (576)
解雇や倒産など	結婚	出産・育児	親族の介護	地元で働くため	任期満了のため	その他（具体的に）		
1.4% (8)	2.3% (13)	0.9% (5)	0.0% (0)	1.9% (11)	2.1% (12)	7.8% (45)		

Q35. あなたの現在の就業形態について、該当するものを一つだけお選びください。

会社などの役員	正規の職員・従業員	非正規の職員・従業員（パート・アルバイト・派遣社員・契約社員・嘱託等）	自営業主	就業していない	上記以外（具体的に）	合計
4.8% (58)	83.3% (1,004)	3.2% (38)	4.6% (55)	2.7% (33)	1.5% (18)	100.0% (1,206)

Q36. 現在働いている企業・団体等の業種について、該当するものを一つだけお選びください。

農林漁業	エネルギー	建設業	製造業	電気・ガス・熱供給・水道業	情報通信業	運輸・郵便業	卸売業・小売業	合計
0.3% (3)	1.3% (15)	2.2% (25)	12.8% (145)	1.1% (12)	19.0% (216)	2.4% (27)	4.2% (48)	100.0% (1,137)
金融業・保険業	不動産業・物品賃貸業	学術研究・専門・技術サービス業	生活関連サービス業・娯楽業	教育・学習支援業	医療・福祉	公務員	その他（具体的に）	
12.1% (138)	1.8% (21)	8.4% (95)	5.0% (57)	7.6% (86)	2.2% (25)	10.5% (119)	9.2% (105)	

Q37. 現在働いている企業・団体等の職種について、該当するものを一つだけお選びください。

事務職	管理職※課長相当以上	専門・技術職	販売	サービス	保安職	合計
33.1% (375)	9.2% (104)	31.4% (356)	5.5% (62)	6.9% (78)	0.1% (1)	100.0% (1,133)
農林漁業	生産工程従事	輸送・機械運転	建設・採掘	運輸・清掃・包装など	その他（具体的に）	
0.2% (2)	0.1% (1)	0.0% (0)	0.7% (8)	0.2% (2)	12.7% (144)	

Q38. 現在働いている企業・団体等の従業員規模について、該当するものを一つだけお選びください。

29人以下	30～99人	100～999人	1,000人以上	合計
10.9% (123)	7.7% (87)	20.3% (230)	61.2% (693)	100.0% (1,133)

Q39. 現在のお仕事の勤続年数を記入してください。

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	合計
14.4% (162)	9.4% (106)	9.7% (109)	6.2% (70)	6.0% (68)	3.7% (42)	9.1% (102)	8.6% (97)	15.4% (173)	13.9% (157)	100.0% (1,127)
11	12	13	14	15	16	17	18	20	22	
0.5% (6)	0.3% (3)	0.1% (1)	0.1% (1)	0.2% (2)	0.2% (2)	0.4% (4)	0.2% (2)	0.3% (3)	0.1% (1)	
23	25	28	30	34	35	36	39	40		
0.2% (2)	0.1% (1)	0.1% (1)	0.2% (2)	0.2% (2)	0.2% (2)	0.1% (1)	0.1% (1)	0.4% (4)		

Q40. 現在の学習活動について、最もあてはまるものをお選びください。

	まったくない	あまりない	まあまあある	よくある	合計
勤めている企業等の教育・研修プログラムに参加する	18.1% (211)	19.0% (221)	38.3% (447)	24.6% (287)	100.0% (1,166)
単発の講座、セミナー、勉強会に参加する	21.3% (248)	27.6% (321)	32.1% (373)	19.0% (221)	100.0% (1,163)
学校に通う	71.4% (831)	15.2% (177)	7.2% (84)	6.2% (72)	100.0% (1,164)
本を読む	5.4% (63)	22.1% (257)	32.7% (381)	39.8% (463)	100.0% (1,164)

Q41. あなたの現在の年収（税込）について、該当するものを一つだけお選びください。

収入はない	200 万円未満	200 ～ 299 万円	300 ～ 399 万円	400 ～ 499 万円	500 ～ 599 万円	600 ～ 699 万円	700 ～ 799 万円	800 ～ 899 万円	合計
2.1% (25)	1.7% (20)	1.5% (18)	4.5% (53)	9.4% (110)	13.3% (155)	14.0% (164)	14.4% (168)	10.6% (124)	100.0% (1,169)
900～999 万円	1,000 ～ 1,099 万円	1,100 ～ 1,199 万円	1,200 ～ 1,299 万円	1,300 ～ 1,399 万円	1,400 ～ 1,499 万円	1,500 万円以上	わからない・答えたくない		
6.8% (80)	6.1% (71)	2.3% (27)	2.8% (33)	2.2% (26)	0.6% (7)	5.0% (58)	2.6% (30)		

Q42. あなたの学部時代の経験は、仕事にどの程度役立っていますか。

	経験しなかった	まったく役に立っていない	あまり役に立っていない	やや役に立っている	かなり役に立っている	合計
専門科目	2.2% (26)	12.8% (149)	22.9% (266)	39.7% (460)	22.3% (259)	100.0% (1,160)
一般教育科目	1.7% (20)	12.9% (150)	28.9% (336)	42.9% (498)	13.5% (157)	100.0% (1,161)
ゼミ・研究室	6.2% (72)	15.2% (177)	22.9% (266)	33.1% (384)	22.6% (262)	100.0% (1,161)
卒業論文作成	15.5% (180)	16.9% (196)	24.9% (289)	27.1% (314)	15.5% (180)	100.0% (1,159)
部活動、サークル活動	14.2% (164)	15.4% (178)	20.2% (234)	30.5% (354)	19.8% (229)	100.0% (1,159)
学内のアルバイト（TA、研究補助、入試監督、PC ルーム管理、図書貸出、キャンパスツアーガイドなど）	63.7% (740)	12.1% (140)	14.1% (164)	6.9% (80)	3.2% (37)	100.0% (1,161)
学外のアルバイト・定職	13.0% (151)	13.5% (157)	23.4% (271)	33.9% (393)	16.1% (187)	100.0% (1,159)
留学	71.0% (824)	4.2% (49)	5.8% (67)	10.0% (116)	9.0% (104)	100.0% (1,160)
ボランティア	70.2% (814)	8.8% (102)	8.2% (95)	8.6% (100)	4.2% (49)	100.0% (1,160)
インターンシップ	52.3% (606)	14.3% (166)	12.7% (147)	12.7% (147)	8.0% (93)	100.0% (1,159)
大学以外での勉強	48.3% (561)	8.1% (94)	12.8% (149)	20.0% (232)	10.8% (125)	100.0% (1,161)
資格取得や教職、国家試験勉強	49.3% (572)	7.3% (85)	13.7% (159)	17.1% (198)	12.6% (146)	100.0% (1,160)

Q43. あなたの大学院時代の経験は、仕事にどの程度役立っていますか。

	経験しなかった	まったく役に立っていない	あまり役に立っていない	やや役に立っている	かなり役に立っている	合計
専門科目	0.0% (0)	4.2% (12)	14.7% (42)	29.0% (83)	52.1% (149)	100.0% (286)
ゼミ・研究室	3.9% (11)	4.6% (13)	6.7% (19)	30.3% (86)	54.6% (155)	100.0% (284)
修士・博士論文執筆	6.7% (19)	5.3% (15)	13.7% (39)	25.6% (73)	48.8% (139)	100.0% (285)
投稿論文の執筆	41.0% (116)	3.5% (10)	9.5% (27)	15.9% (45)	30.0% (85)	100.0% (283)

学会発表	38.7% (110)	4.2% (12)	7.4% (21)	19.4% (55)	30.3% (86)	100.0% (284)
留学	82.3% (233)	2.8% (8)	2.8% (8)	3.2% (9)	8.8% (25)	100.0% (283)
インターンシップ	60.9% (173)	8.8% (25)	9.9% (28)	8.8% (25)	11.6% (33)	100.0% (284)
資格取得や教職、国家試験勉強	55.3% (157)	4.9% (14)	9.5% (27)	14.1% (40)	16.2% (46)	100.0% (284)

Q44. あなたは、仕事上の難しい問題に直面したときに、個人的に相談できる友人がどれくらいいますか。

0人	1人	2人	3人	4～5人	6～9人	10人以上	合計
11.4% (131)	7.6% (87)	11.3% (130)	19.8% (227)	27.8% (319)	6.3% (72)	15.8% (181)	100.0% (1,147)

Q45. その友人は、どのような関係にある方ですか。

	あてはまらない	あてはまる	合計
職場で知り合った友人	39.8% (422)	60.2% (637)	100.0% (1,059)
大学在学中からの友人	35.6% (377)	64.4% (682)	100.0% (1,059)
大学卒業後に知り合った友人(職場で知り合った友人を除く)	77.9% (825)	22.1% (234)	100.0% (1,059)
中学・高校時代からの友人	53.2% (563)	46.8% (496)	100.0% (1,059)
その他(具体的に)	93.5% (990)	6.5% (69)	100.0% (1,059)

5. Well-being

Q46. あなたの現在の生活・仕事・人生は、どの程度望ましい状態にあると感じますか。

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	合計
現在の生活（仕事を除く）に満足していると感じる【人生の満足】	1.0% (11)	1.0% (11)	2.2% (25)	2.5% (29)	4.7% (54)	6.8% (78)	16.4% (189)	27.7% (319)	15.7% (181)	22.1% (255)	100.0% (1,152)
現在の仕事に満足していると感じる【仕事の満足】	2.4% (28)	1.4% (16)	2.9% (33)	4.2% (48)	9.1% (104)	11.5% (132)	19.1% (219)	24.8% (285)	11.6% (133)	13.0% (149)	100.0% (1,147)
日々の生活や仕事を通じて、総合的に楽しみや喜びを感じる【ポジティブ感情】	1.1% (13)	0.8% (9)	2.1% (24)	2.3% (26)	6.2% (71)	9.2% (106)	16.1% (185)	25.9% (297)	16.8% (193)	19.4% (223)	100.0% (1,147)
日々の生活全般で、落ち着きや安心感を感じる【落ち着き・安心感】	1.1% (13)	1.1% (13)	2.7% (31)	2.9% (33)	9.7% (112)	11.4% (131)	17.4% (200)	22.9% (263)	13.4% (154)	17.4% (200)	100.0% (1,150)
家族、友人、知人などと、総じて良好な人間関係を築いていると感じる【他者との良好な関係】	0.5% (6)	1.0% (12)	1.1% (13)	1.3% (15)	5.1% (59)	6.9% (79)	13.3% (153)	23.4% (269)	19.8% (227)	27.5% (316)	100.0% (1,149)
仕事や日々の活動を通じて、他者や社会に貢献していると感じる【貢献感：社会的 Well-being】	1.9% (22)	1.7% (19)	2.5% (29)	3.0% (34)	9.8% (112)	12.4% (142)	19.3% (221)	22.8% (262)	11.7% (134)	15.1% (173)	100.0% (1,148)
仕事や日々の活動において、物事への深い集中や没頭を感じる【集中・没頭・フロー】	1.0% (12)	1.7% (20)	3.3% (38)	5.5% (63)	8.8% (101)	11.5% (132)	18.7% (214)	22.4% (257)	10.8% (124)	16.2% (186)	100.0% (1,147)
自分の人生を通じて、達成や進歩をしていると感じる【達成・進歩】	1.6% (18)	1.7% (20)	2.7% (31)	3.7% (42)	9.2% (106)	9.7% (111)	19.1% (220)	22.5% (259)	12.9% (148)	17.0% (195)	100.0% (1,150)
生活や仕事を通じて、人生の意味や意義を実感する【人生の意味・意義】	2.8% (32)	1.7% (20)	3.4% (39)	5.0% (58)	10.7% (123)	12.5% (144)	15.2% (175)	20.4% (234)	11.2% (129)	17.0% (195)	100.0% (1,149)
人生において、自分の意思で物事を決定していると感じる【自己決定感】	0.9% (10)	1.8% (21)	2.0% (23)	3.1% (35)	6.5% (74)	7.1% (82)	13.3% (153)	21.9% (251)	16.8% (193)	26.6% (305)	100.0% (1,147)
人生で困難に直面したとき、自分が解決策を見つめることができると感じる【自己効力感】	1.3% (15)	1.0% (11)	1.7% (20)	3.2% (37)	6.1% (70)	10.0% (115)	16.7% (192)	24.8% (285)	15.0% (172)	20.2% (232)	100.0% (1,149)
自分の将来について、ポジティブな見通しが立っていると感じる【楽観性・ポジティブな展望】	2.3% (27)	1.4% (16)	3.3% (38)	3.5% (40)	11.5% (132)	13.7% (157)	17.6% (202)	18.5% (213)	12.3% (141)	16.0% (184)	100.0% (1,150)

6. 卒後 10 年時点での関わり

Q47. あなたは早稲田大学の校友(こうゆう)として、現在、早稲田大学とどのように関わっていますか。

	あてはまらない	あてはまる	合計
早稲田大学に寄付をしている	93.7% (1,076)	6.3% (72)	100.0% (1,148)

早稲田大学校友会の活動に参加している	93.3% (1,071)	6.7% (77)	100.0% (1,148)
『早稲田学報』を読んでいる	44.6% (512)	55.4% (636)	100.0% (1,148)
早稲田大学の学部、あるいは大学院（ビジネススクール含む）・エクステンションセンター・WASEDA NEO 等の社会人教育機関に通っている	98.7% (1,133)	1.3% (15)	100.0% (1,148)
キャンパス近隣に居住し、現在の在學生や教職員と多様な形で関わっている	98.3% (1,129)	1.7% (19)	100.0% (1,148)
仕事を通じて、現在の在學生や教職員と多様な形で関わっている	90.2% (1,036)	9.8% (112)	100.0% (1,148)
大学時代の友人と定期的に関わっている	36.9% (424)	63.1% (724)	100.0% (1,148)
普段、早稲田大学と関わることはない	83.5% (959)	16.5% (189)	100.0% (1,148)
その他（具体的に）	95.2% (1,093)	4.8% (55)	100.0% (1,148)

Q48. 早稲田大学の校友（卒業生）であることを誇りに思う時はどのような時ですか。

	あてはまらない	あてはまる	合計
早稲田大学の校友や在學生の活躍を知った時	40.3% (461)	59.7% (684)	100.0% (1,145)
早稲田スポーツの活躍を知った時	59.8% (685)	40.2% (460)	100.0% (1,145)
早稲田大学の教育活動が社会から評価されていると知った時	66.5% (761)	33.5% (384)	100.0% (1,145)
早稲田大学の研究活動が社会から評価されていると知った時	59.8% (685)	40.2% (460)	100.0% (1,145)
国内外の大学ランキングでの早稲田大学の評価が上がった時	64.2% (735)	35.8% (410)	100.0% (1,145)
早稲田大学での学習・研究が現在でも意義のあるものだと感じた時	62.0% (710)	38.0% (435)	100.0% (1,145)
早稲田大学での学習・研究以外の活動が現在でも意義のあるものだと感じた時	77.5% (887)	22.5% (258)	100.0% (1,145)
校友会など、同窓会活動の運営へ参加した時	91.5% (1,048)	8.5% (97)	100.0% (1,145)
在学中に出会った友人やサークル仲間と会合をもった時	53.7% (615)	46.3% (530)	100.0% (1,145)
在学中のゼミ・研究室の卒業生の会合に出席した時	78.7% (901)	21.3% (244)	100.0% (1,145)
学生時代に過ごした場所を訪れた時（早稲田大学の各キャンパス周辺など）	55.1% (631)	44.9% (514)	100.0% (1,145)
誇りに思う時はない	92.8% (1,062)	7.2% (83)	100.0% (1,145)
その他（具体的に）	96.9% (1,109)	3.1% (36)	100.0% (1,145)

Q49. あなたが早稲田大学に関する情報に触れる機会・手段として、どのようなものがありますか。

	あてはまらない	あてはまる	合計
早稲田大学や校友会からのメールマガジン	71.7% (821)	28.3% (324)	100.0% (1,145)
早稲田大学や校友会 Web サイトからのお知らせ・情報提供	87.1% (997)	12.9% (148)	100.0% (1,145)
早稲田大学や校友会の SNS（Facebook、X 等）	86.6% (991)	13.4% (154)	100.0% (1,145)

校友会広報誌「早稲田学報」	96.2% (1,101)	3.8% (44)	100.0% (1,145)
大学広報誌「西北の風」	96.2% (1,101)	3.8% (44)	100.0% (1,145)
メディア（テレビ、新聞、ネット等）	52.9% (606)	47.1% (539)	100.0% (1,145)
家族、友人、職場の同僚等との日常的な会話	59.7% (684)	40.3% (461)	100.0% (1,145)
大学時代の友人や教職員との会合	62.5% (716)	37.5% (429)	100.0% (1,145)
触れる機会はない	92.7% (1,061)	7.3% (84)	100.0% (1,145)
その他（具体的に）	99.0% (1,134)	1.0% (11)	100.0% (1,145)

2025 年度 早稲田大学 卒業生調査 報告書
2026 年 7 月
早稲田大学 大学総合研究センター
(研究倫理番号：2021-366)

〒 169-8050 東京都新宿区西早稲田 1-6-1 (早稲田キャンパス 7 号館 4F)



WASEDA University
早稲田大学